

チユカリンスク	二・四九	エニセイスク	三・五四
ヤルトローフスク	四・〇〇	ツルーハンスク	四〇・九六
バルナウル	五・九六		
クルガン、オムスク、ペトロパウロフスク及クラスノヤールスク等の人口の増加は、一に此等諸市邑の優秀なる地理的位置存す。即ち或は大なる河川と西伯利鐵道幹線と交叉し、又は人口稠密にして農産物及畜産物の豊富なる地域の中心に位置するが爲なり。ノウオニコライエフスクの驚くべき人口増加は、此等兩原因の合一せし爲にして、西伯利鐵道の沿線にあらざる諸市邑の人口の増加は、遂に尠く増加率の大なるものも、單に所在郡内に多數の移民を渡來せし(ピースク、バルナウル、ダーラ等)か又は漁業の著しく發達せし(ツルハンスク)が爲に過ぎず。			
三、五十年間に於ける西伯利諸市邑の人口の増加(自一九一六〇〇年)			
トボリスク	割 二・一五	オムスク	割 五〇・三五
クルガン	八七・五四	阿克モリンスク	四八・一八
チユカリンスク	二五・六〇	ペトロパウロフスク	四二・〇八
チユトメン	一四・三六	セミバラチンスク	二三・九七

ヤルトローフスク	〇・二七	クラスノヤールスク	七二・七七
トムスク	三・〇九	アチンスク	二七・一八
バルナウル	三・一五	カンスク	五六・九〇
ピースク	五九・二九	ミヌーシンスク	二七・一〇
カインスク	一五・九七	ツルーハンスク	三一・六〇
クズネーツク	一三・〇九	ナルキム	〇・一一
マリインスク	四六・二三		

是に在りても西伯利市邑大部分の人口増加の二個の主因は、復た明瞭に表はれたり。即ち鐵道沿線に於ける優秀なる位置及び附近地域に於ける原料品製産力の増加是れなり。西伯利の諸市邑は、西伯利の一般的經濟力増進の影響を受けて著しく發達し、益々殷盛に向ひ、其貿易を増進し豫算を増加し、且つ諸市邑中河川の埠頭に接するものは他に比して其取引を増大せる事左表に依りて瞭らかなり。

商品交易の増加(單位千布度)

一九〇〇年	一九一〇年
二、五〇〇	七、一〇〇

ノウオニコイラエフスク	四、四〇〇	一九、五〇〇
オムスク	五、〇〇〇	一五、〇〇〇
クラスノヤールスク	一、四〇〇	七、五〇〇

西伯利各市の豫算の増加は、各市邑の膨脹を觀察するに於て到底看過すべからざる所なり。

イルクーツク	一九〇四年	一九二〇年(單位千留)
トムスク	一、〇三九・八	二、一〇〇・五
浦潮斯德	六四一・五	一、二〇五・二
ブラゴウエシチエンスク	四〇三・二	九八〇・〇
クラスノヤールスク	二六七・〇	七六〇・三
ノウオニコライエフスク	一八三・三	四八〇・五
トポリスク	七〇・九	六一四・四
バルナウル	一二六・四	二四〇・五
タルガン	一〇〇・〇	五六〇・〇
	一〇五・八	一七〇・〇

ピースク	四七・〇	二〇〇・〇
チタ	一一七・五	四三〇・〇

最近五ヶ年間西伯利二十市邑の豫算總額は、四百四萬二千九百留より八百九十七萬四千八百留即ち二倍強に増加せしが、露西亞本國內の八百二十六市の豫算は、此の期間に僅に五割を増進せしに過ぎず。

重要なる西伯利諸河港の一九〇九年中に於ける貨物の出入の延數量はトムスク凡そ八百萬布度、クラスノヤールスク九百萬布度以上、オムスク千四百萬布度、ノウオニコライエフスク二千萬布度にして、ノウオニコライエフスクの旅客の移動は、出發せしもの五百五十萬人なるも同地へ到着せしものはトムスクに比し三倍方多數なりき。

人口最も大なる市邑

トムスク	一八九七年に於ける人口調査	一九〇九年乃至一九一一年の資料に依る	*印は一九一三年調
イルクーツク	五二、四三〇人	一〇七、七一一人	一九一四年の資料に依る
オムスク	五一、四八四	一二三、二八八	九三、四〇〇
	三七、四七〇	一二七、八六九	*一三三、二八〇

ブラゴウエシチエンスク	三二、六〇六	七六、五四四	五六、四三六
チユーメン	二九、五八八	三〇、六〇〇	*四一、八四四
バルナウル	二九、四〇八	四五、七一四	七〇、四一二
浦潮斯德	二八、九八六	一二〇、〇〇〇	九九、二六五
クラスノヤールスク	二六、六五三	六二、〇〇〇	九〇、〇三四
セミバラチンスク	二六、三五三	二九、二八〇	*三六、九六四
トボリスク	二〇、四二七	三八、〇〇〇	三一、三六一
ハバロフスク	一四、九三二	五〇、〇二六	五五、八三八
チタ	一一、四八〇	七三、一一四	七七、八〇〇
ノウオニコライエフスク	八、四七三	七〇、〇〇〇	八九、三一九
ニコリスクウスリスク	八、九三二	三二、一八二	三六、九九三
ベトロバウロフスク	二一、七四〇	四三、二四八	*四一、五三九
(アクモリンスク州)			

●西伯利は殆ど農業に従事する住民のみを有する(約九割二分)地方にして、是は同地に於ける製造工業及商業の發達の極めて遅々たるが故なり。或る一部の市邑に於ける人口の驚くべき増加は、同地に於ける製造工業の發達に由來するにあら

ずして、一に此等の市邑が其地理的位置の爲に之に接近する人口稠密にして製産力旺盛なる諸地域の原料品積出地及貨物の集散地たるに至りし事に職由す。

トボリスク縣の最も重要なる商業中心地たるチユーメンは、ベルム、コツラスク鐵道に向ふ西伯利貨物に對する水路の要衝なるも、西伯利鐵道の開通と共に衰弱しつゝあり。トボリ、ツォラ兩河の水量の小なると、兩河に於ける水閘の設備の不良なるとは、チユーメンの經濟的價值を減殺し又トボリスクよりする軌道の敷設、アトバサルとベルム、エカテリンブルグ鐵道の一驛ボグダノウイチとの連絡殊にオビ、ウオルガ兩河流域の連絡は、往時西伯利に於ける唯一の「門戸」たりしチユーメンに害を及ぼす事多し。トボリスクの經濟的價值は、極めて尠く、其商工業は殆ど云爲するに足るものなく、附近地域は人口稀少にして貧困なり。されば之を般盛ならしめんには、オビ河下流に於ける漁業の一大發達を期し特に鐵道幹線と連絡すべき枝線を敷設せざるべからず、トボリスク縣の北部には漁業及柔毛皮の中心地たるオブドルスク發展しつゝあるも、ベレンソフは衰滅に瀕し、其住民は同郡内に新商業中心地出現して商業の中心同地を離れたるが故に之を村に變更せんととの運動を起しつゝあり。チユーメン、オムスク鐵道の開通と共に、ヤルトローフ

スク殊に隣接諸地域より原料を吸收する地點たるイシムは、殷盛に赴くこと期して待つべし。西部西伯利肥沃地の中心、及西伯利全體に於て最も人口稠密なる地域に位置するクルガンは其發達迅速且つ顯著にして、同地に於ける穀物、牛酪、畜産物の商業及製粉業、釀酒業は益々發達しつつあり。曠原地方貿易に於て最良の價値を有するベトロパウロフスクは、管に阿克モリンスク州の大部分のみならず、セミバラチンスク、セミレチンスク及ツルガイスク州の一部に對しても尙強大なる經濟的勢力を有し、外國へ仕向らるゝ多量(約三千萬布度)の畜産物及牛酪を吸收す。西伯利に於て最も人口多き市邑たるオムスクの急速なる經濟的發展は、セミバラチンスク全州より同地へ穀物及産物を送附するイルツイシユ河と西伯利鐵道の交叉點に占據する絶大なる地理的地位に負ふ所尠からず。斯の幸福なる地理的位置を有し、歐露に最も近接せる西伯利の中心地としてのオムスクは、西伯利産原料品購入上の一大取引中心地及び製造工業製品并に農業用機械類の大なる集積地たり。セミバラチンスクは、廣大なる南部曠原地方産原料品を吸收し、且つ附近曠原地方及猶且つ隣接せる中央亞細亞領土に對する貨物の集積地として、今や完成せるセミバラチンスク鐵道を利用して西伯利鐵道幹線に出で盛んに經濟的勢力を

伸張しつつあり。其經濟的發展の點に於て全西伯利に比を見ざるノイウオニコライエフスクは、恰も二十三年前當時建設中なりしオビ驛附近に一小村として創始されしものにして、一九〇四年に於ける同地の人口は、僅に一萬五千人を算せしに過ぎざりしも、其地理的位置は、同地の經濟的價値をも定めたり。即ち人口稠密にして土地肥沃なる亞爾泰地方は、同地に從屬す。されば同地將來の發展は何等疑を挾むの餘地なく、永久に原料品の集積地たり。且つ富裕にして廣大なる諸地域に對する絶好の貨物集積地たるや必せり。縣内北部池沼多くして道路に乏しき部分に位置し、且つ僅に枝線に依りて西伯利鐵道幹線と連絡せるトムスクは、益々其價値をノイウオニコライエフスクに奪はれつつあり、其工業も云爲するに足るものなく集積地としての商業的位置は既にノイウオニコライエフスクに奪はれたり。西伯利商業の性質を一變せしめし鐵道及同地の不利益なる地理的位置は、貨物集積地たる同地の從來の地位を減殺せり。又縣を兩分せし以來同地の行政的勢力も減小せり。高等學校以下學校數の多き爲に、同地は往時の「西伯利の莫斯科」より「西伯利の雅典」に變せしも、其經濟的價値は益々減じつつあり。然れども縱し其規模は廣大なる地域を對手とするノイウオニコライエフス

クに比すべくもあらざるも、附近地域に對して同地と同一の機能を有するバルナウルは、トムスクと同日に論ずべからず。バルナウルは穀物商業の甚だ重要な地點にして、地方的工業たる所謂バルナウルカと稱する皮裘、麥稈帽、農業用機械の製造及びビノムキ製造業(鹿皮製長靴)發達し向後益々發達すべきが故に、亞爾泰地方の創設と共に同地は行政的中心地たる意義をも獲るに至るべし。ピースクは經濟上極めて重要な地點なり。即ち同地を起點としてオビ河を下向する汽船の交通あり。又亞爾泰に到る三個の陸路を有し、其一是亞爾泰連山の西部(ウステカメノゴールスク)に至り、東方に於てはテレツコエ湖、及支那國境に達す(四〇八頁參照)。廣大なる穀物地域の中心たるピースクは、巨額の穀物をオビ河に依りて下流方向へ搬出し、且つ亞爾泰地方の採金地域へ之を供給するも軌道の敷設と共に同地の價值は、バルナウルの如く更に一層増加すべし。鐵道幹線とエニセイ河の交叉點に位置せるクラスノヤールスクは、極めて著しく發達せるも將來更に發展すべき凡ゆる素質を有し、富裕なるミヌーシンスク地方より各種貨物(粒穀、皮革、酒類、肉類等)約六億布度を吸収し、且つ南北兩方面へ仕向けらるゝ諸商品(茶、石油、雜貨、農業用機械)の集散地たり。ミヌーシンスクの價值は、アーチンスクに到る軌道の

開通あるに於ては同地方に豊富なる原料品の積出地として更に一層殷盛を極むべく穀物及肉類は同地より益々イルクーツク縣及後貝加爾に到る迄輸送さるべし。エニセイスクは曾て東西兩西伯利を連繫せし唯一の中繼地たりしも、今や採金業の減衰と共に衰滅に瀕しつゝあるも、之をして殷盛ならしむるものは、唯北方海路の開拓の外なし。エニセイ河の下流に於て盛大なる漁業は、同市の發達に影響する處大なるものなし。是れ該漁業が漸次在エニセイスク事業家の手より一時的外來者の手に轉じつゝあるが爲めなり。イルクーツクは現在事實に於て漸次疲弊に傾きつゝある中心地なり。何等の工業を有せざる同地は、從來オレクメン、ウイーチム河系の採金地に向ふ商品の集積地として重要なりき。同地に搬出さるゝ食料品及商品の主要なる需要者の一は、レナ礦山管區の諸採金地にして其需要に應ずる爲には、年額約百五十萬布度の各種商品食料品及材料等を搬送せり。更に枯草(約三十萬布度)蔬菜(約十萬布度)及家畜(約四千頭)等の搬出を見る。出送さるゝ全穀類及馬糧の三分の一は、レナ河岸より送致せられ、三分の二はアンガラ河及バラガンスク郡より送致せらる。若し夫れ採金地宛貨物にヤクーツク及他の沿レナ地方に宛つる貨物を加算せんか、鐵道輸送貨物の正確なる總量は六百

萬乃至八百萬布度に達すべし。西伯利鐵道幹線はイルクーツクを圍繞する地域の人口稀少且つ貧困にして同線に多くの貨物を供給し能はざるは同市をして衰頹せしむる一因を成す。即ち之を例へば魚類貨物(専ら貝加爾より出づる)一八九〇年には僅に六萬九千九百一十布度を算せしに過ぎざるが如く同市よりの出荷貨物は常に貧少なるを免かれず。一九〇七年イルクーツクに於ては、其取引高三千七百九十四萬留、工業的企業千百三十六個を有せしが、一九一〇年に至りては、企業數二千百三十一個に増加せしも、取引高は二千七百六十九萬五千八十五留に減じ、又曩時同地に止り居たる西方よりの貨物の集積も、今や同地以遠の東方へ通過するに至れり。鐵道に依る沿レナ地方と西伯利鐵道幹線(ツールン、ウスチクツ)との直接連絡、及ウエルフネウーヂンスクと恰克圖、庫倫との直接連絡は、更に一層イルクーツクの經濟的價値を奪ふに至らん。舟楫の便あるセレンガ河畔に位し、且つ後貝加爾の人口多き穀産地と近接せるウエルフネウーヂンスクの有利なる位置は、此の市邑をして庫倫に至る鐵道の開通と共に更に一層大なる發展を致すべき重要な地方的經濟的中心地たらしむるや必せり。チタは後貝加爾の大部分に對する商業中心地として急速に發達しつゝあり。後貝加爾天然礦産物の近き

將來に於ける採掘は、其影響本市の發達に及ぶこと更に顯著なるものあるべし。スレーチエンスクの經濟的發展は、一に汽船航行の起點たるシルカ河畔にある其の位置に依存するも、同河水量の益々減少しつゝある事と既に開通せる黑龍鐵道とは、同地に惡影響を與ふること蓋し尠少ならざるべし。從來茶の中介貿易を一手に營める恰克圖の商業的價値は、庫倫迄鐵道を開通せしむる事に依りて著しく昂上せしめ得べし。是れ近時蒙古住民間に著しく世界的貿易に對する注意と自覺とを生じたるが爲なり。黑龍沿道の諸市は其行政的意義以外、經濟的及貨物集散地としての特別の意義を獲つゝあり。即ち北方採金地及既に開通せる黑龍鐵道に穀物及び肉類を送附し、且つ此種貨物を河流に依り下方へ搬送しつゝあり。滿洲より粒穀及家畜を輸入する貿易地たるブラゴウエシチエンスクは、黑龍鐵道の開通と共に今や西伯利鐵道の幹線と相距れるも、滿洲と西伯利との重要な連契點たること依然として毫も經濟的價値を失墜することなかるべし。ニコライエフスクは黑龍江漁業の中心地及海港として一大價値を有し、同港よりは茶及魚類を包含せる各種の商品を黑龍江の上流へ出送す。浦潮斯德の經濟的價値は、其一大海港にして全黑龍沿道之を部分的にせば南部烏蘇里地方に對する大なる地

方的輸出地たる點に止まらず、全西伯利唯一の大海口を成し、又全露の太平洋面に於ける唯一の出口を成す處にあり。東清鐵道と烏蘇里鐵道とに依り、全西伯利更には全露及歐洲諸國の物資此地に集まり、或は亞米利加或は日本、或は支那馬來方面への搬出中繼地たること永久を以て目すべし。西伯利に於て最も優秀にして而も將來を矚目すべき經濟的中心地なり。

西伯利鐵道幹線及一般に發展し來りたる西伯利の經濟的生活は、嘗に市邑のみならず各村落を般賑ならしめ、一部地點の如きは驚くべき發展の跡を示せり。即ち西部西伯利に於てはチエリヤビンスクとエニセイスク縣の中間に於けるタタルスク、シビルスク及ボゴトトル等は郡市の域を脱せんとする迄著しき發達をなせり。クラスノヤールスク、イルクーツク間のツールンは、レナ、アンガラ兩河に商品を送送する有力なる商業地點に變じ、ムキノウスクは盛大なる商業地點となれり。ゼーヤ河畔に於ては、同河の黑龍鐵道と交叉する地點にアレクセーエフスクなる一新市(スラゼウカ村より八露里)を生じ、同市は其地理的位置の爲に有力なる商業中心地と變ずべく、其上流に採金地及建築用材産地を有するブルーヤ河畔のマリノウカも亦前者と同一の前途を有す。亞爾泰地方よりする穀物及他貨物

の運輸は、オビ河上流の沿道に左の如き河川埠頭たる小村を著しく發達せしめたり。即ちバルナウリスク郡の西北部に於ける穀物商業の中心地たるカーメニ、ピースク郡の主要商業中心地にして穀物出送に有力なる埠頭の一たるウスチ、チャリキシスコエ、及ベールスコエ等是れなり。クルンヂンスク曠原に對する移民の漲溢は、同地にスラウゴードを創設せり。沿海州に於けるイマン、ビキン兩地は、共に市に變更せられんとし、今や聖オリガ港は市に變ずるの議起れり。以下各州縣別に主なる都會の現勢を列記すべし。

沿海州

(1) 浦鹽斯德市

人口九萬九千二百六十五人(女^{七、七六}二、一五九^{七、八})内日本人約二千あり。一九〇四年日露戰爭起るに及びて自由貿易港とし、日本軍の來襲に備ふる爲め、一時に數萬の軍隊を集中し頗る混亂を極め、翌年平和克復後、軍隊の一部と民間の一部との間に不平黨の連絡を生じ、終に一九〇五年末より六年の始めに亘り一大暴動を惹起し、市街の半部は破壊燒毀せられて多大の損害を蒙り、市況非常に沈衰せしが、戰爭中奥地に閉塞せる多額の資金は、戰後漸く此地に集來し、且つ軍人官吏を始め一般旅客の

往復頻繁となりて市況漸次恢復し、次で地方物資不足の爲め一九〇六年輸入貨物は例年になき多額に上り(輸入二五、三二〇、〇〇〇露國義勇艦隊は其七月、我敦賀港に定期航路を開き、七年四月には大坂商船も浦港定期航路を開拓し、工業界も活氣を帯び前年灰燼と爲りし市街も復舊し、尙一九〇八年には北滿産大豆の輸出増大したる爲め、從來非常に偏頗なりし片貿易(輸入數量は常に輸出の三倍乃至二十四倍)も漸く均衡を得ることとなり、輸入の輸出に對する割合は數量に於ては僅かに二、三割の超過にして、價額に於て二、三倍を上下するに至る。市狀益好況を持續せり。

市はシコト半島の山腹及山下に連亘し、金角灣に臨み、港灣はアドミラル埠頭以東を軍港とし、以西を商港とす。水深二十五呎乃至七十呎、面積五十九萬三千平方サーゼンあり。へ字形を爲して深くシコト半島内に灣入す。商港は市有埠頭、税關埠頭、烏蘇里鐵道埠頭、官衙用埠頭、義勇艦隊埠頭、東清鐵道エグリセリド埠頭等に分れ、港内には五千噸級の船舶六十艘を一時に碇泊せしむることを得るも、埠頭は直に山崖に接し、一九一三年に於ける繫船區十四、其延長六百十六サーゼン、倉庫の建坪一萬三千九百九十三平方サーゼン、其收容力三百四十九萬八千布度に過ぎず。著しく不足を感ずるを以てアレニューヒン及グゼフス兩技師の設計に

依り、徐ろに増築及改造を施行せしが、歐洲戰亂に因る出入船舶及貨物の激增は益其急を促がし、一九一四年九月以來僅々五六箇月にしてエグリセリド埠頭は大に擴張せられ、今や義勇艦隊埠頭迄一直線に埋立工事を了り、同埠頭西端の山丘巖壁を切開きて汽船の繫留を増加し、十數棟の倉庫を増築し、鐵道引込線を増加し、且つアムール灣に通じ山丘を切開きて横斷鐵道を布設し、此にも數棟の倉庫を新設せり。尙埠頭及倉庫の増築は豫定の設計に従ひ繼續施行せられつゝあり。

氣候は極寒攝氏零下二十五度稀には三十七度に降ることあり。十月下旬の初雪以後時々降雪を見るも概して多量ならず。十二月に至れば灣内薄氷を生じ一月には氷層二呎乃至四呎に達す。既往十年間は十二月中旬乃至四月上旬の約百十日間を結氷期と稱せしが、昨今は一月乃至三月の約八十六日を結氷期と稱し、四月三日乃至十一日に於て解氷するを常とす。四月下旬乃至七月上旬の八十餘日は濃霧期にして不快を極め、七八の兩月は降雨期にして我梅雨期に類似す。九、十の兩月に亘る四、五十日間は快晴期にして一年中最良の季節なり。十月上旬より西北風を生じて寒氣日に募り、冬季には土地の凍結ニアルシン半に至る。

スウェトランスカヤ街は、市内最繁華にして市の中心を成し、此より十餘の街路

四方に走る。灣に沿へる大道は東西延長約三露里半ありて、電氣鐵道布設せられ、主要の官衙を始め寺院、公園、商店、銀行、商業會議所、旅店等重なるもの此に所在す。アレウトスカヤ町は、スウェトランスカヤ街を横斷して遠くエグリセリド埠頭に達し、市廳、移民局、烏蘇里鐵道廳、東清鐵道、商業部出張所、露亞銀行、停車場、陸軍諸官衙等を有し頗る繁華なり。市街は年々擴張し一方は灣に沿ひて東に延び一方は北に小丘を超へて一番河に連絡す。市内一般に道路の粗惡なること及水道並に下水の設けなきことは本市の大缺點にして、水は石油罐二箇分を五哥にて購ひ、排泄物は一箇月一留乃至三留を投じて遠く市外に遺棄せしむ。街路は人道車道に分ち居れども極めて不完全にして、降雨に際しては泥濘脚を没し、天晴るれば黃塵天を覆ふ。市の經費は約二百萬留にして、九箇の寺院は各所に金色の十字架を燦らし東洋學院、男子中學校一、女學校二、商業學校一、航海學校一、三級編制市立小學校一、日本人日本居留民會經營及朝鮮人並に露支混合の小學校等三十有餘の教育機關あり。ダリョーカヤオクライナ、ダリニーストクの二紙は極東屈指の良新聞として著はる。州廳要塞司令部、海軍司令部、軍港司令部、稅關監督部、市役所、警察署、地方裁判所、軍事裁判所、監獄、移民局、日本及支那の總領事館、米英佛希伊蘭の諸領事館

希臘の副領事館等は重なる官衙にして、帝國銀行、露亞銀行、西伯利商業銀行、松田銀行の支店、ヤロスラウスコローストロームスク農業銀行、ニゼゴロドスコサマールスキ農業銀行の出張所、クンストアリベルスの金融部、市立質店、市立組合銀行、市立相互貯蓄銀行等は金融機關として活動す。本市及附近に於ける重なる商工業者は、又西伯利の重なる商工業者たり。

チューリン、クンストアリベルス及ランゲリーチニエー三者は本市最大の商店にして、デパートメントストア式に依りて總ての商品を取扱ふ。

(2) ハパロフスク市

人口五萬五千八百三十八(男三五七六四 女二〇七六四)内日本人六六〇人、沿黑龍地方の首府にして、今日迄は商工業上樞要の地位に在らざりしが、黑龍鐵道の開通と黑龍江系水運の發達とに因り、漸く意義を有するに至らんとす。一九一三年には船舶に依る輸出十七萬八千留なりしが、一九一四年には四十萬九千留に上り、輸入は兩年略同額にして三百九十七萬餘留なり。此輸出の増加は、歐洲の戰亂も其の一因たるべしと雖も亦以て地方經濟の發展を示すに足るべし。當市には沿黑龍地方總督府、國財廳、地方教育總監部、沿黑龍地方鑛山管理局、稅關、東部黑龍鐵道建設廳、消費稅廳、

郡役所、治安裁判所、市役所、警察署等の官衙及寺院六箇あり。鐵道學校、女學校、陸軍幼年學校、職業學校、私立準女子學校、市立六級編制小學校、其他十餘の小學校は、地方教育機關たり。博物館は黒龍江岸極東第一の大公園内に在り、標本の多數なる點に於て異彩を放つ。巻煙草用紙製造所は、極東唯一のものとして名聲あり。市の經費は年額九十餘萬留にして、電燈を市營とし、水道を設備して、極東の他市に模範を示したることは、以て總督膝下の地位を耻かしめざるに似たり。氣候は浦鹽斯德に比し寒暑共に強しと雖、大陸的にして健康に適す。ブリアマールスキウエドモスチナは總督の機關新聞にして、地方の情報及府令を詳にし、帝國銀行、露亞銀行の支店、ヤロスラウスココストロームスキ農業銀行出張所、市組合、プリーシン銀行、市立相互貯蓄銀行、クンストアリベルス金融部、チューリン金融部は、當地方の金融機關たり。

(3) ニコリスクウスリースク市

人口三萬六千九百九十三人(男二二、五五五、女一四、四三八)内日本人四八五あり。本州農業地區の中央市場にして、烏蘇里鐵道中央工場及烏蘇里地方軍隊の中樞部あり。市の歳費は二十五萬留にして、郡役所、市役所、警察署、移民局等の官衙及寺院六箇あり。教育

は職業學校及女學校の外、初等教育諸學校十六箇、生徒總數二千八百餘あり。ウスリースクオクライナと稱する日刊新聞あれども、甚だ振はず。製粉所の外、多數の工場あり。相互組合銀行、クンストアリベルス金融部及露亞銀行、西伯利商業銀行支店の諸金融機關あり。クンストアリベルス及チュウリンカは前二市に於けるが如く、當市の商業に大勢力を有せるが他に多くの有力なる商工業家あり。

(4) ニコライエフスク市

人口一萬四千三百九十七人(男九、二八八、女五、二六九)内日本人三八二、築港及港灣の改築は、繼續施行せらるれども、黒龍江口水路の改修は殆ど不可能にして、本市の繁榮は尙遠き將來なるべし。漁業及採金は市の生命なれども、年々著しく其の收穫を異にし、住民に不安の念を抱かしむ。郡役所、市役所、警察署、治安裁判所、監獄、税關及日本領事館等の官衙あり。市の歳費は人口に比し頗る多く、三十九萬留を算し、輸出入貿易は千五六百萬留に達す。北滿大豆の輸出を此地に吸収する爲め、マゴに新港を開きたれども成績未だ思はしからず。寺院は僅に二個にして、女學校及職業學校の外、九箇の小學校あり。露亞銀行支店の外、西伯利商業銀行代理店、市相互組合銀行あり。クンストアリベルス、チュウリン、ネーベル、ライフバウム、サムソノウイチ、

ウルマンチエーフ、ルビンステイン等を重なる商店とす。

工場は製粉所、煉瓦工場、石鹼製造所、麥酒釀造所等若干あるのみ。アムグン河系のエム、マグタリーノフ、ルマルチユーク等の採金所々有者は當市に居住し、新聞にはアムールスキリマン紙あれども、微々として振はず。

樺太州

アレキサンドロフスク町

本州唯一の都會にして人口凡そ八千あり。州廳、治安裁判所及郵便電信局の外、公共機關としては寺院一、初等學校二、病院一、醫師三名あるのみ。

勘察加州

(1) ペトロバウロフスク市

北緯五十三度一分東經二十八度二十六分、アワチャ灣の東北部に位し不正瓢形に灣入したる入江に臨む。三千噸級汽船一隻は埠頭に直繫すべく、且灣内には同級の汽船二、三隻を安全に碇泊せしむべし。市は入江の右岸山腹に横はり、一七八七年ペルーサ伯の當地方航路發見記念碑、及一八五四年英佛同盟軍防禦紀念碑等の史蹟多し。州廳は一九〇九年の設立にして人口千二人(男七六三 女二三九)地方裁判所、治

安裁判所、學校、病院、郡役所、警察署、無線電信局、義勇艦隊汽船會社出張所等あり。露人の外支那人二百人、日本人二十名あり。チユーリン、オゴロドニコフ、アゲーエフ其他十八軒の露支商店あり。一九一三年の輸入は二百五十三萬留にして、輸出は三十八萬四千留なり。輸入外國品は酒類を除く外無税なれども一般に物價著しく不廉なり。州廳の保護を受くるペトロバウロフスクストークなる日刊新聞あり、二百餘の讀者を有す。一九一四年以來憲兵百四十駐屯して、各地漁場の警保に任せり。市の附近は土人部落甚だ多く、漁業及獸獵に従事す。

(2) ギジガ市

ギジガ河口を距る二十三露里左岸の高地にあり。風景頗る佳、人口四百餘、コリヤーク、カムチャダール、ラムトの土人其の六分を占む。郡役所、治安裁判所、郵便局、學校、寺院、義勇艦隊汽船出張所及オゴロドニコフ商店あり。物價は浦鹽斯德の二倍乃至三倍なり。郡長は夏季船舶來船の際ギジガ河口クーシカに出張して郵便物及周年の食品類の受領其他一般の事務を取扱ふ。

百露里の西南にナヤハン邑あり。土人の部落にして人口百餘あり。夏季毛皮類の定期市を開く、此地に無線電信所あり。附近は苔蘚地帯なるを以て馬背又は

橋にて容易に交通すべし。兩邑を合せ一九一三年の輸入四萬千留輸出七萬七千留なり。船舶は河口を距る十三四露里のギジカ灣内に碇泊す。暴風及濃霧の激甚なること本州第一にして、潮の満干一晝夜一回なるが故に荷役の困難名狀すべからず。

(3) オホーツク市

人口約二百、ユウインパーソフ、ブシユヤ、ジユバエワの三商店あり。市の附近は全部低地にして、北は四十七露里、西北は六十露里、西は二十七露里、東は十七露里にして初めて山を見る。ヤクーツク市に到る郵便路を有し、一週二回郵便物を運搬す。無線電信局の外普通電信局あり。ヤクーツク市を経て歐露西伯利の各地に通ず。目下アヤンより當市を経て、ヤームスク、ギジガ等に連接する爲オホーツク東北海岸に沿ひ電話架設中にて、一九一四年にはモキレツ灣附近迄竣工せり。當市には郡役所、治安裁判所、醫務所、寺院、學校、義勇艦隊汽船會社出張所等あり。一九一三年の取引額は輸入麥粉、砂糖、茶及雜貨にて約五萬六千留、輸出は熊、栗鼠、狐等毛皮類約六萬二千留に及べり。

(4) マルコヲ市

人口三百餘、マルコヲ河とアナヅイル河との合流點に位置し、チユクチ、ラムト、チユワソツ等の土人八割を占む。ヤクーツク州カルイム地方及ギジガに通ずる道路あり。郡役所、寺院、學校、郵便局、官設倉庫、商店等の建造物あり、附近は樹木の北限界に近く、赤楊及柳の外樹木なきを以て、家は皆矮小にして二室以上を有せず。屋根は木皮を以て葺き、窓には硝子を用ひたるもの稀にして、鯨、海豹等の膀胱を張り、冬は氷を以て閉鎖し、恰も穴居の状態なり。

(5) アヤン邑

アヤン河口に在り。人口僅に五十に過ぎざるも、毎年六月初旬より數千の馴鹿を率ゐ來りて漁業に従事するツングース人百數十人あり。漁業終れば冬季の食糧品及磚茶、砂糖、雜貨類を仕入れて馴鹿に載せツシユグヅシウル山脈を越え、ネリカン河岸に赴き、茲に輸送貨物をパウーズカ箱船に移して搬出す。アヤン邑が多少經濟的意義を有するは蓋しこの通過輸入品あるに由る、一九一三年茶類五萬布度、日本雜貨五十布度の通過輸入貨物あり。當地方に消費せらるゝものは年額三千五百留にすぎず、輸出僅かに二千三百留のみ。

(6) ノヲマリンスク(アナヅイル河口、常住人口三十餘、輸入十二萬留、輸出七萬留)ウス

チカムチャツク(カムチャツカ河口、人口二百餘、輸出十二萬留、輸入十三萬留)チギール(カムチャツカ半島西岸、チギール河口より五十露里、人口三百餘、輸入一萬三千留、輸出二萬二千留)等稍經濟的意義を有す。

黒龍州

(1) プラゴウエーシチエンスク市

人口五萬六千四百三十六人(男三〇、四三〇、一九一五年調)あり。黒龍鐵道は茲に枝線の終點を有し、黒龍江の左岸セヤ河口右岸に在り。對岸には支那の大邑大黒河(サハリヤン)及愛琿を控へ、當市より東清鐵道に接続して、黒龍鐵道及河運との連絡を保つべき北滿横斷鐵道は、將に建設せられんとする要地に位し、軍事外交及經濟上多大の意義を有する極東の舊市なり。本州經濟の中心地にして、年々貨物の輸出入五百萬布度、來往の旅客七萬、商事の取引三千萬留を算し、輿地採金所、各會社、黒龍江系航川の汽船會社、帝國銀行、西伯利商業銀行の支店、ヤロスラウスコーコストロームスキ農業銀行、ニージネゴロードスコーサマルスキ農業銀行の出張所、市組合銀行、市相互貯蓄銀行、其他數多の工場業、本州經濟の主腦たる諸會社商店銀行此地に集中し、州廳を始め地方裁判所、治安裁判所、黒龍河系水路部、黒龍鐵道中部區廳、警察署、市

役所郵便電信局男女中學校、職業學校、師範學校、林業學校、河川學校等五十四の諸學校の博物館、圖書館、九箇の寺院、病院、軍隊等本州の行政軍事裁判教育交通通信等主腦諸機關悉く當市に存す。一九一四年に於ける市の歳費は百六十五萬七千二百餘留、收入百六十九萬八千留にして、四萬千餘留の收入過剩あり。市況常に好況を呈し、エホ、アムールスキテレグラフは地方通信の新聞紙として著名なり。

(2) アレキセーエフスク市

人口九千九百八十九人(男五、二〇八、一九一五年調)セヤ河の右岸に在り。黒龍州内農牧の良地として其の名を博し、黒龍鐵道建設の際、中央市場として生じたる都會にして、水陸交通の便あり。逐年盛に發達す。貨物の集散、年額約二百五十萬布度往來の旅客二萬餘にして、商店の取引高約百萬留あり。製粉所、煉瓦製造所、官立製材所の外、警察署、市役所、黒龍鐵道西部區廳、五箇の寺院、二級編制小學校其他數多の學校あり。一九一四年に於ける市の歳費三萬四千二百餘留、收入七萬九千百留にして、收入の過剩約四萬五千留あり。財政の富裕なること他に其の比を見ず。ガルシユテイン、サワールシン、イ・ヤ・チュエーリン、グンスタアリベルス、クルーズチキ、ルーキン、チュバートフ、アレキセーエフ、マトウエーエンコ等は重なる商店な

り。

(3) ゼヤ市

人口五千五百八十人(男三〇二四一、女二五五六)一九一五年調ゼヤ河の右岸に在り、採金地方の小都會にして船舶の便あり。年二百萬布度の貨物と二萬四千餘の旅客の往復あり。商事の取引三萬留を超え市の歳費三萬六千餘留にして警察署及市役所あり女子準中學校の外數多の小學校あり、寺院四あり、物價の變動激甚にして常に二倍乃至三倍の昂低を見ること少からず、スレグート、ポポーフ、イ・ヤ・チエーリン、セイスキ商會、コンツラーセーフ、カプスチン、オバーリン、スウイデースキ、ルバノーフ、ウルマン、チエーフ等重なる商舗とす。

後貝加爾州

(1) チタ市

州府にして人口七萬七千八百人(男四二五〇〇、女三五〇〇〇、一九一五年調)州廳、地方裁判所、治安裁判所、警察署、郵便電信局、市役所、博物館あり、電信、電話の設備を有し、寺院二十二、男子中學校一、女學校三(内壹は私立師範學校)、二學級編制の鐵道學校、宗教學校三、宗教女學校五、學級編制の市小學校、測量學校、私立商業學校、市立小學校十九、徒弟學校、其の他の諸

學校、幼稚園、囚人收容所、陸軍病院、赤十字病院、鐵道病院、市病院、露亞銀行、西伯利商業銀行、帝國銀行、ニーゼゴロドスコサマルスキ農業銀行、ヤロスラウスココストロームスキ農業銀行等の支店及市立相互貯蓄銀行、其の他諸會社、諸商店頗る多く又ザバイカールスカヤノウイ新聞は日刊にして政治、經濟教育等の材料豊富なり。後貝加爾鐵道の中央工場及軍隊の存在は實に本市繁榮の基礎なりとす。

(2) ウェルフネウーヂンスク市

都市にして人口二萬(男一七〇〇、女八三〇、一九一四年調)、家屋八千九百八十五軒の内煉瓦造僅に二百四十、其他は悉く木造に屬す。一七四五年に建築せるオヂギートリエフスキト一七八五年に建築せるスパースカヤの二寺院は本州古跡名所内に算せらる。十三箇の寺院、初等工業學校、女學校、四級編制の市立小學校、八箇の市立小學校、六箇の寺院附屬小學校、鐵道學校、幼稚園、市立病院、鐵道病院、赤十字病院、圖書館、郡役所、警察署及監獄、郵便電信局等重なる營造物にして電燈の設備あり。一箇年二回(ヤルマダガ)の市場を開き(一月十八日乃至二月一日及十月十五日乃至十月二十九日露曆)取引高約三百五十萬留と稱す。一の石鹼製造所、二の麥酒釀造所、二箇の製材所、二箇の製粉所並に市外シムネークの腸詰所、ツルベーツキのハム製造所、ザイダラーエラに於けるテチエコーフのセメント製造所、カ

イベリマンの製材所、カプイルキンの醸酒所、コロウイン、ロドーフスキ及フールマンの製粉所、ザグノジンの製材所、ノラセーロフの裘製造所、タラバカタイに於けるブルジョーゾーフスキの炭坑等は本市及附近に於ける重なる工場にして、露亞銀行、西伯利商業銀行、ヤロスラウスココストロームスキ農業銀行の支店及相互貯蓄銀行あり。蒙古貿易の通路に當り、將に鐵路の開通を見んとする要路なるのみならず、本州農業の首要地、セレンギンスク地方を控へ居るを以て、將來の發展將に見るべきものあらん。ア・エフ・フトーロフ商會、ツノーガリニーツカヤ、ゼベ、ヤーツエ、ココウイン、バーソフ、カプイルキン等は重なる商店にして、コムメルチエスコエ、ポドラーリエ、メトロボーリは重なる旅館なり。

(3) ツロイツコサーフスク市

郡市にして人口一萬四千(男七、八〇〇、女六、二〇〇)四箇の寺院あり。市の南方四露里に恰克圖あり。州内屈指の博物館と税關とを有す。グラフ、ムラウイヨーフ、アムールスキ女學校を始め、アレキセーエウススキ工業學校、四級編制の市立學校、シシアークコフ女學校、ニコラーエウススキ幼稚園及三箇の市立小學校あり。市及市附近には石鹼製造所、鞣革所、製粉所、麥酒釀造所、製材所等あり。郡役所、市役所、警察署は重なる

る官衙にして、露亞銀行支店は本市唯一の金融機關なり。ア・エフ・フトーロフ商會、ブシユーエフ、シシマーコフ、ココーウイン、バーソフ、パーブキン、ワンチエンタイ(支那人)等を重なる商店とす。

(4) セレンギンスク市

郡市にして人口千五百(男八二〇、女六八〇)郡役所、警察署、郵便電信局あり。又三箇の寺院、四級編制の男女小學校及寺院附屬の小學校あり。住民は農業を主とし、傍らセレンガ河並にグーシン湖等に漁業をなす。市を距る三百八露里の地にチユケコーフ炭坑あり。エム・アルノシニコフ、フエドローフ、アルノーギンを重なる商店とす。

(5) バルグジン市

郡市にして人口二千三百(男一、五〇〇、女八〇〇)後貝加爾鐵道、タタウーロを驛の北方二百七十露里に在り。寺院二箇、四級編制の小學校一、他に小學校あり。住民は漁業及採金を主業とす。市役所、郡役所、警察署、病院、郵便電信局あり。鞣革所は當市唯一の製造所にして、ツルキンスキ、ゴリヤチエラードスク、ガルギンスキ等の鑛泉を主とし、此他數多の鑛泉は市の周圍二百露里間に散在す。ア・ベズレスラーウス

キ、エフ・エム・グレイウイチ、イ・ブツリーツキ、ア・イ・ツビーニコフ等は重なる商店なり。

(6) アクシヤ市

郡市にしてオノン河に沿ひ蒙古界を距る四十露里、一七六五年の創立に係る。人口二千五百(男一、五〇〇、女一、〇〇〇)寺院一八、衛戍病院あり。二箇の小學校、博物館等あり。一年二回の定期市(六月十五日乃至二十九日十一日)取引高約十五萬留、住民は多く農業に従事す。郡役所、市役所、警察署、治安裁判所、税關、郵便電信局及軍隊の駐在あり。市の附近鑛泉の饒多なると、金、銅、鐵、及石炭の豊富なるとは特に著名なり。イ・ニゴゴロツツオフ、ベエル・ツラグーノフ、エム・ベアヌーフリーエフ等を重なる商店とす。

(7) ネルチンスク市

郡市にして人口八千(男五、二〇〇、女二、八〇〇)寺院四、初等工業學校、ソフイースカヤ女學校、四級編制の小學校、此他六箇の小學校あり。郡役所、警察署、治安裁判所、市役所、郵便電信局、市立病院あり。麥酒醸造所、鞣革所、石鹼製造所、腸詰所等重なる工場にしてエス・ウニ・ポロズゲン、シエ・イゴリドベルグ、ア・エ・ヅルイ、イ・エム・ヅレーツキ、ゲ・エム・ベレージン、エム・ベガリヤエフ、ア・イ・シローフ、ア・ウエ・シムレージュスキ、ザモーチニ

コフ等は重なる商店なり。露亞銀行、西伯利商業銀行支店あり。市を去る二百九十二露里にネルチンスキザラードあり、御料採金所の所在を以て名あり。

(8) スレーチエンスク邑

人口一萬五千(男八、六〇〇、女六、四〇〇)にして河船航行期間は二萬以上の人口に達す。船車聯絡の要地にして、最近の商取引千二百萬留に上る。四箇の寺院、四級編制の小學校を始め五箇小學校あり。警察署、市役所、郵便電信局、治安裁判所、税關、水路部、露亞銀行、西伯利商業銀行、帝國銀行の支店等は重なる營造物にして電燈の設備あり。ダーリニラストーク、ブチホテル、メトロポリは重なる旅館にして、クンストアリベルス、イ、ヤ、チューリン、ア、エフ、フトーロフ商會、ウエ、エム、ルーキン、エル、エム、ガウリロウイチ、テチュエロス、エス、エフ、ウエ、イネルマン、ア、クスネツオーフ商會等を重なる商店とし市の附近に石鹼製造所、麥醸造所あり。

ヒローク、ムイソーフスク共に後貝加爾鐵道沿線屈指の大邑にして、甲は人口七千(男四、一〇〇、女二、九〇〇)四十餘軒の商店あり、乙は人口六千五百(男三、八〇〇、女二、七〇〇)にして猶太人の住する者千五百に及び貝加爾湖畔に在り。住民に蒙古家畜及雜貨商を主なるものとし、土人は漁業に従事す。

イルクーツク縣

(1) イルクーツク市

人口九萬三千四百(男四七二〇〇、女四六二〇〇、一九一四年調) エニセイスク、ヤクーツク及イルクーツクの一州二縣を管轄する總督府を有し、管に本縣經濟の中樞たるのみならず、ヤクーツク州及對蒙古經濟關係の基地にして、東部西伯利中將來最も有望なる都會なり。人口は一九一一年頃十一萬三千二百八十八人(男六六、六三五、女四六、六三三)に比し減少せるが如くなれども、今回の數字は州廳の統計に依り前年の數字は警察署の統計に依りたるが故に、其間自ら等差あるを免れず。而して一九一五年三月頃には人口十三萬以上と稱せられたれども、其正確なる數を得難く、平時に於ける實數は、十萬乃至十二萬の間に在るものゝ如し。市内には東部西伯利に於ける最高行政及軍務廳を始め、裁判警察郵便、宗教、學校等も亦最高機關あり。即ちイルクーツク總督府、イルクーツク陸軍會議所、陸軍參謀部、陸軍醫務本局、騎兵團本部、憲兵隊本部、地方裁判所、イルクーツク縣廳、會計検査部、國財廳監獄、鑛山局、イルクーツク克索本部、希臘正教會事務局、後貝加爾鐵道應稅關、治安裁判所、警察本部、郵便局、電信局、教育會、イルクーツク移民局博物館、圖書館あり。學校はニコライ一世女學校、中學校、職工學校、公立女

學校二、市立女學校二、師範學校二、宗教學校、宗教女學校、陸軍看護學校、西伯利士官學校、豫備校、幼年學校、看護婦學校、手工學校二、五級及四級編制市立小學校二七、及寺院小學校其他初等教育の諸學校總計七十五以上に達し、近時大學校建設の議起り市富豪は土地或は金錢を寄與して其確立を計りつゝありしと云ふ。寺院は大小三十餘あり。空中高く金色燦爛として市の裝飾たり。二十餘種の慈善會、三十餘箇の公共事業團體あり。病院には市立軍立及私立のものあり。帝國銀行、ブルジスコ、コーカームスキ商業銀行、ニーゼゴロドスコサマルスキ農業銀行、ヤロスラウスココストロームスキ農業銀行、西伯利商業銀行、露亞銀行の各支店、イルクーツク相互貯蓄銀行、イルクーツク貸金貯金銀行、エル・ウエランダウコンバニ、クレヂート等の金融機關あり。

(2) ニーシネウーヂンスク市

西伯利鐵道沿線ウダ河に沿ひ、イルクーツク市とカンスク市との中間に位し、一六四八年ウーヂンスクオーストログ、本市の基礎をなし、一七八三年イルクーツク縣に屬し、ニーシネウーヂンスクと稱せり。人口一萬二千(男六、八〇〇、女五、三〇〇)郡役所、市役所、三箇の寺院、七箇の學校あり。市の經費五萬留にして、シナエルクノーフ、シリフエ

ルマン、フエドローフ、ミヤスニコーフ、カトコーフ、サルマイウイチ、ワルシヤーフスキ等々は重なる商店にして、グラントホテル、ロシヤの二旅館を有す。獸皮は本市の名産にして年々の取引少からず。

(3) バラガンスク市

イルクーツク市を距る西方百七十八露里アンガラ河の左岸に在り。イルクーツク縣の郡市にして、人口二千五百(男一、五〇〇 女一、〇〇〇)市の經費一萬二千留、市附近は農牧盛んなり。ジナン、シチエルクノーフ、ツイブレーフスキ、カガン、マーモントフ等は重なる商店とす。

(4) キーレンスク市

レナ河の島上にあり。イルクーツクの北方五百露里にして、附近キーレンガ河は東南より注入す、一六三〇年の創設にして、目下人口二千(男一、三〇〇 女八〇〇)を有す。一六六九年建設せられシロイツキ寺院は古色蒼然として、老松の間に巍立し市の古きを示す。二箇の學校あり。市の經費は一萬六千留、シチエルクノーフ、チョールヌイフ、スクレートネフ、オルローフは重なる商家なり。煉瓦造の官設精酒所は嶄然として市の偉觀を成せり。

(5) ウエルホレンスク市

一六四一年の創設に係り、レナ河の右岸、イルターツク市の北方百六十露里の地點にあり。人口千三百(男七五〇 女五五〇)市の經費五千留、郡役所、市役所、一寺院、一學校を有す。市況極めて不振にして、シチエルクノーフ、ツブニコーフは重なる商店なり。

(6) ボダイボ町

ウイチーム河の右岸、ボダイボ河の合流點、ヤクーツク縣界に近く、イルクーツク市の北方五百餘露里の地にあり。奥地の山間に所在する富裕なる採金所を以て町の生命とす。人口五千餘、町役場、礦物分析廳、寺院二、學校二、及帝國銀行支店あり。町の經費は、一萬八千留なり。水路交通の便あると、採金所に到る輕便鐵路の便あるとに依り幾分交通の自由を得れども、解氷期及結氷期の二箇月餘は西伯利各地との交通全く杜絶す。パツシンスカヤ、コスイギン、ボボーフ、ブタコーフ等は重なる商店にして、グロートフ、ゴルナコーフ、ヅミートリエフ、イスクリーツキ、ラチコフ、ロジノーフ、ルカウイシニコーフ、ギーシブリング、レナ採金株式會社等は採金者の大なるものにして、就中レナ採金株式會社の大規模なるは、全西伯利に其の比を見ず。物價はイルクーツク市に比して、常に四割乃至六割の昂騰せるを見る。

本縣には其他イリム市(人口一千)ウイテム邑(人口五百)ジマ邑(人口四千)ズナメンスコエ邑(人口千二百)カチユীগ(人口五百)キミールタイ邑(人口四千)あれども、其の經濟的意義の特記すべきものなし。

エニセイスク縣

(1) クラスノヤールスク市

クラスノヤールスク市は九萬三十四人(内男四九、三四五、女四〇、〇六八、九一九、一五年度)の人口を有し一年の歳費九十八萬八千留(一九一四年度)を算す。已に開設を終れる電燈電話の外一九一五年には新たに水道の設あり。西伯利鐵道開通後エニセイスクの地位を奪ひて縣府となり、道路も亦年を逐ふて改築せられ、十八箇の正教大寺院と四箇の外國寺院は市の美觀を増すこと多く、博物館には七萬餘種に上る動植、礦物及歴史の標本を具へ、殊に古錢及蒙古に關する遺物に富めり。縣廳、地方裁判所、治安裁判所、稅務所、監獄、軍隊警察、トムスク鐵道附屬の大工場等諸種の官衙公廠の外に男女中學校、師範學校、宗教學校、職業學校、鐵道學校、孤兒院、二級編制小學校、四級編制小學校、私立女學校、看護婦學校、初等學校、訓育學校、市立四級編制小學校、等合計六十四の公立學校ありて専ら七千九百五十八(男四、三〇八、女三、六五〇)人の學生教育に従事す。尙同市には

帝國銀行、西伯利貿易銀行、露亞銀行の各支店、市組合銀行、市相互貯蓄銀行、市立質店、ニーゼゴロドスコサマールスキ農業銀行出張所、ヤロスラウスコストローハスキ農業銀行出張所等の金融機關あり。定期市は毎年十二月二十日乃至一月一日(露曆)市場は一週五回を以て、之が開期と定め其取引高年約六十萬留に達すと云ふ。

(2) エニセイスク市

エニセイスク市は人口一萬二千五百九十三(男五、七五二、女六、八四一、一九一五年度)歳費四萬留(一九一四年度)の都合なるも、小なる木造家屋多く、總數一千二百戸の内煉瓦造は僅に五十戸を算するに過ぎず。而も其大部は學校寺院及役所等の營造物に係れり。學校には男女中學校、四級編制市立小學校、初等學校、六寺院附屬學校(四)及私立小學校あり。金色燦然たる十一箇二萬二千三百有餘の標本を藏する博物館の外に警察署、郡役所、郵便電信局、市役所等あり。商舖の主なるものには市立相互貯蓄銀行、市立質店、ホロドキャン、サウエーリエフ、トンコノトゴフ、コノワローフ等を擧ぐべく、市内には電燈の設あり。

(3) ミヌシンスク市

ミヌシンスク市は人口一萬五千九十四(男七、四六〇、女七、七三)歳費六千留の都會にして、戸數一千五百中煉瓦造二百内外を算す。準中學校、市立四級編制小學校、初等學校(十一)の外に、郡役所警察郵便電信局治安裁判所等の官公署あり。當市には豪商マルチャーノフスキ氏の寄贈に係る七萬二千二百四十餘の標本を藏する博物館あり。金融機關には市組合銀行、西伯利商業銀行及露亞銀行支店の三者、大商店にはサウエリエフ、スミルノーフ、セメニーシツエーフ、ステエパーノフ、ロゴジンスキ、オクローネフ、ゾルダートフ、ヅプロウインの八者、製造工場にはエルマコーフ外五所の煉瓦製造所、ウヅノーフ外三所の製粉所、メーリニコフ外三所の石鹼製造所、ウビート、ビラワール商會の麥酒釀造所等を數ふべし。市區大ならざるも、電話の便あり。近郊の地は頗る農牧に適するも、市の發展には殆ど貢獻する所なし。

(4) カンスク市

カンスク市は人口二萬一千六百九十八(男一、三三三、女七、九一)歳費二十三萬五千留の都會にして、地方裁判所、治安裁判所、郡役所、警察署、郵便電信局、電話交換局、職業學校、女學校、四級編制小學校、其他三箇の小學校、外に麥粉、麥酒、酒精、鞣革、石鹼、蠟燭、煉瓦等の諸製造工場あり。市組合銀行の取引高年約三百萬に上ると云ふ。定期市の

開設なきも、毎週三回の市場開かれ取引盛なり。ロバノーフチエフ、ノレーフ、エドーウイチ、ラウローフ、トレコノーフ、ジュコーフ等は其重なる商店に係れり。

(5) アーチンスク市

アーチンスク市は人口一萬三千六百九十四(男七、八三七、女五、八五)歳費十三萬八千餘留の都會にして、郡役所、市役所、警察署、郵便電信局等の官署にり。ミヌシンスクに至る鐵道の分岐點にして、逐年増加する移民の生産する附近の富饒なる農産物は、將來同市の繁華を來す主因たるべく、人口の割合に歳費の多額なるは蓋し此趨勢に應ずべき諸般の設計を包藏するに基くものなるべし。現にエニセイスク縣内の農産物は漸次本市に於て集散せらるゝ傾ありと云ふ。女學校、四級編制小學校、小學校(三)及博物館あり。定期市場の取引は年五百萬留にして、市内に於ける主なる工場及商店は鞣革、麥粉、石鹼、蠟燭、製材、麥酒等の諸製造所、市組合銀行、商業銀行、相互貯蓄銀行、ドリナ、シターノフ、ボロダーウキン、ゲンデン、ゾーコロフ、カラムイセーフ等とす。

(6) ツルハンスク市

ツルハンスク市は人口二百九(男一〇、三、女一〇、六)歳費一萬五千留の都會にして、前

記露人人口の外に尙約七百餘のオスチャーク、ツングース、サモエーヅ、ユラーク、ヤクート、ドネルガ等の土人住民あり。附近の丘陵は常に石炭、鐵、岩鹽、アスベスト、砂金等の諸礦物を藏するのみならず、亦高價なる木材に富めるも交通不便なる爲め未だ之を採取するに至らず。住民は僅に漁業及獸獵に従事するに過ぎず。地方支署、寺院一、學校一、の外にバソローフ、ウヤートキン、ルカセーウイチ、トルマーチエフ等の商店あり。

ヤクーツク州

(1) ヤクーツク市

ヤクーツク市、人口一萬五百(男五四〇〇、女五一〇〇、一九一四年調)、土人其三分の一強を占む。但し同年の人口は一九一三年よりも約二千人を減せり。官署に州廳、地方裁判所、治安裁判所、監獄、警察署、郵便電信局、電話局等あり。其他建設物の主なるものは、寺院十四、職業學校、女學校、師範學校、宗教學校、四級編制市立小學校、露鞋學校及七個の初等學校、二萬餘の標本を藏する博物館、圖書館、市場にして、一州の首府たるに耻ぢずと雖も、其設備未だ完からざるもの多し。毎年二回の定期市を開設し、盛に取引を行ふ。ヤクーツクオクライナは市唯一の日刊新聞とす。

本州には尙オレクミンスク、コルイムスク、ウイリュイスク、ウエルホヤンスクの四市あれども、皆僻陬の小邑にして、僅々一千内外の人口中、土人の數却て五分の三を占むと云ふ。

トムスク縣

(1) トムスク市

トムスク市はトミ河右岸ウシヤイカ川の合流點に位する河孟及丘陵を一廓として、市を形成し、老樹古木蔚蒼として風景絶佳なり。西南八十四露里に位するタイガ驛に至るトムスク鐵道枝線に依りて、同鐵道沿線上の市邑に、水路汽船に依りて遠くトミ河沿岸のチューメン、ナルイム、オムスク、セミバラチンスク、ピースク等の諸地方に交通することを得べく、人口十萬四千九百六十三人(男五四〇〇六、女五〇〇〇〇、一九一四年調)あり。二十八箇の寺院と大學校、高等工業學校、女子大學及五箇の男女中學校等の堂々たる建築物と市街の配置とは恰も露都に彷彿たるものあり。二箇の職業學校、師範學校、鐵道學校、宗教學校其他七十有餘の初等學校ありて、全西伯利に於ける教育の樞軸地たり。官衙には縣廳、トムスク鐵道廳、郵便局、市役所、オビ、エニセイ水路部、國財廳、移民局、鑛山局、地方裁判所、治安裁判所、警察署等の縣治諸機關あり。又

帝國銀行、露西亞外國貿易銀行、西伯利商業銀行の三行の支店、ニゼゴロードスコサ
 マールスキ農業銀行、ヤロスラウスコストロームスキ農業銀行出張所、組合西
 伯利銀行、市相互貯蓄銀行等の全融機關あり。輒近ノヲニコライエフスタの發達
 に伴ひ、商業上の勢力を失墜するに至れりと雖、尙年額五千萬留以上の取引行はる
 と云ふ。市の歳費百九十二萬三千七百三十一留、石鹼、燐寸、鞣皮、煉瓦製材を始め麥
 酒釀造、酒母糞、馬車等の各製造工場あり。數年前の建設に係る製紙所は百萬留の
 鉅資を投じて工場其他の附屬家屋を建設したるも、歐洲戰役の爲め機械を購入す
 ること能はず。今仍ほ空屋の儘市外に拋棄せらる。市にはシビールスカヤジ
 ズニ外二三の新聞あり。

(2) ノヲニコライエフスタ市

ノヲニコライエフスタ市はオビ河の右岸に在り。亞爾泰鐵道の起點にして、水陸
 の便に富み貨物輻輳す。一九一三年には本市に集散したる貨物三千萬布度を輸
 送せりと云ふ。人口八萬九千三百十九人(男四九、八二〇、女三、九
 四九九、一九一四年調)市の歳費は百十四萬
 六百三十五留(一九一三年度)にして、警察署、移民局、準女子中學校、鐵道學校、職業學校
 其他四十餘の初等學校、西伯利商業銀行、帝國銀行、露亞銀行、露國外國貿易銀行の各

支店、ニゼゴロードスコサ、マールスキ農業銀行、ヤロスラウスコストロ
 ムスキ農業銀行の出張所、相互貯蓄銀行、牛酪組合等ありて、實に西部西伯利商業の
 總匯たる地位を占む。一九一六年トムスク亞爾泰兩鐵道の連絡成り、奧地農牧地
 の交通を便にせるを以て、本市將來の發達は正に刮目すべきものあるべし。

(3) パルナウール市

亞爾泰鐵道開通以來水陸交通の便昔日に數倍し、皮革穀類牛酪の集散更に殷賑
 を加へたり。人口七萬四百十二人(男三、五、五三二、女三、四、八
 八〇、一九一四年調)を有し、亞爾泰地方廳、亞爾泰
 鐵道廳地方及治安兩裁判所、山林局、鑛山局、移民局、警察署、郡役所等の官衙並に男子
 中學校、女學校(二)、職業學校、市立四級編制小學校、其他三十餘の初等學校あり。西部
 西伯利に於ける育英地として、トムスク市と併稱せらる。金融機關には帝國銀行、
 露國外國貿易銀行、西伯利商業銀行の各支店、ニゼゴロードスコサ、マールスキ農
 業銀行、ヤロスラウスコストロームスキ農業銀行、牛酪組合銀行の出張所、ボ
 ヅノフ銀行、組合銀行、相互貯蓄銀行及質店あり。十月十四日(露曆)より一週間に
 亘りて開催せらるるラズヅウイゼンスカヤ定期市及び十一月二十一日乃至十二
 月六日(露曆)を以て期間となすウエーヂンスカヤ定期市は、何れも殷盛にして、皮革、

牛馬、牛酪、穀類等の取引高前者八百二十萬留、後者は百五十留に上ると云ふ。商況活潑にして年額四千五百萬餘留の取引あり。集散貨物總計九百萬布度を超ゆ。内重なるものを舉ぐれば(一九一二年調)小麥百萬布度、麥粉二百十萬布度、燕麥二十五萬布度、麻實二十萬布度、麩子二十萬布度、凍肉十萬布度、豚六萬布度、牛脂一萬五千布度、牛酪六十三萬布度にして、爲にトムスク鐵道應は貨物取扱所を設け特別便宜を圖りつゝあり。市の歳費五十六萬四千七百五十二留(一九一三年度)ジーズニ、アルタイ及アルタイスキクレスチャンの兩新聞は地方の通信機關たり。十有餘の寺院は丘陵松樹の間に隱見し、バルナウル、オビ兩河の流と相映じて風景掬すべきものあり。

(4) ビースク市

人口三萬九千五百七十二人(男二〇、五四六、女一、九〇〇)の都會にして、ラレツコ湖に發源するビー河の兩岸に在り。市の後方を繞る丘陵は、松樹茂生して風景頗る佳なり。チユイ街道の要衝を占め蒙古貿易の中介場たる本市は、亞爾泰鐵道の開通に依りて急速なる發達を遂げたるがペトロフスカヤ(六月二十九日乃、至七月五日露曆)クレスーラズウイゼンスカヤ(十月十四日乃、至十一月十四日露曆)及エカテリニンスカヤ(十一月二十四日乃、至十二月五日露曆)の三定期市にも、家

畜(牛、馬、羊)、肉類、蜜、蠟、麻、毛皮、穀類、牛酪、松の實等の蒙古貿易品盛に交易せられ、其取引額四百萬留に上ると云ふ。十三箇の寺院は金光燦爛として高空に聳へ、男女兩中學校、四級編制の小學校、宗教學校及其他二十餘の學校其間に點綴す。警察署、郡役所、市役所等の諸官衙、精酒、製材、麥粉、麥酒、糶草、煉瓦等の製造工場(十餘)製産年額約二百萬留(露亞銀行、西伯利商業銀行の支店、ヤロスラーウスココストロームスキ銀行出張所、市組合銀行、相互貯蓄銀行等の金融機關あり。アルタイは唯一の地方新聞にして、蒙古方面に關する記事に富む。

(5) マリンスク市

キーヤ河に沿ひ人口一萬四千五百五十九人(男七、六九二、女六、八六六)の都市にして、奥地にある金坑、穀類等の輸出に依りて、今日の發達を見たるものとす。市役所、警察署、寺院(六)女學校及四級編制市立小學校、小學校(五、六)等あり、相互貯蓄銀行、マリンスク貸附貯蓄組合の二は、平時市内の金融を圓滑に運轉して餘ありと雖、出穀期には露亞銀行、西伯利商業銀行等より特に行員の出張を見ることありと云ふ。本市にはサウエリエフ、オリホーウススキ、スクーエ、ストーリ、ソリツシユムレーウイチ、クジミン、グリエーミツチ、アイジニールウイチ、ユダレーウイチ商工會社等の重なる商工

業者の外代辨業者ヤ・ア・ツンイマンなるものあり。市内の商務に關する一切の事項を代辨す。而して石鹼、鞣革、麥酒の製造所には、殆どサウエーリエフの關係せざるものなしと云ふ。

(6) カルイワン市

人口一萬八百八十人(男^五一八八、女^五七〇)本市は西伯利鐵道開通前には唯一の東西西伯利貿易仲繼市場にして、曾て一八二二年頃にはトムスク縣の首府たりしことありしが、同鐵道の完成後は市況頓に衰微し、目下は附近産穀の集散に依りて僅に市況を維持しつゝあるに止る。從て資産家は次第にノヲニコライエフスクに移住するもの多く、經濟上の大變動なき限り、再び昔日の繁華を恢復するの機なかるべし。三箇の寺院、四級編制小學校の外三、四の學校あり。警察署及市役所は市の最高官衙にして鞣革、石鹼、麥粉等の製造所あり。カザーリン、チエレバーノフ、スイフリヤーチン、グブリヤーノフ、コーシン、ブーブチエフ、バエフ、メゼンツエフ、ラービン、グビン、ズイリニコフ等は本市に於ける屈指の商工業者に數ふべし。

(7) スラヴゴロード邑

人口五千一百人(男^二九〇、女^二二〇)を有するバルナウル郡内有數の大邑にして、

クルンゲン地方に於ける中心市場たり。本邑は一九〇八年狐狼の巢窟たりしセカイチ湖畔に建設せられたる歴史を有し、バルナウル市の西北四百露里、オムスク鐵道(西伯利鐵道)のタタールスク市を距ること三百十五露里の地に在り。住民は多く小露西亞人と獨逸殖民に係る。目下タタールスクより本邑に至る鐵道枝線の建設中にして、兩地間には自働車の便あり。郵便電信局、電燈、小學校(二)寺院、移民局、治安裁判所等の設あり。市場は毎週一回開設せられ、附近農民の來集するもの二萬人を下らず。一九一三年本邑よりカーメニ及パウロダールに向け輸送したる穀類(重)に小麥は、百五十萬布度に達せりと云ふ。金融機關には唯貸附貯蓄銀行の一あるのみ。定期市は、一月一日、三月九日、六月十日、九月一日(共に露曆)の四回に分たれ、一年の取引高約二百萬留に上ると云ふ。煉瓦、鞣革、牛酪、石鹼、麥粉の製造工場及セリユーニン、グイフタレーフ、カルベーツ、ヂチン、ヂーク、ウインス、ウイノクローフ等の商店あり。

(8) カーメニ邑

人口二萬一千人(男^一〇〇〇、女^一〇〇〇)を有するバルナウル郡内新開の邑にしてノヲニコライエフスクを距る二百露里のオビ河畔に在り。一箇の大寺院、四箇の

小學校、移民局、警察署等あり。七月二日及十一月二十七日(共に露曆)に各一週間を期間とする定期市を開き二萬留(前者)若くは一萬留(前者)の取引を行ふ。集散貨物少からざるを以て逐年發達興隆の色あり。即統計の示す所に據れば毎年約四十一萬布度の牛酪、六百萬布度の穀類、五萬布度を下らざる鶏卵の輸出ありて、當邑を經由する貨物を累計するときは、其總額三千萬餘留に上ると云ふ。西伯利商業銀行支店並にオビ河航行船舶支店、出張所等あり。ウイノクローフ、アトローフ、ベトケーウイチ、カザコーフスキ、ホームートフ、アルタイ工業商會、ゴローホフ、フェヅローフ、フクスマン、チャイギン、イエルゲンセン、クストードセン西伯利商會、エイゲンマン等の重なる商工業者の外に、鞣革、麥粉、牛酪等の製造所を有す。

(9) カインスク市

人口一萬三千二百人(男六、九五〇、女六、三〇)郡市にしてカインカ河のオビ河に合流する地點に在り。一七二二年の開設にして一八〇四年始て市の名を得たり、四箇の寺院、十二の小學校、郡役所、警察署、移民局あり、ベトロバウロフスカヤ(六月二十)スパースカヤ(八月露)ミハイローフスカヤ(十一月八)の三定期市には年額約七十萬留の取引行はる。小麥の産額多く、鞣革、麥粉、精酒、麥酒、石鹼、牛酪等の製造所の外、西伯利商業

銀行、露西亞外國貿易銀行の支店、貸附貯蓄組合銀行、市組合銀行あり。市の歳費四萬七千九百二十留(一九一三年度にして、ラルコーフ、シクロロエフ、シビリツエフ、レント及ベテルセン、ラポートニツク、ブルガークーフ、ミヤスニコフ、ルイブニコーフ、コガン等を重なる商工業者とす。本市にはシビールスキエのホテルあり。

(10) クズネーツク市

人口四千一百三人(男二、〇八一、女二、〇二二)トムスク鐵道ボロートナヤ驛の南三百露里、トミ河の右岸コンドム河の合流點に在る山間の郡市にして、風景絶佳なるより一に西伯利の瑞西と稱せらる。一六一八年基を開き、一六七八年に至りて現名を附せられたるものとす。蓋し本市の開発は、地方産の銅鐵に緣故多き鍛冶職(クズネツク)の力に待つこと多かりしに依ると云ふ。郡役所、警察署、三箇の寺院、四級編制の小學校、其他三箇の小學校あり。鐵、銅、銀、金、アスベスト、石炭等の鑛産に富めるも、未だ正式に採掘せるものを見ず。市組合銀行、マースーセーウイチ、エメリヤーノフ、ワシリーエフ、エルモラーエフ、ウマンスキ、クルテゲーセーフ等は本市一流の商工業者にして、ワジローフ、及モルガンポポーフ、南アルタイ採金所等の採金を營む者あり。市の歳費一萬四千五百二留を算す。

(11) タタールスク市

人口八千三百三十三人(男^{四、一五四}女^{四、一七})一九一一年市の名稱を得たるオムスク鐵道(西伯利鐵道)の一驛にして、ノラニコライエフスク市の西四百四十八露里の地に在り。穀類及牛酪の集散を以て著はる。隣驛チャヌイ附近を合するとき、本地方に於ける牛酪製造所の數實に二百數十の多きを算すと云ふ。本市を距る四十五露里にニカラーチ湖あり。病人の避暑地にして同方面に赴く者は必ず本驛より乗降するを例とす。本市とストラヴゴロド市間の交通は從來自働車に依る外なかりしも、目下鐵道の建設中なるを以て遠からず其竣成を見るべく、該鐵道開通後に於ける本市の發達は、蓋し想察に難からざるなり。二箇の寺院、三箇の小學校及警察署あり。毎年三萬三千七百餘留の歳費を行使す。主なる商工業にはバルシコーフ、ランブルーフ、ルンド・ベテルソン、マリウポリスキ、ルバノウイチ、クリューゲル及マトウエーフ西伯利商會、ルイセンコ、ワイベース、クレコーウキン、カスベローウイチ、ポローヂン等あり。

(12) ボゴトール市

人口六千六百九十九人(男^{三、四四五}女^{三、二五})を有するマリンスク郡の一市にして、ト

ムスク鐵道(西伯利鐵道)の一驛ノラニコライエフスクの東四百七十八露里に位す。穀類の集散市場にして一年發荷十萬布度に及ぶ。鐵道初等學校其他二、三小學校及二箇の寺院あり。麥酒、鞣革、石鹼、麥粉等の製産年額八萬留にして専ら地方に供給せらる。市の歳費一萬七千二百餘留、ウルソフ、エリエーウイチ、アレクセーエフ、ガルベル、エドレーウイチ等の商工業者あり。

(13) タイガ市

トムスク市に至る鐵道の分岐點にして、八、九年前には人口僅に二、三千に過ぎざりしが、附近に於ける開墾の進捗、トムスク鐵道(西伯利鐵道)の開通及諸種の工場設置等の原因は層々相依りて、遂に本市を人口一萬五百人(男^{五、二〇〇}女^{五、三〇〇})の都會に發達せしめたり。従て住民は工場又は鐵道の従事員多く、商工業に付ては未だ規模の見るべきものなし。

(14) ナールイム市

人口千五百人(男^{七〇〇}女^{八〇〇})、オビ河下流ナルイム地方の中心市場なれども、商況微々として未だ市の實を有せず。市街はオビ河に注入するケチ河口に位し、住民は魚漁に従事する者多し。オルローフ、シチエ・ベチリニコフ等を重なる商舗とす。

(15) ズマイノゴルスク邑

人口一萬二千(男六一〇〇、女五九〇)同名の郡衙所在地にして、亞爾泰御料地内に在り。官設の採金所は年額二布度内外を採金す。二箇の寺院、三箇の學校、郵便電信局、御料局支廳、警察署、治安裁判所等の外、商店にはヲロビエフスキ、デニソーフ、ラリオーフ、マカローフ及バサラエフ等あり。

アクモリンスク州

(1) オムスク市

オムスク驛を距る三露里同名の河口を挟みてイルツイシ河の右岸に位する人口十三萬三千二百八十人(男六六、七三九、女六六、五)の都會にして、同市に至る鐵道引込線ありて貨客の輸送に便す。本市は水陸交通の要衝なるを以て貨物常に輻輳し、一九一二年には水運に依りて二千三百六十萬布度、陸運に依りて約二千萬布度合計四千三百餘布度の貨物を發着せり。年々春秋二回の定期市を開き牛酪、皮革、毛皮、穀類、家畜等附近產出物の取引をなす。秋期(十一月十五日乃至十一月三十日露曆)のウラエーヂンスカヤ定期市は、秋市は頗る盛大にして、百萬留内外の交易行はるゝも、春市(五月十五日乃至七月一日露曆)の取引高は少額にして漸く二十萬留(一九一三年度)にして、高原地方總督府廳軍團

地方裁判所、オムスク鐵道廳治安裁判所、移民局、警察署、市役所、郵便電信局、地方自治團等諸機關の設置あり。十六の寺院は市の觀望を壯にし、士官學校、男女中學校、鐵道工業學校、職業學校、農學校、中央看護學校、獸醫見習學校、商業學校、工業學校、牛酪製造實習學校等四十有餘の學校は同地方教育の模範的施設たり。オムスキークウエードスチ外一、二の新聞あり。金融機關としては露亞銀行、露西亞外國貿易銀行、西伯利商業銀行、ヤロスラウスコーコストロームスキ農業銀行の諸支店、市組合銀行並に相互貯蓄銀行等活動し、オムスク鐵道の中央工場には工夫三千餘を使役すと云ふ。

(2) ペトロバウロフスク市

人口四萬一千五百三十九人(男二〇、二二五、女二一、三)同名の市を距る二露里、イシーム河右岸コクチエターウ市に至る百八十露里の地に在り。トボリースク縣より本市に來集する皮革、穀類及牛酪は頗る多く、毎年外國輸出用として買收せらるゝもの、牛酪一萬五千布度、毛皮及生革類二十萬布度、歐露の輸出肉類少くも五萬布度、穀類約五十萬布度を算し、スパースキ精銅所より來集する銅亦四十萬布度に達すと。春秋二期に開設せらるゝペトローフスカヤ及アンドレーエフスカヤ定期市は各

四五萬留の取引高あり。帝國銀行、西伯利商業銀行ニセゴロードスコサマルスキ農業銀行、露國商工銀行ヤロスラウスコストロームスキ農業銀行の諸支店及市組合銀行、市立質店等は、本市の主なる金融機關なり。寺院(十)師範學校、女學校商業學校十有餘、郡役所、警察署、治安裁判所、郵便局、市役所等あり。市の歳費四十餘萬留(一九一三年度)にして、洗毛所、石鹼製造所、蠟燭製造所、鞣革所、製粉所等製造工場は孰れも可なりの生産力を具ふ。本市には他の西伯利都會に見るを得ざる水道の設備あり。

(3) アクモリンスク市

人口一萬六千四百十一人(男八、三八三、女八、〇二二)イシーム河に臨み、地方的輸出貿易の中心地として著はる。五月二十一日乃至七月七日を開期とするコンスタンチノーフスカヤ定期市には年額二百萬内外の取引行はれ、ボクローフスカヤ定期市(九月二十五日乃至十月十五日)にも十五六萬留の取引高あり。トルキスタン地方より來市する土人の牛馬は主として兩定期市に於て交易せらる。西伯利商業銀行支店、郡役所、警察署、市役所、治安裁判所、郵便電信局、職業學校、土人學校、四級編制小學校(六)寺院(四)あり。市の歳費三萬留にして、麥酒釀造、煉瓦、麥粉、鞣革、石鹼等の製造工

場の外デ・ロバチョーフ、ベ・コルバーコフ、エム・サブイルバーエフ、ザビーロフ、ベキークセフ、ウエ・クチョーフスキ、ア・コズーリン、ゲ・グリンゴート、チャイキングテルコーヘル、露國通運會社エ・アレキセーエフ、ウエ・ストール、移民局倉庫、イ・シリシエフ、セメノーフ、エス・クプリン、ゲ・ガザツエーフ、エヌ、ブラスチエーフ等の商舖あり。

(4) コクチエターウ市

人口四千七百三十四人(男二、三五六、女二、三七七)ベトロパウロフスク市の東南百八十三露里に在るコーバ湖畔の都會にして、市の歳費二萬留、一箇の寺院、三箇の小學校、郡役所、警察署、治安裁判所、市役所等あり。附近に砂金鑛の散在すると、セメノーフスカヤ(十一月三日乃至十一月十日露曆)イワノーフスカヤ(十一月二十八日乃至十一月十日露曆)兩定期市の開催せらるを以て著はる。本市は目下計畫中に係るクルガン市經由のエカテリンブルグ、セミパラチンスク間鐵道開通の曉には、之が樞軸として著しき發達を遂ぐるの運命を有す。クズネーツォフ、オウシヤンニコーフ、ラツインツェフ、ハムジン、カマールオフ、ムハメードーフ、ウスマールノフ、ハリートフ、ラポートニク、バブイセーフ、ベソブラーゾフ等の商店あり。

(5) アトバサール市

人口三千七十一人(男一、五九一、女一、四八)を有するツジヤバイカ河沿岸の都會にして、三箇の寺院、三箇の小學校あり。郡役所、警察署、市役所に市の最高官衙にして市の歳費一萬八千留(一九一二年度)を計上す。中央亞細亞地方との貿易盛にして、年三回の定期市を開設す。就中ペトロパウロフスカヤ定期(七月十日乃至)には年額二百五六十萬留の取引行はる。定期市開催中は西伯利商業銀行、帝國銀行等より行員を派して金融上諸多の便宜を與ふ。製粉所、鞣革所、煉瓦製造所、アトバサル驛商會、クズネツオーフ、サリーホフ、ウヤートキン、ストーリ、移民局倉庫、ベローフ、チエルノーフ、露國通運會社、ワロースニコーフ、グービン、ハルマールローフ等の工場及商舗あり。

トボーリスク縣

(1) チューメン市

人口四萬一千八百四十四人(男二〇、三〇一、女二一、五〇三)ツौर河を挟む都會にして、鐵道開通前より歐露との連絡基地として殊にイルビーツの大定期市場(ヤルマルカ)に近きを以て喧傳せり。水陸交通の要衝にして貨客の往來漸を逐ふて般販に赴きつゝあり。鞣革、敷布、木細工、鐘鑄物等の製品は、西伯利に於て精巧比なく、毎年約四百萬留の産

出あり。麥酒、裘、木材、麥粉、煉瓦、膠漆、燐寸、羅紗、造船等の製造工場も亦比較的盛大なり。十五の寺院、女學校、職業學校、商業學校等の建築は宏壯にして、市の裝飾たり。合計二十有餘の四級編制市立小學校以下初等教育に屬する小學校、警察署、郡役所、治安裁判所、郵便局、各種の俱樂部、露西亞外國貿易銀行、西伯利商業銀行、帝國銀行の各支店、市組合銀行、市立銀行、工業金融組合等の設あり。毎年六月五日(露曆)乃至七月二十日に開設せらるゝ定期市には地方産の皮革、毛皮、柔毛、穀類、鑄鐵製品、鐘、木製品等年額六百五十萬留以上七百萬留の取引行はれ、數萬の標本を藏する博物館は市財産の一たり。市の歳費四十五萬餘留オムスク鐵道の開通は、本市に水陸交通の便利を付與し、附近村落の開発に資すること多大なるものあるを以て、將來に於ける本市の隆盛は正に驚異すべきものあるべし。シビールスカヤトルゴワヤガゼータ及ウエストニツクザーパードヌイシビールの二新聞あり。

(2) クルガン市

人口三萬六千六百六十五人(男一八、一三三、女一八、五〇二)オムスク鐵道沿線中屈指の牛酪輸出地にして、トボル河の左岸に在り。アレキセーフスカヤ(三月一日乃至)チーホンスカヤ(六月十日乃至)ツミートリエフスカヤ(十二月十五日乃至)コゼウエンナヤ(十一月十五

五日)ロズゼストウエンスカヤ(十二月七四日乃露曆)の五定期市には穀類、鹽、牛酪、皮革、羊毛、豚、羊、麻等年約八百萬留の取引行はる。寺院十餘、男女中學校、初等鐵道學校、工業學校、初等山林學校、及二十餘の四級編制小學校、警察署、郡役所、治安裁判所等あり。クルガンスコエ、スローヲ新聞の外西伯利牛酪組合の機關紙刊行せらる。市の歳費二十六萬留、鞣革、牛酪、石鹼、麥酒、鑄鐵、精酒、麥粉、及煉瓦等の製造工場、アルジカルイム銀行及西伯利商業銀行の兩支店、ニセゴロードスコーサマルスキ農業銀行並にヤロスラウスココストロームスキ農業銀行出張所、市組合銀行相互貯蓄銀行等の金融機關あり。

(3) トボリスク市

人口三萬一千三百六十一人(男一五七七女一五七)イルツイシユ河の左岸トボール河との合流點に在り。本縣の主府にして縣廳、地方裁判所及國財廳等の縣治機關以外に寺院(三十)男女中學校、師範學校、產婆看護婦學校、獸醫助手養成所、初等農學校、中小學校十有六等の設あり。十一月初旬より一箇月間開設せらる、ミハイローフスカヤ定期市は有名なる市場にして、皮革、毛皮、柔毛等の取引年約五十萬留に上る。陸路交通の不便甚しきを以て定期市以外の結氷期間は寂寞殆ど眠れるが如

き狀を呈す。鞣革、酒精、石鹼、蠟燭、酵母、煉瓦、麥酒、罐詰等の製造工場は、毎年の製産額約五十萬留に達す。金融機關には帝國、西伯利商業兩銀行支店、ニセゴロードスコサマルスキ農業銀行出張所、組合銀行、相互貯蓄銀行等あり。新紙シビリスクリストークは本縣の經濟狀態を詳報するを以て知らる。

(4) イシーム市

人口一萬五千二人(男七四〇五女七五九)イシーム河に臨みオムスク鐵道の同名驛を距る二露里の所に位す。有名なるジームナヤニコリィスカヤ定期市は、十一日二十七日乃至十二月十五日(露曆)を以て期間となし、皮革、穀類、牛馬、牛酪等の取引盛にして、西伯利地方イルビーツ定期市と併稱せらる。本市は鐵道開通し交通便利を加ふるに従ひ、次第に衰微の傾ありと雖、今仍は四五百萬留の取引額を保持しつゝあるが如し。五箇の寺院、男女中學校及市立四級編制小學校(六)警察署、郡役所、治安裁判所、市役所等あり。市の歳費四萬留にしてマルヂンスキ、ラスツルイ、クルイコーフ、グルイレーフ、ゼルツィセフ、スハーノフ、ポカレーフ、ゴノーヒン、カルマートスキ等の商店、相互貯蓄銀行並に麥粉、鞣革、石鹼等の製造工場あり。

(5) タラ市

人口一萬二千三百二十九人(男五、八六五、女六、四六六)オムスク市の東北二百八十八露里イルツイシユ河の左岸にあり。一年四回の定期市及毎週一回の市場開かるゝも、小規模にして馬、皮革、牛酪、柔毛其の他の取引年額總計八十萬留を出でず。警察署、郡役所、治安裁判所、市役所あり。市の歳費四萬留とす。寺院六、三級編制小學校以下七校の教育機關備はれり。鞣革、牛酪、酒精、製造の外にラルコノフ、シチエルパーコフ、ジャンスキ、メゼンツエフ、ペロゼーロフ、グリニーツインマシンスキ等の商店あり。

(6) チユカリンスク市

人口五千三百十八人(男二、六七一、女二、六一四)オムスク市を距る百十八露里チユカリンカ河岸に在り。年四回の定期市に數千の羊馬キルギス曠原より來集する光景は他に見られざる所にして、其他牛酪、豚毛、柔毛等の取引高約八十萬留に達すと云ふ。二箇の寺院、三箇の二級編制の小學校、警察署、郡役所、市役所あり。市の歳費僅かに三萬留、重なる商舖にはアフオーニン、ラルコノフ、フイゲリ、ブレンツオフスキ、ブイコトフ、ウラヂーミロフ、ベルヂンススキ等あり。

(7) ヤルトローフスク市

人口四千三百九十七人(男一、五二八、女一、五七七)イシーム市を距る二百三十露里トボール河の左岸に在りて、年四回の定期市にて取引せらるゝ地方産貨物(牛酪、皮革等)約三十萬留に上る。寺院六、二級編制の小學校三、警察署、郡役所等あり。製粉及石鹼工場の外テブルホルホフ、アプロシーモフ、エフイーモフ、ストーリセメノーフ、ラギーナ、グセーフ等の商舖あり。

(8) ツ、リンスク市

人口三千一百四人(男一、五二八、女一、五七七)チユーメン市より百六十六露里、イルビーツより五十五露里タラ河の右岸に在り。年三回の定期市には約五萬留の取引行はる。七箇の寺院と女子準中學校以下六箇の教育機關とを有するは同市の誇とする所なり。小規模なる鞣革、煉瓦、麥粉等の工場の外に市組合銀行及チエスニーツキ、バクトレフ、ゴロウイン、バラガーノフ、ダウイドフ、マールリツエフ、ミトレーニン、ツゴールコフ、クダーセーフ、ルイセーフ、ボンダレンコ、ルードネフ、サフオーノフ等の商舖あり。

(9) ベレゾーフ市

人口千四百十七人(男八〇四、女六一三)トボーリスク市を距る八百六十七露里、ボグリ

チ河のソシワ河に會流する所に在り。各二箇の寺院、小學校及警察署、郡役所あり。住民は多く土人にして専ら魚漁を業とす。カルポーフ、ノウイツキブレハーノフ等の商舗あり。

セミバラチンスク州

(1) セミバラチンスク市

人口三萬六千九百六十四人(男一九、四八五、女一七、四一九、三年調)亞爾泰鐵道開通以來頓に活氣を帯び來り、一九一四年末には人口五萬に上りたりと云ふ。回々教寺院に金色燦爛たる月章の煌くと、道路砂深くして歩行困難なるとは、異様の感を惹くに足る。七箇の寺院、男女中學校、師範學校、三四級編制の小學校(合計十四校)州廳、地方裁判所、治安裁判所、警察署、郡役所、郵便電信局、移民局等あり。十一月十五日乃至一月一日(露曆)の定期市には穀類、皮革等盛に取引せられ、鞣革、麥粉、麥酒等、製造工場は規模狭小にして製産額大ならず。市の歳費十八萬留、毎年輸出の貨物は後者約六百萬布度、前者約八百萬布度を算す。帝國銀行、露亞銀行、西伯利商業銀行等の支店、ヤロスラウスココストロームスキ農業銀行及ラルジスコークカムスキ商業銀行の出張所、市組合銀行あり。ザイサン税關經由の支那貿易中繼地として市況稍盛なり。

(2) パウロダール市

人口一萬九百三十三人(男六、〇六六、女四、八六六、三年調)イルツイシエ河の右岸に在り。河岸は常に附近の鹽湖より産出する鹽の山を以て埋めらる。製鹽者の主なるものはコリヤコーウスコエ鹽湖に於けるベイ・ペレーズニーツキ、エム・ブロートニコーフ及イ・エル・オシーポフ等、カラスークスコエ湖に於けるア・ソローキン、ボルシヨエタオルヂヤスコエ湖に於けるア・シチエルバーコフ等にして各地に輸出せらるゝ額少からず。其他礦山には、クレシチエンスキ、ナデジヂンスキ及ソフイースキ等の銅鑛あり。又エム・ウエ・スローソツオフ氏は湖岸にムヤルヅイと稱する醫療所を設けて、衆人の診療に便す。警察署、郡役所、市役所、寺院(三)女子準中學校、小學校(八)あり。十一月二十一日乃至十二月十五日(露曆)に開設せらるゝニコリスカヤ定期市には牛馬、皮革、牛酪及穀類の取引頗る盛にして、露西亞外國貿易銀行支店、市組合銀行専ら市内金融を掌る、麥酒、鞣革、麥粉、石鹼等の小規模の工場及ワヒトウ、ムルラダイローフ、アスマーノフ、クラコーウスキ、アガーフオン、バランジン、ズリヂーゲル、セズローフ、スリーコフ、ザイツェフ、オルローフ、イリオルチ、ゲルガルド等の商舗あり。汽船及保險會社の支店又は出張所は、殆んどセミバラチンスク市に於ける同様なる

を以て再び此に掲げざるべし。

(3) ウスチカメノゴールスク市

人口一萬七千五百七十六人(男九、三七〇、女八、二〇〇)セミバラチンスク市を東に距る二百一露里イルツイシエ河の右岸に在り。附近に在る金坑は、本市の生命にしてエメリヤンツエフ、メノーウシチエフ、ホチームスキ等、其重なるものたり。十一月二十四日乃至十二月九日(露曆)に開設せらるゝエカテリニンスカヤ定期市には、穀類、禽獸、皮革、蜂蜜類取引せられ、其額約五萬留に達す。寺院四、三級編制の小學校以下八學校及郡役所の設置あり。市外二十七露里の哥薩克兵村内に絶好別荘地あり。ウリピンスキと稱し、夏季の遊覽客多し。風力又は人力に依る麥粉、石鹼、麥酒等の製造工場及ハミクハノフ、ゴゼーウニコフ、ミハイローフ、ラフイーコフ、ストールリ、セメノーフ、ポドイニコフ、コステューリン、フエドローフ等の商店あり。

(4) カルカラリンスク市

人口五千八百十九人(男三、三〇〇、女二、五〇〇)遊牧を事とする土人の棲息する高原に在る小市にして、松樹蒼蒼として街衢を點綴す。本市はパウロダールを西南に距ること三百五十七露里に位し、附近には鑛山多しと雖、時々採掘を中止して作業永續

せず。寺院二、三級編制以下の小學校四及郡役所等あり。市外五十露里のクーリヤンダ邑近郊に開催せらるる(五月二十五日乃至六月二十五日)露曆)ポトーフスカヤ定期市には、附近百八十平方露里内に於ける住民殊に土人の來集する者絡繹として絶えず。其の數五六萬に上ると云ふ。同定期市にて取引せらるゝ貨物の主なるものは、牛馬、皮革、馬毛、柔毛、穀類、牛酪等にして、毎年約二百萬留を超え、帝國銀行は爲に同地に臨時出張所を設けて、商工業者の便宜を講ずと云ふ。デボーガン、デローフ、カリムバエフ、ズファアローフ、クリマレベトーフ、ノルバエフ、アルイブドジャーノフ、コセレーフ、リヤーザンツエフ等の商店あり。

(5) ザイサン市

人口五千四百十六人(男二、八八一、女二、五三三)支那の國境を距ること五十五露里に在る都會にして、一八七一年始めて露人の移住を見、一八九四年に市の名稱を得たり。露國の當方面に於ける對支策源地にして、ヅゼーメニ河の左岸に位し、オムスク市には千三百露里、支那領チユグチャク市には二百二十露里を隔て露支貿易の一要衝なり。街路は自然石を以て鋪かれ、降雨の日と雖も些の泥濘なく、清潔全西伯利に冠たり。郡役所、治安裁判所、寺院二、三級編制以下の小學校(五)あり。五月五日乃

至十八日(露曆)に開かる、ニコリスカヤ定期市には年々十萬餘留の取引行はれ、牛、馬、羊、羊毛、馬毛、皮革等の交易盛なり。附近に使用せらるる石炭はザイサン炭礦會社の採掘に係り地方の燃料に應ずるに足る。麥酒、石鹼、麥粉、鞣革等の製造工場あるも見べきものなし。露國は市の東南七十露里支那國境に近接して新にブラン市を建設するの計畫を有し、既に之が基石の建設を終れり、未だ移民を招徠するに至らず。アブドラーフ、マールノフ、アフォンボツ、ジャヤーエフ、イクラムセイホーフ、ジゲルト、ホーブキン、エルジン、カザリノフ、セメノーフ、セイフール、リンベクチェンターエフ等は本市に於ける重なる商店とす。

(6) コクベクト市

人口千六百六十七人(男一〇二七、女六六四)コクベクチンク河に沿ふキルギス人の大部落にして、露人の住民約七百を含めり。寺院一、學校三、市役所、治安裁判所等あり。住民は多く牧畜、農業及漁業に従事し、主なる商店にはアブツルリン、ボダーレフ及イスハーコフの三あるのみ。

第十章 西伯利の經濟的前途

今や吾人は本篇の結論をなさざるべからざるの機に到達せり。されど西伯利の經濟界は、目下革命の變亂中に没して社會組織の一部崩壊を來たし、社會秩序の紊亂は實に甚しきものあり。故に其の將來はこの形勢如何によりて甚だしき變態的狀態を馴致することなきを保せずして、單に革命前の狀態を以て、西伯利の經濟界に於ける將來を卜するが如きは、稍輕卒を免かれずと雖も、西伯利の社會秩序乃至社會組織の根底的崩壊を來さざることは既に今日に於て明らかなり。然らば、大戰の干戈戢まりて、露國また平調に復するの時到来すれば、必ずや大部分に於て、戦前若くは革命前の狀態に復歸すること疑を容るべからず。即ち戦後乃至革命變亂鎮定後に於ける西伯利は、戦前乃至革命前に於ける西伯利の繼續と見ること至當なりとせざるを得ず。是れ予が西伯利の經濟的前途に向つて推斷を試みんとするに當り、戦前乃至革命前の資料に準據して以て立論する所以なり。

一、農業

同地に對する殖民の増加は穀物の供給を豊富ならしむると共に一方其の需要を増加し、農業機械の増加は其價格を低廉ならしめ、此の價格低廉は交通機關の發達と相伴つて外國市場に對する穀物の輸出を容易ならしめ、且つ西伯利國內に於

ても製粉業、釀酒業及び麥酒釀造業増大すべきが故に、西伯利に於ける農業は何等の支障なく發達すべく、其輸出の主要穀物は、依然小麥なるべし。是れ西伯利に於ける農業地域の氣候的條件が、小麥の爲に最も有利なるのみならず、世界市場に於ける其需要の増々増加しつゝあるが爲なり。或は氣候の乾燥を、或は早期の酷寒を原因として、時に西伯利の各地は凶作に襲はるゝことあるも、一面よりは其農業地帯の面積廣大なると、一面に於ては其大部を占むる主要住民が耕作に堪能なる農業者なるとに依りて、西伯利農業の前途には毫も悲觀的事象の起發を豫期する能はず。依然として西伯利農業は漸々進歩の階梯を登らんとせる形勢に在り。歐露の曠原諸縣よりする移民の流入は、セミパラチンスク州及ミノーシンスク郡内に著しく普及せる日向葵、大麻等の如き工藝用植物栽培の發達に影響を及ぼすこと甚しく、亞麻の栽培は、エニセイスク縣内に急速に發達し居れり。又近き將來に於て必ず内外の注意を惹くべきは、美味にして野生なるサラナ(百合の一種)カンヂキク(片栗の一種)の如き亞爾泰産の球根科植物、及びセミパラチンスク曠原に於ける纖維質植物ケンヅキリにして、西伯利に於ては此種及其他の野生植物は到る處に發見せられ、此等は孰も栽培して以て良好なる食料及工藝用植物たらしむる

を得べきや言を俟たず。

牛酪製造業の發達は蓋多數の家畜を要するが故に、既に村落に近接せる自然の草地のみを以てしては漸次不足を告げつゝあり。されば西伯利に於ける牧草の栽培は、有望なる將來を有し、且つ面積の廣大なるは之に絶好なる基礎を供す。菜園業は南露諸縣よりの移住民の渡來と共に、セミパラチンスク州、ミノーシンスク郡其他夏期の氣候南露に近似せる諸地方に著しく發達し、蔬菜の栽培は西伯利に於ては大市邑附近に發達し、又馬鈴薯は養豚業の盛なる地方に於て特に發達せり、西伯利の氣候的條件、主として夏期温熱にして太陽の化學的光線の潤澤なる事は、蔬菜の栽培に極めて有利なり。優良なる甜菜は、ミノーシンスク郡内及亞爾泰の一部谿谷に産し、同地方は將來西伯利に於ける重要砂糖生産地たるべき運命を有す。

舟楫の便ある河流に沿へる廣大地域の針葉樹林は、木材の精製と關係せる工業の甚大なる發達を西伯利に保障し、木材の世界的欠乏は、常に西歐諸國のみならず既に北米に於ても之を豫知するに至れるが故に、原料たるべき木材の輸出をして世界的意義あらしむると共に、多數木製品業、纖維業、樅又針葉樹油業、テルベンチー

又業等の生産業は、他地に比して著しく有利なるべく、而して世界の需要に應じて尙餘りあるべし。又魚類の罐詰用として橄欖油に代用し得る胡桃油を製造する爲に、西伯利柏養植の著大なる發達をも期待し得べし。尙オビ、エニセイ兩河の下流に於て既に開始されし罐詰製造も、完全なる工業の一部類たるに至るべし。西部西伯利に於ける煙草栽培業は既往の成績の示せし如く、セミバラチンスク州及トムスク縣のピースク郡内に之に適する氣候及地層的素質を有すると雖、果して發達すべきや否や疑はしく、又此地方の煙草栽培業が歐露よりの輸入煙草と競争して以て之に堪へ得べきや是れ亦疑なき能はず。東部西伯利に於ける煙草栽培業は稍將來あるが如し。

二、畜産業

畜産業中、西伯利に於ては牛畜の牧養の爲に特に廣大なる地域と條件とを提供せられたり。されば該業は、將來同地に於て農耕業に比して一層重要なる生業の一たるに至るべきこと明らかなり。世界市場に於ける肉の需要は、今や穀産物に比して一層大に感せられ、肉の飢饉は歐洲の大工業國たる獨、佛、英等の諸國が特に著しく感じつゝあるに反して、西伯利の多數地方は、殆ど無制限に斯業を發達せし

むべき優秀なる自然的條件を具ふ。曠原地の廣大なる面積は、肉用家畜の爲に特に有利にして、益々新なる地方へ普及しつゝある牛酪製造業は、乳産家畜の盛大なる増殖を要す。西伯利産牧草は、特に水分及營養の豊なるを以て秀で、又以て地方牛の乳に特殊の脂肪を含有せしめ、且西伯利産牛酪をして極めて脂肪に富めるものたらしむ。概して西伯利は、其氣候的條件の爲に（黒龍沿道以外）其牧草は誇るに足る良質のものを有す。牛酪製造業と同種にして既にトムスク縣ピースク郡内に起れる乾酪製造業は、異常の發達を爲し來りしに徴すれば、今後西伯利に於ける有力なる殖産業の一たること疑ひなく、後貝加爾に起れる羊乳より製する乾酪も、亦良好なる將來を有す。牧羊業はクルガンスク郡内に於て大規模に行はれ、且つ同地より東方に向つて急速に發達しつゝあり。而して改良されたる羊種の養殖は西伯利に於ては凡ゆる條件に於て成功の機會を有す。更に曠原地方の渺茫たる面積は、既に歐洲に於て狹隘を感じつゝある育馬業の一大發達を喚起するに到らんこと期するを得べし。餘りに大陸的なる氣候の爲に、西伯利に移植せられたる南露種綿羊は、南露に於ける如き優良なる織毛を産せざるも、西伯利原種綿羊毛に比すれば毛質遙に優良なり。西伯利の比較的西部に於ける養鹿業は、更に一層

之を改良し、隣國瑞典に於けるが如く、鞣皮及び鹿舌を製して外國市場に供給すべく、製造業的發達の道を進むべきなり。西伯利特有の國民的事業たる馴鹿養殖業は目下益々發達しつつあり、馴鹿は北極地方の藜苔類を食するが故に、無邊渺茫たる凍土帯は、無限の條件を供給し、其の包容力は更に現在に百倍する馴鹿に對しても餘裕極めて綽々たり。

三、礦業

西伯利に於ける礦産物の採掘も亦大なる將來を有す。採金業の發達も將來必ず停止することなかるべし。蓋し金礦に於ける金の採取は、益々普及しつつある優秀なる技術的方法の利用、採金所の施設に要する諸材料の運賃の低下、及び新産金地沿海州、アナヅイル河畔等の發見等の爲に、當然發達せざるべからざればなり。

石炭業の發達も亦極めて確實にして、汽船業の發達、新鐵道線の敷設、工業に於ける蒸汽力の増大せる使用、大市邑附近に於ける森林の廢滅等は發動力としても又暖房用としても益々石炭の需要を喚起す。銅はキルギス、スカヤ曠原及び亞爾泰に豊富にして、比年著しき發展を示しつつある西伯利の電氣業に缺くべからざるものあるが故に、其の採掘は益々發達せざるべからず。西伯利に於ける採礦業の

發達の遅々たるは、一面その將來の有望を保障するものなり。

西伯利は烏拉爾、亞爾泰及極東に豊富なる鐵礦を藏すれども、未だその採礦業發達せざるが爲めに、全西伯利は鐵の欠乏を感ずること極端にして、毎年約千百萬布度の鐵及び銑鐵を輸入せり。實に無盡藏を以て目すべき亞爾泰連山の鐵礦は、將來必ずや世界に於ける鐵の需要に應ずべきなり。之と等しく西伯利は、隨所に最も豊富なる産鹽地、鹽湖も鹽泉も岩鹽をも有するに拘らず、漁業に要する鹽約五千萬布度を外部より輸入しつつあり。將來西伯利に製鹽業の發達せざるべからざるは、之を以ても瞭なり。又西伯利の或地方に於ける黒鉛及び石綿の豊富に存する事は、將來に於ける其採取の發達を擔保するものなり。

四、園藝業

西伯利に於ける農業及礦業は、其進歩殷盛に對する凡ゆる機會を有するも、前述諸業の如く爾餘の凡ての大陸業が皆確乎たる將來を有するにあらず。即ち大陸業としての園藝業は、氣候的條件の爲に其不成功に終るべきことや歴然たるものあり。若し西伯利と土耳其斯坦との鐵道連絡完成せらるゝ曉には、同地産果實は西伯利に漲溢し來ること明かなるが故に更に一層成功の見込なしと謂はざるを

得ず。然れども亦一方に於て西伯利は優秀なる果實酒及ジエリーを製する各種の漿果を有するが爲めに漿果栽培業は廣く發達する事を得べし。

又西部西伯利に於ける養蜂業も果して發達すべきや疑なき能はず。亞爾泰に於ては、其自然的條件の變化が斯業に不利となり、草地の開墾森林の減少、寧ろ却つて衰微の兆あり。又黒龍沿道に於ては斯業は、其販路を有せざる爲に産業として發達する能はざるべし。

五、漁獵業

一般的條件は狩獵業に對しても阻礙的に變化し狩獵地域の減少殊に濫獲の結果、果獸類の減少甚しく、イルビーツ定期市に搬出すべき黒貂の數も著しく減少せり。但し一九一六年に至る迄黒貂の狩獵を禁止し、狩獵の時期を調節する一般狩獵法を施行し、又西伯利の諸地方に禁獵地を設定し、更に所々に開始されし高價なる柔毛皮獸の人工的養殖法の如き種々なる施設は或は西伯利に於ける産業的獸類の減少を防止し得たるなるべきも、其の實行に就きても疑はしく、其結果は未だ之が調査を見ざるも稍效ありしは明かなり。西伯利の諸河川及び湖沼に於ける魚類の一般的減少の結果内地の需要を目的とする漁業、黒龍沿道に於ても減少せんと

する疑ひあるも、其代價としては外國市場へ輸出すべき高價なる魚族の罐詰業は沿海州、勘察加州方面の漁業と共に大に發展しつゝあり。今や日本人の手にその漁獲の三分の二以上を奪はれたりと雖も、之によりて同地方の利源は寧ろ開發せらるゝの運命にあり。

六、精製工業

精製工業に關しては西伯利に於て斯業の發達を阻害する條件と障害とは、將來に於ても果して之を完全に除去し得るや否や其豫想困難なり。若し牧羊業が結果する細毛機織業が全然歐露へ奪はるゝとせば、西伯利に於ては單に多少の細毛織物業のみ發達すべし。概して西伯利に於ては石鹼、ステアリン蠟燭、各種の皮革及角製品、刷毛(西伯利産刷毛は最も優良なりとせらる)の二大製造業を創始し且つ發達せしむる事可能ならん。即ち地方に良質の材料を潤澤に有するが故に、此種製造業を企畫せんが爲には事業の運轉資本及技術的設備を要するに過ぎず。又原料品の低廉なるは、西伯利に於ける斯かる事業の最も高價なる技術的設備を償ふて餘あるべし。製鐵業は同一地域内に石炭と鐵の一大礦床集中せるが故に、其の發達には絶好の條件を具備せり。更に最近に於ける鐵道開通の豫定、沿海州及

亞爾泰の鐵鑛所在地内に存するは、製鐵業の將來に向つて益々光明を與ふるものならずんばあらず。更に又比較的人口の稠密なる亞爾泰に於ては製鐵業の發達すべきは必然なりと雖も、比較的纖細なる鐵若くは金屬製品及複雑なる機械の製造は期すべからず。是れ斯かる製品の販路を地方に求むる能はざるが爲なり。然れども、同地に於ける比較的單純なる農業機械製造の發達は當然を以て期待する事を得。又地方的需要は、同地に製紙場、木製品及纖維業工場(外國市場への輸出用)、燐寸工場(蒙古に於て益々需要増加しつゝある)并に硝子及磁器工場等の開設を惹起し、之が隆盛を來たすや必せり。露國製品と地方製品との競争は、若し地方企業家が價格の低廉なるを旨とし、其性質を顧みざる所謂粗製濫造を行ふに於ては到底前者の敵にあらざること明らかなり。

七、西伯利の對世界經濟的使命

之を要するに、西伯利が地方精製工業の盛大を期せんとするは無理からぬと雖も、同地の世界經濟界に對して有する重大意義は寧ろ専ら原料採取の地たるにあり。原料品は産地に於ては比較的價格低廉なれども地遠隔せるが故に運賃の高きを免かれざるに拘らず、現今歐洲市場に於て良好なる販路を有し、西伯利の資本

も製造工場的事業に比し一層有利なる事業として益々此方向に向つて注入せられつゝあり。又西伯利に於ても純原料品の輸出を、半製品の輸出に変更すべき進化が極めて可能なるが如し。即ち穀粒は麥粉及酒精とし、木材に代ふるに木製品を以てし、原料品たる皮革に代へて精製したる皮革を以てするが如し。廣大なる平野と、農業及牧畜業に有利なる條件、并に小麥及牧草成育に良好なる地層とを有する國家は、孰も特に此種の産業發達し、其産物の輸出盛にして、延いて地方住民の經濟的生活の基礎を作るを常とす。亞爾然丁、濠太利然り。又歴史的に若き北米合衆國も亦然り。現在に於ては最早工業的國家のみ獨り高等文明を具有するものと思惟し難く、土地耕耘の原理に通じて農業を營む北米合衆國の農民は、大都會の附近に於て生活の苦難を嘗めつゝある工場労働者に比すれば、殆んど比較すべからざる底に健康にして幸福、且つ文化の度高し。生活上必要不可欠の物資、即ち簡單なる織用布簡單なる履物、及食料品等の世界製産額は、一方奢侈品若くは必需品製造の増加の爲めに影響せられて、比較的漸次減少せる結果、必需品價格の騰貴著しく、之に比して労働賃金の増加大ならざるに反して、生活費は世界的に著しく騰貴せり。故に若し從來支配權力が工業國に屬したりとせば、今後農業國が此

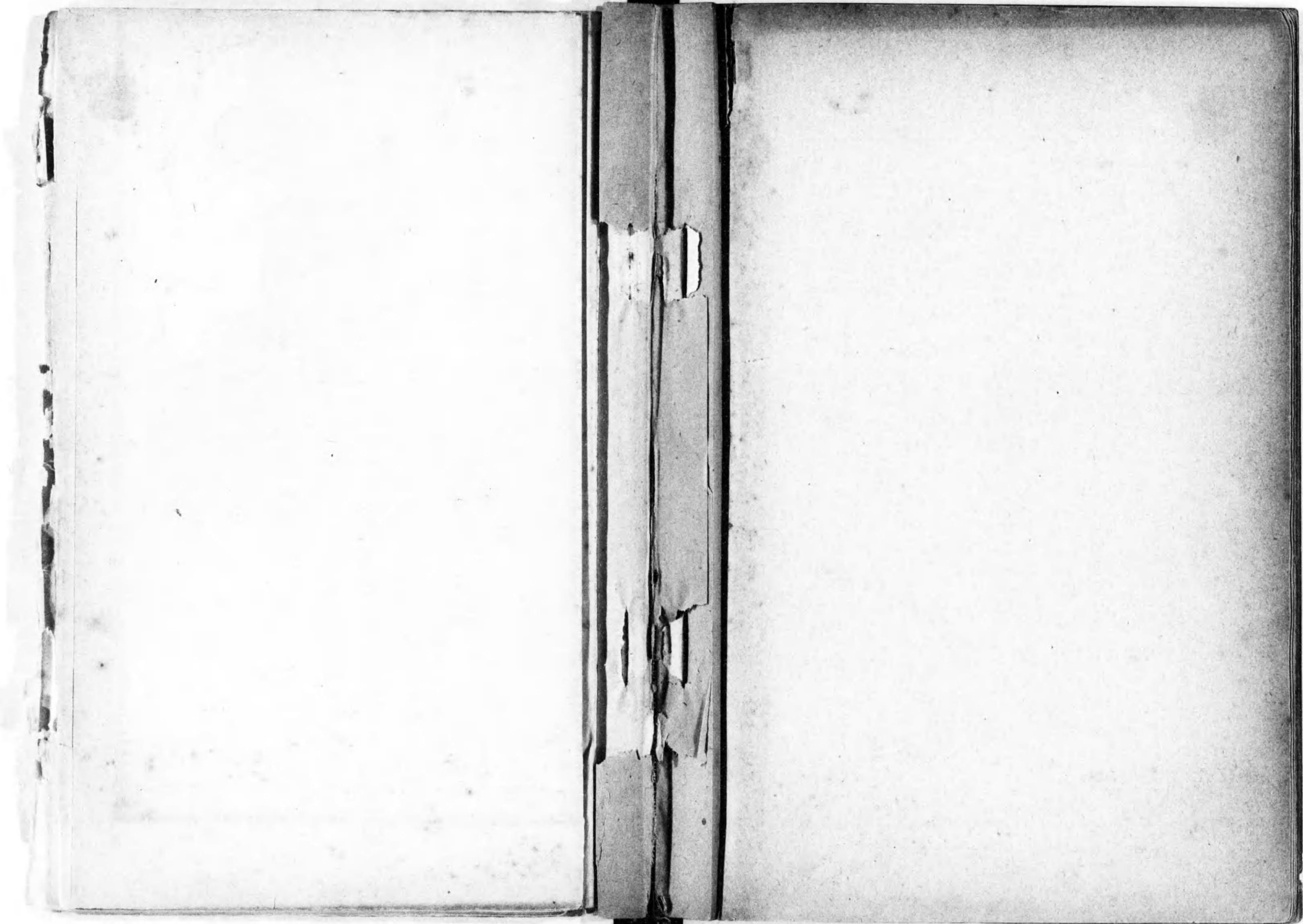
等諸國を其意の儘に左右し得る時期の到來する事必ずしも期し難しとせず。即ち工場製品の多くを有せずして、尙好く生存し得べしと雖も、穀物及肉類等を有せずして人類は生存せんこと不可能なればなり。

西伯利の世界に對する經濟的意義乃至使命は、實にこの必需品即ち原料品の供給に當るにあり。大工業地たるには交通施設技術的修練足らず、商業地たらんには地餘りに僻陬なり。唯稍重大なる意義を有するは西伯利鐵道の歐亞商業の連結を成すにあり。されど原料品供給地としての西伯利の意義に比すれば、寧ろ本末の觀あり。西伯利の經濟的前途に於ては先づ此意義と使命との理解を要す。

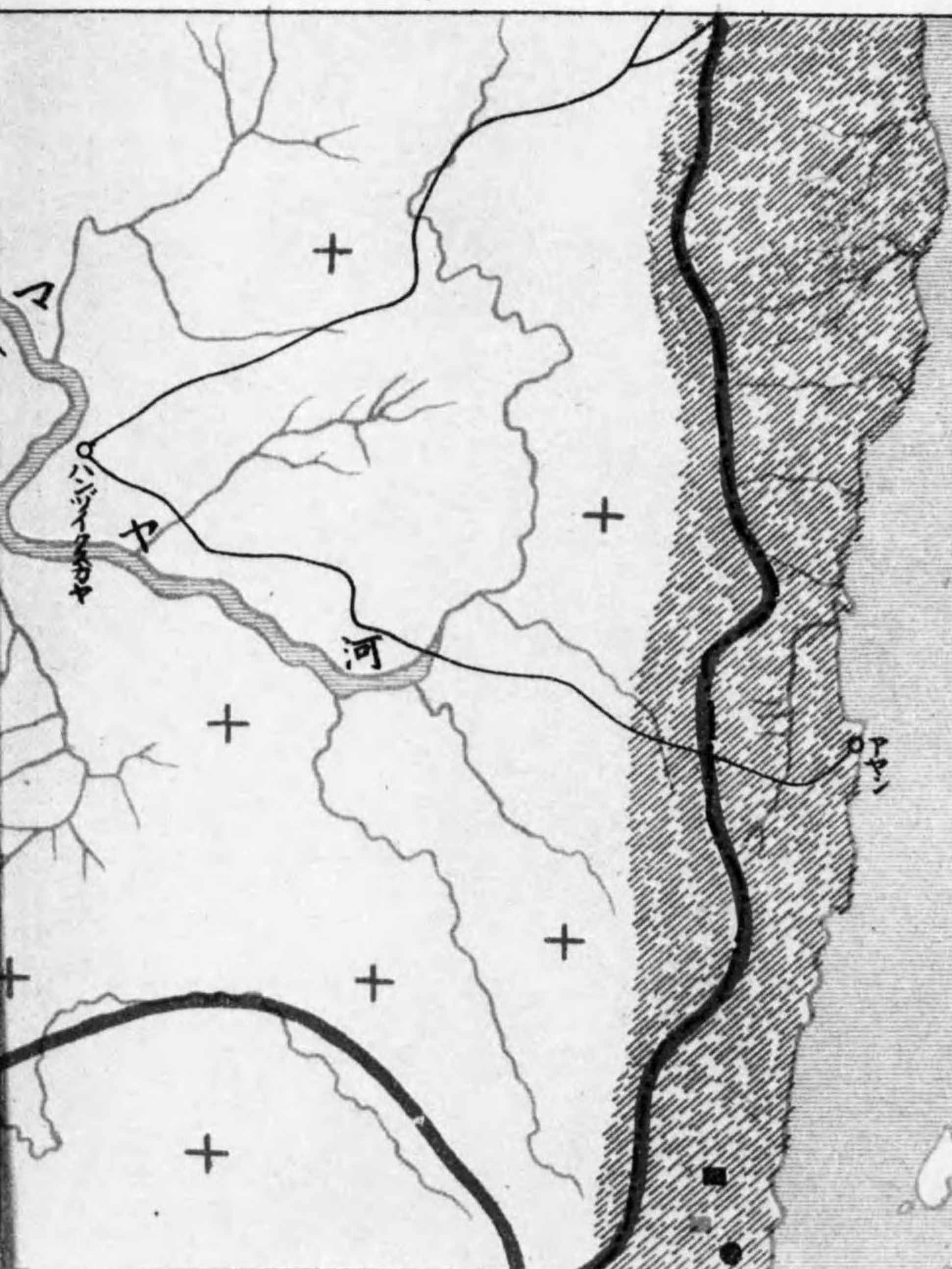
一度此の意義と使命との理會の上に立つて、西伯利の經濟的前途を瞰望すれば、西伯利の經濟的運命の將來は實に洋々たる希望に滿てり。假令その生産地域の狭小なる憂ありと雖も、小麥生産地域の如きは、世界最寒地附近に迄延伸し、殊に歐露産小麥は西伯利の獨特なる氣候と環境とに順應せしめられ、必ずしも秋期の早寒に累せられざるに到れり。是等の早熟小麥は、他の秋期寒氣到ること早き地方に移植せらるゝ一原種を成し、現にヤクーツク産小麥は南方高原地方に盛んに播種せられつゝあり。斯くその生産地域は益々擴大するを得べく、又蘇苔地方と雖も

馴鹿牧養に對して無限の餘裕を有す。而も西伯利生の牧草は、黒龍江地方を除きて極めて良質なるあり。更に全西伯利の包藏する礦物の量は、現今調査せられたる地域が全西伯利の三割に及ばざるに既に夥しきものあるに徴すれば、其の幾何なるかを知らず、實に無盡藏なりと稱すべし。更に山林を見魚族を見るに、何處にか其の饒多莫大なるものならざるはなし。西伯利の食糧原料品供給地としての條件は、殆んど完備せる域に達し、西伯利開發の可能性は一に係つて此點にありと謂はざるべからず。西伯利が將來の繁榮を期せんが爲めには、世界に對する原料品供給地として立つこと、是れ第一義なり。工業地商業地たらんと期するは第三義、第四義の問題なり。先づ西伯利は第一義の歩程を踏まざるべからず。西伯利經濟活動の進展は、此の第一義に立つて始めて世界的に重要意義を加ふるを得るなり。西伯利の將來は、先づ此の第一義的歩程に依つて打開せられざるべからず。

西伯利經濟地理終



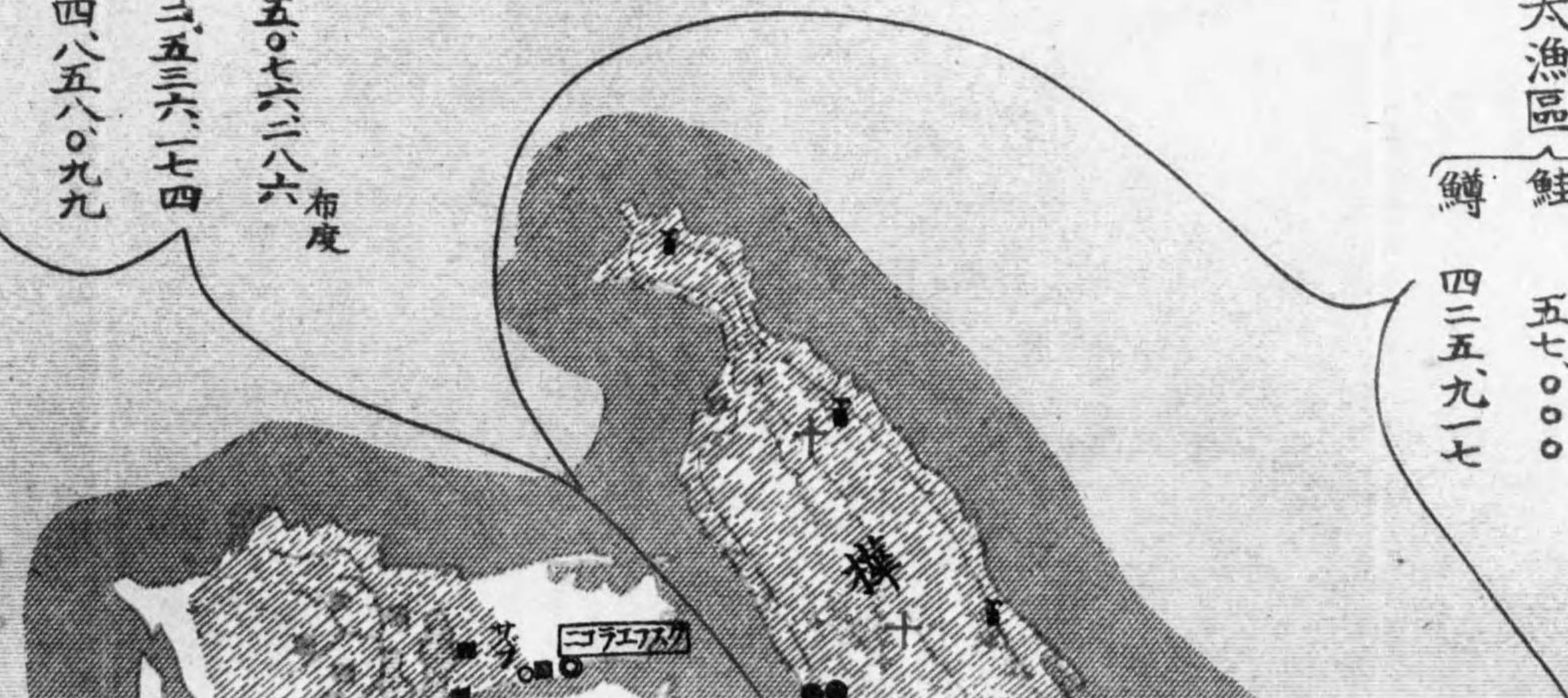
極東露領資源調查圖

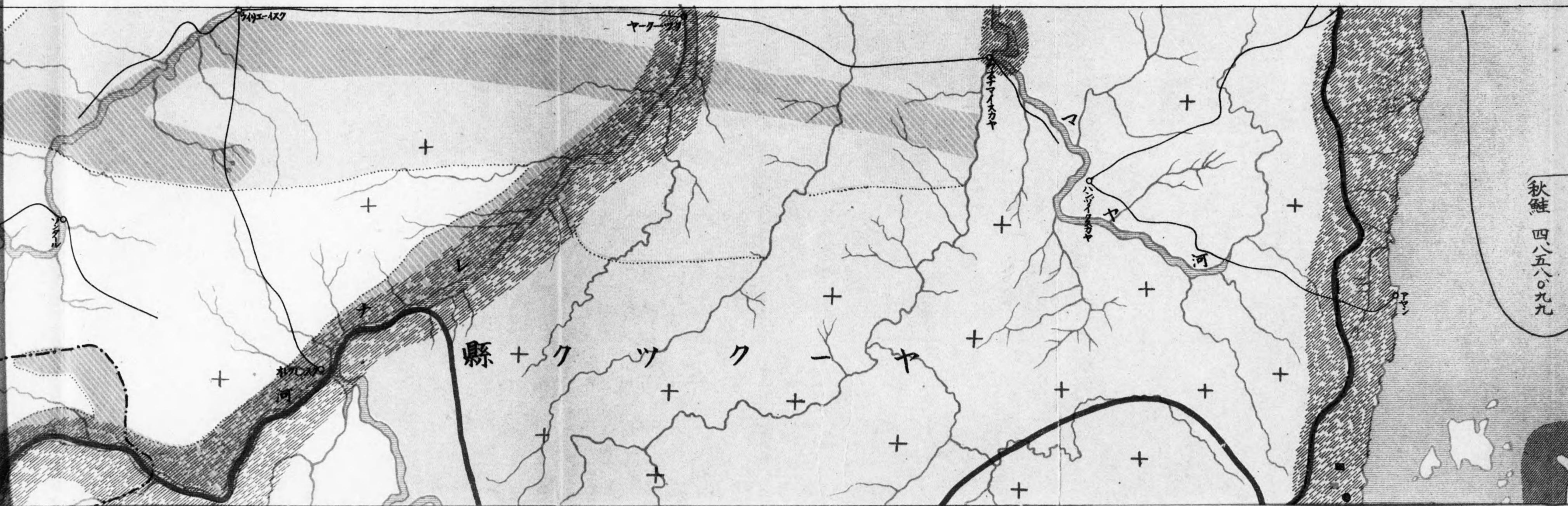


ニカラエラスク魚區
 夏鮭 一三、五三六、一七四
 秋鮭 四八五、八九九

鱒 五〇七、六二八、六
 布度

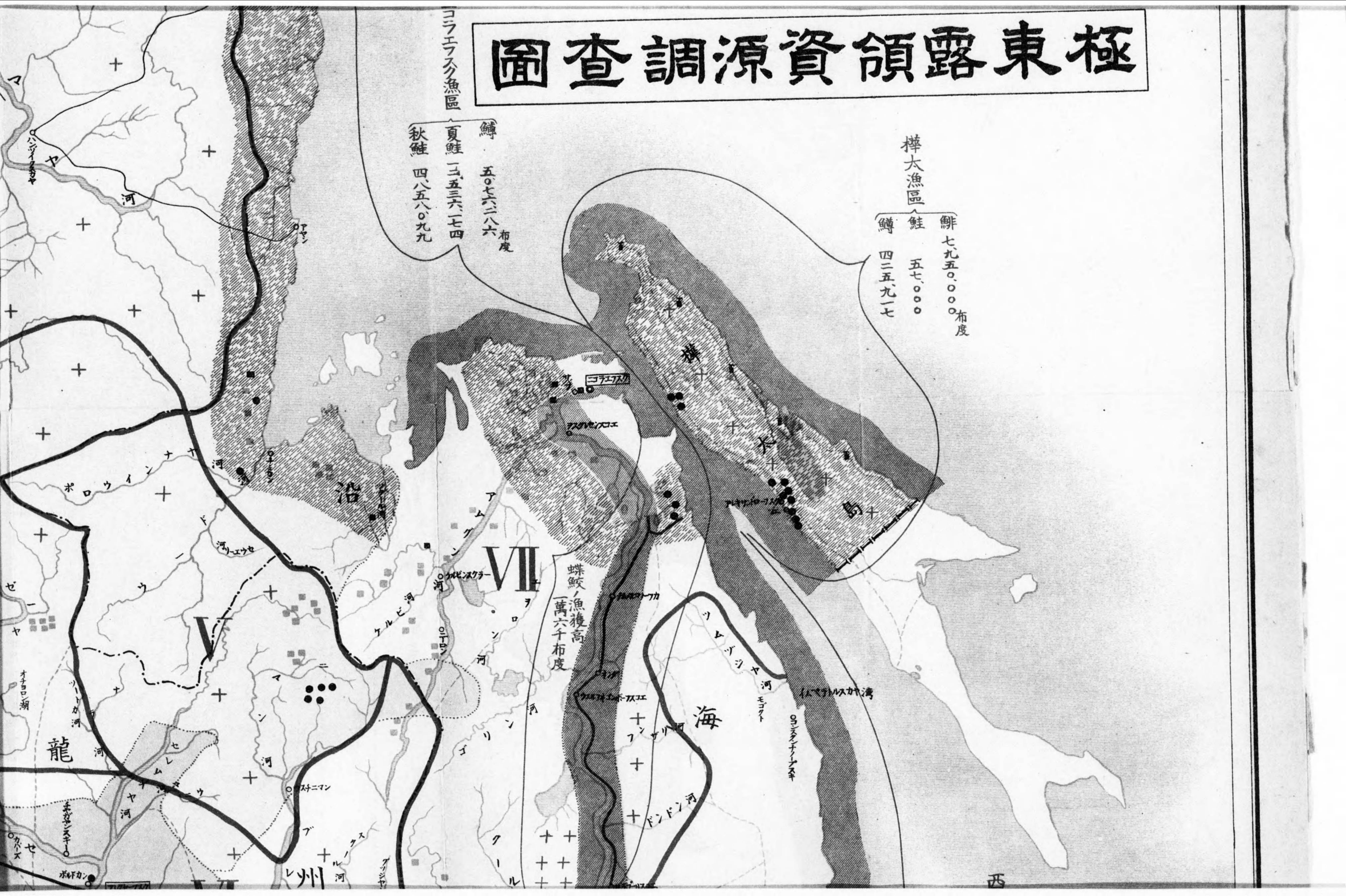
樺太漁區
 鮭 七、九五〇、〇〇〇
 鱒 四二五、九一七
 布度





秋鮭 四八五〇九九

極東露領資源調査圖



樺太漁區
 鮭 五七、〇〇〇
 鱒 四二五、九一七
 鮭 七九五、〇〇〇 布度

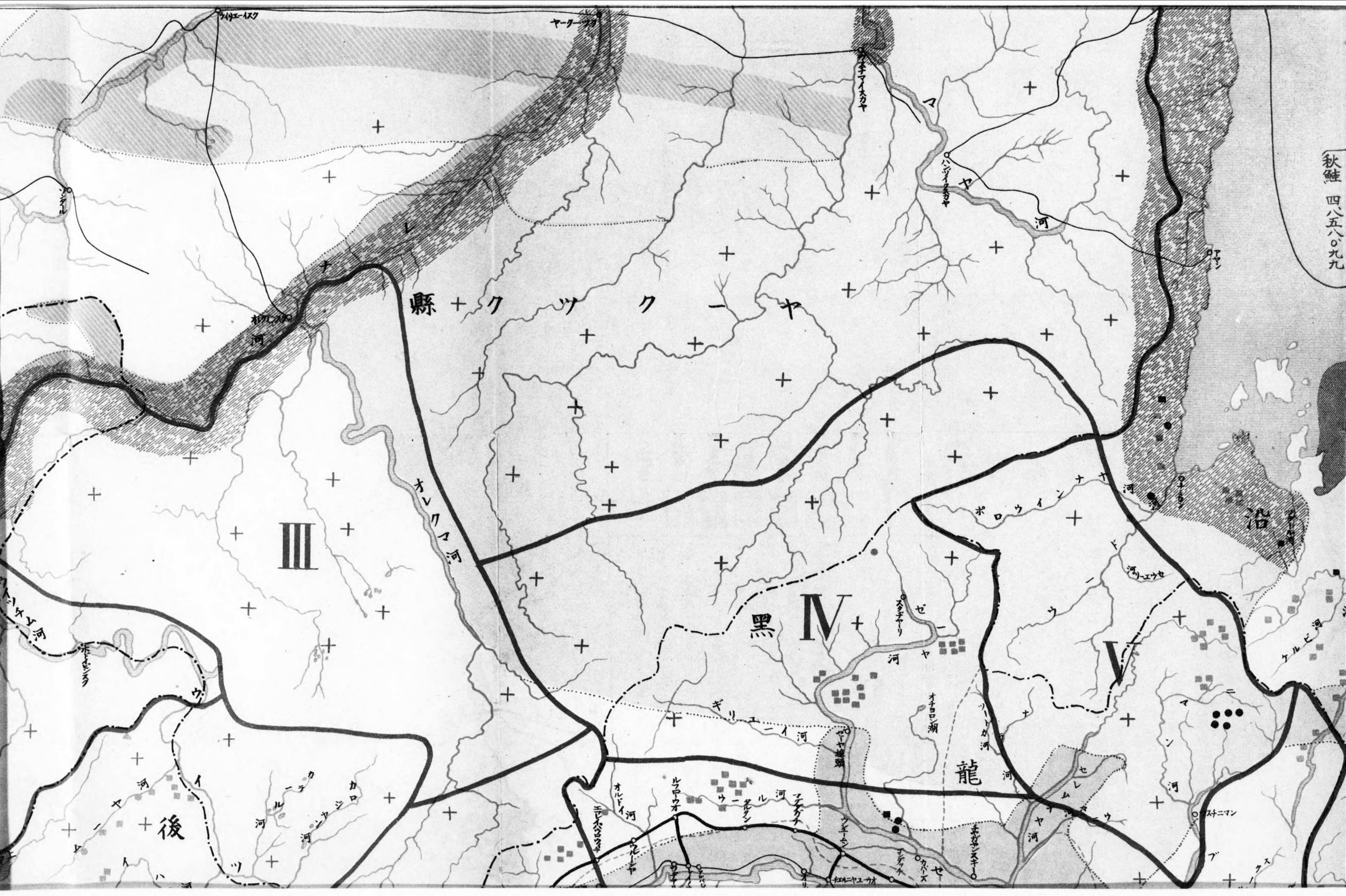
コラエラスク漁區
 鱒 五〇七、六二六 布度
 夏鮭 一三、五三六、一七四
 秋鮭 四、八五八、〇九九

蝶鮫ノ漁獲高
 (萬六千布度)

V

VII

西



縣 + ク ツ ク - ヤ

III

黒 IV

龍

後

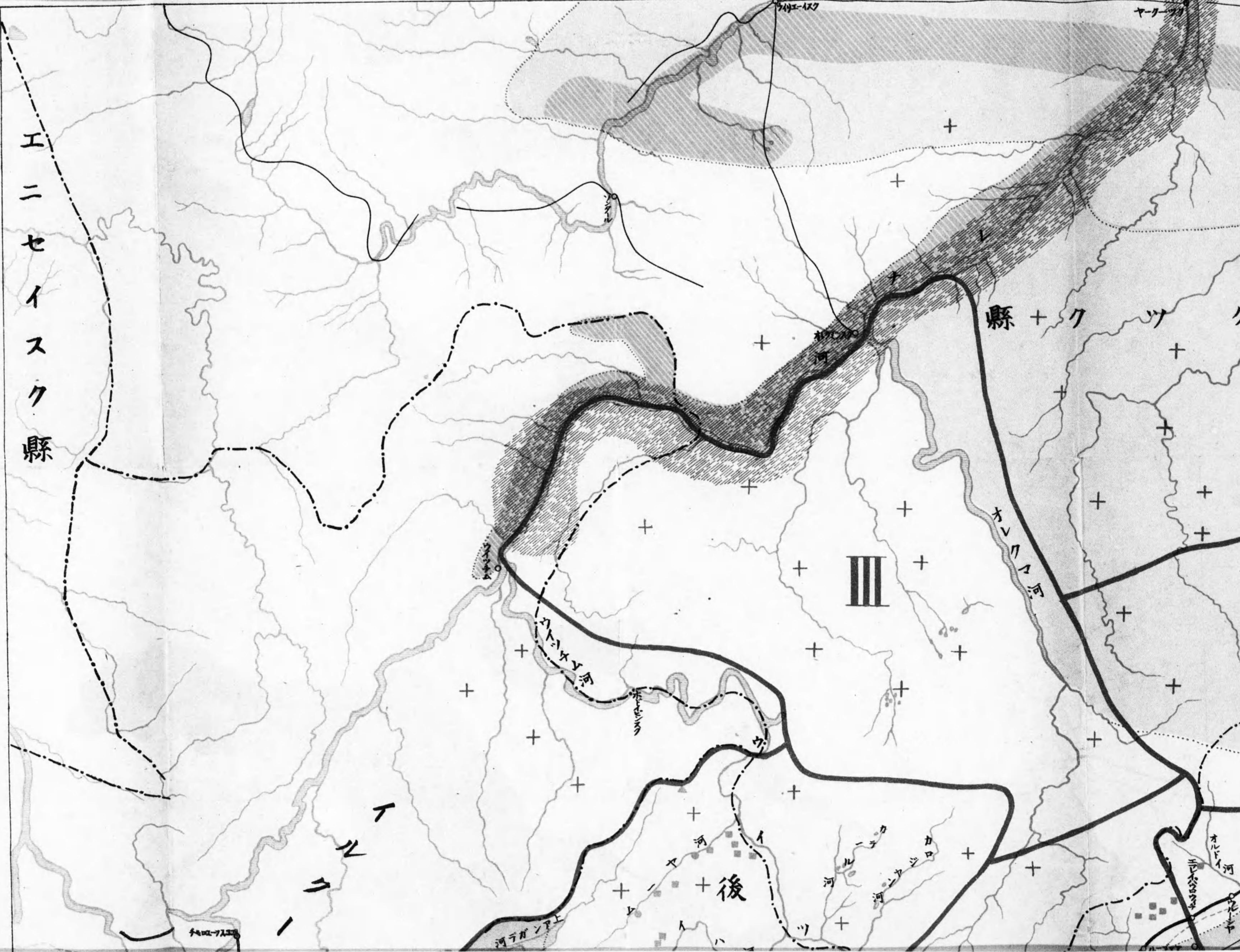
沿

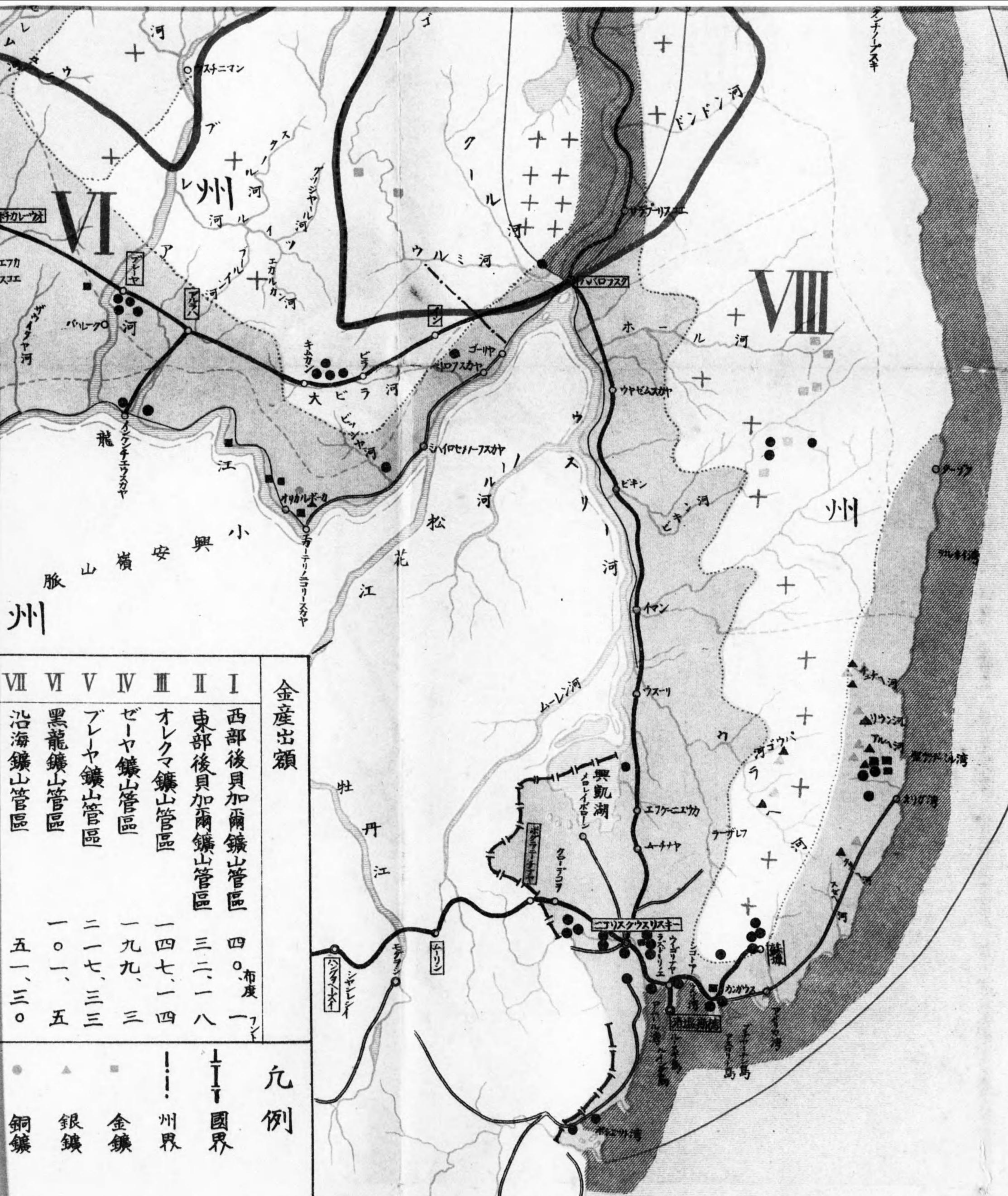
エニセイスク縣

縣 + ク ツ ク

III

後





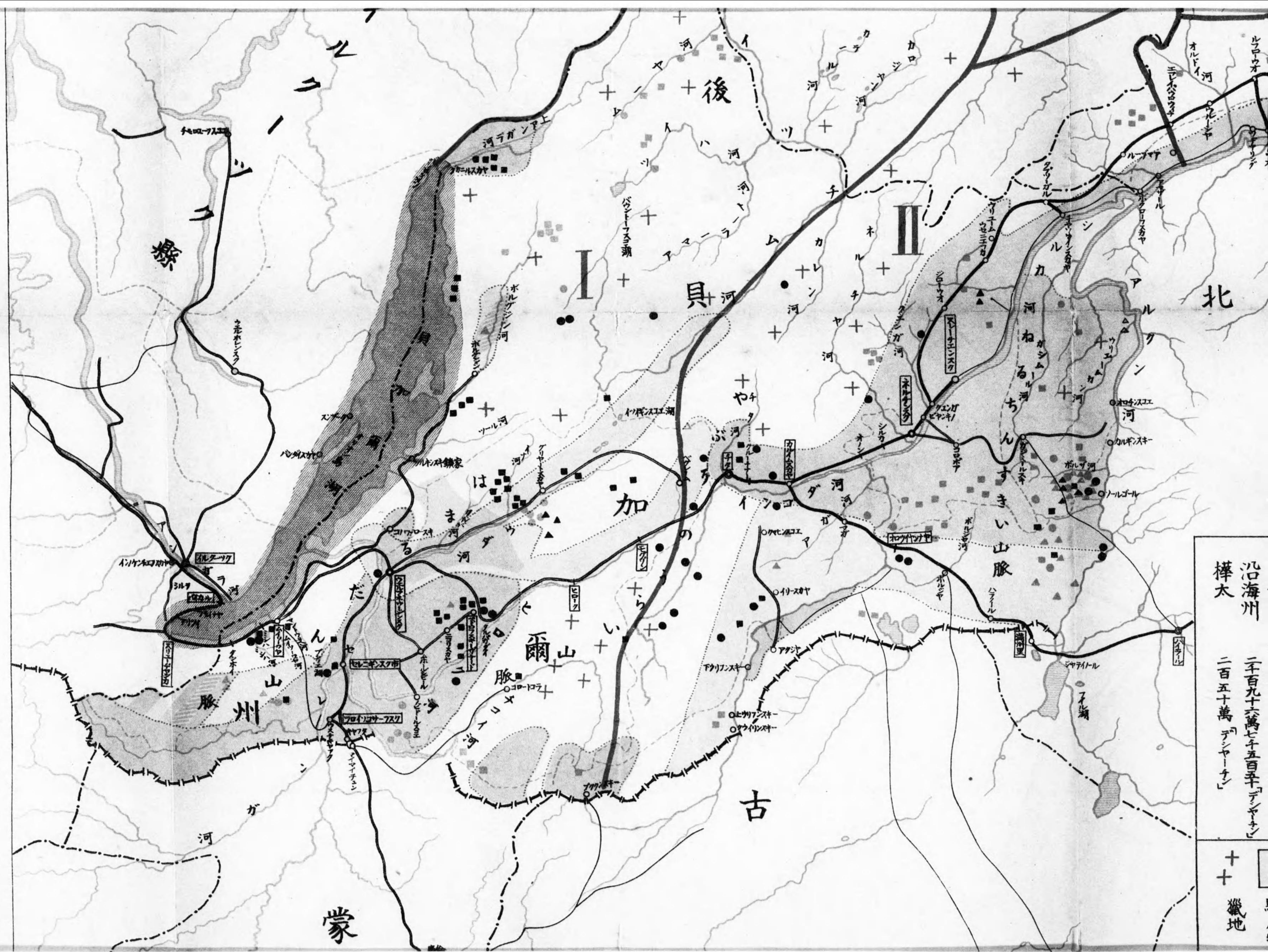
西南漁區

鱒	鮭	鮮
四一七、八六三	六三、五四五	三五、五、九七七

布度

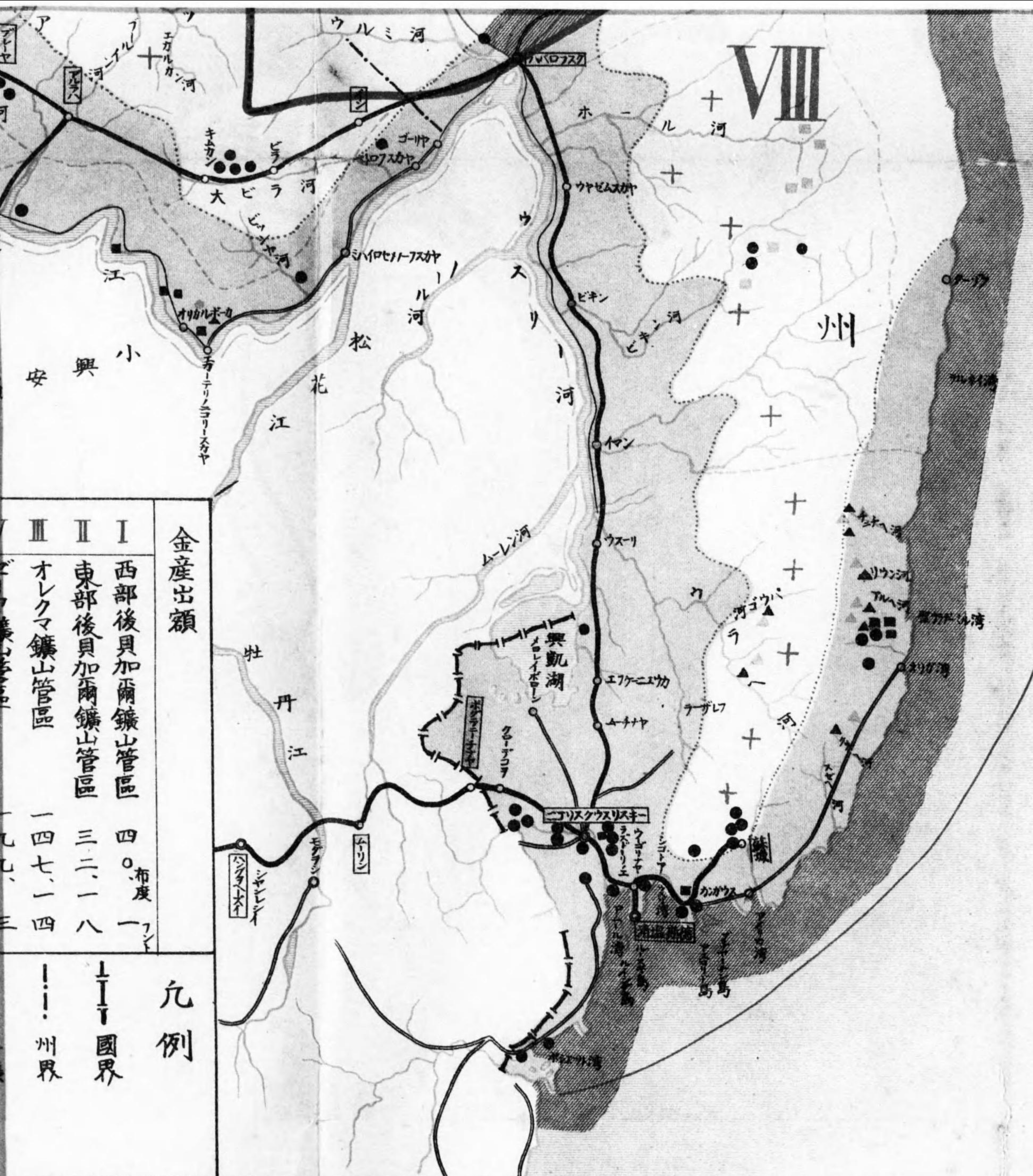
(度布位單) 考備

魚名	鱒	鮭	ギジユチ	ニヤルカ
オコツク沿岸	四三〇、〇三九	八〇、〇〇〇	五〇〇	二〇、〇〇〇
西堪察加沿岸	七、七三六、六七六	三、五三三、一五七	六八九、五八三	一九二八、七三一
東堪察加沿岸	三、三二五、〇六	一、六二一、〇二	一六、二四八	八九二、五七〇



沿海州
 樺太
 二百五十萬「デヤーチ」
 二千九十六萬七千五百平「デヤーチ」

十
 獵地



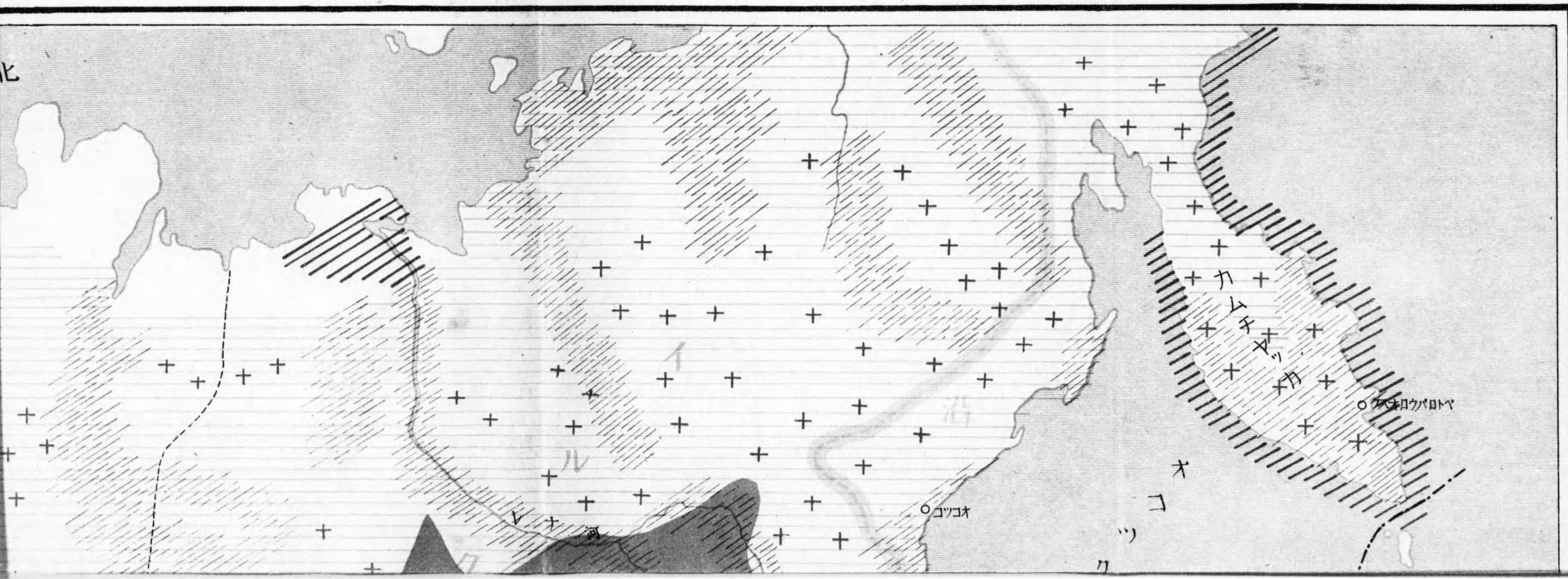
南魚区
 鱒 鮮 三、五、五、九、七、七
 鮭 六、三、五、四、五
 四、七、八、六、三
 布度

考備 (度布位單)

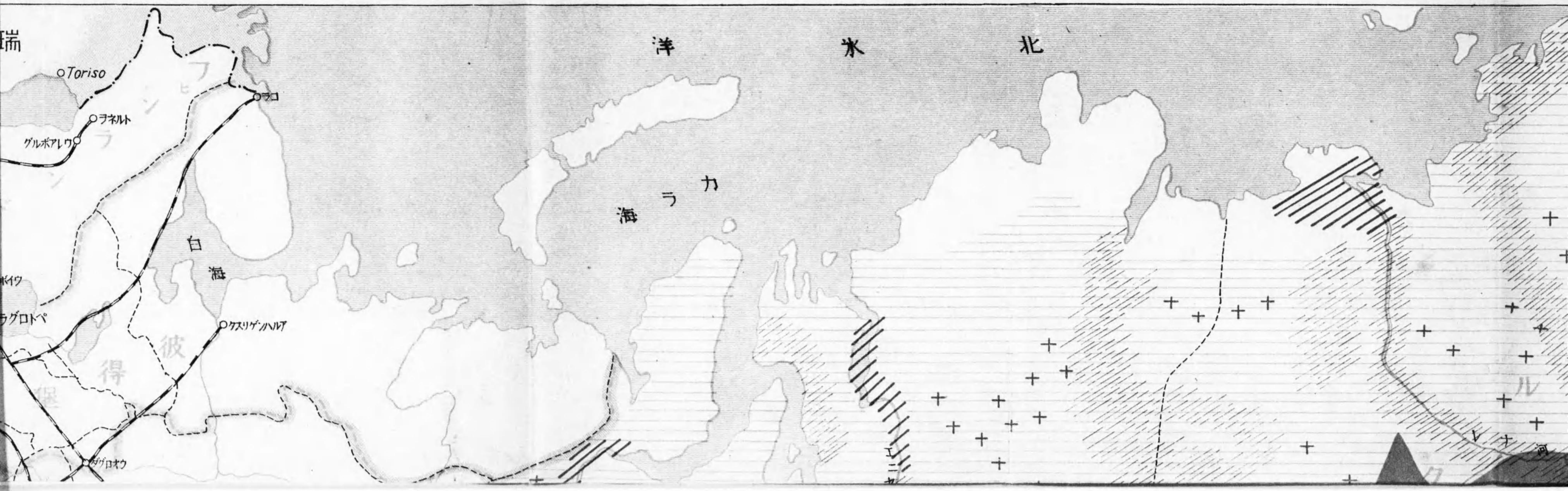
魚名	鱒	鮭	キジユチ
オコック沿岸	八〇、〇〇〇	四三〇、〇三九	五〇〇
西堪察加沿岸	三、五三三、一五七	七、七三六、六七六	六八九、五八三
東堪察加沿岸	一、六二一、〇二二	三、三二五、〇六九	一六、二四八

金産出額		凡例	
I 西部後貝加爾鑛山管區	四〇、布度一	— — — 國界	
II 東部後貝加爾鑛山管區	三二、一八	— — — 州界	
III オレクマ鑛山管區	一四七、一四		

西伯利亞ニ於ケル

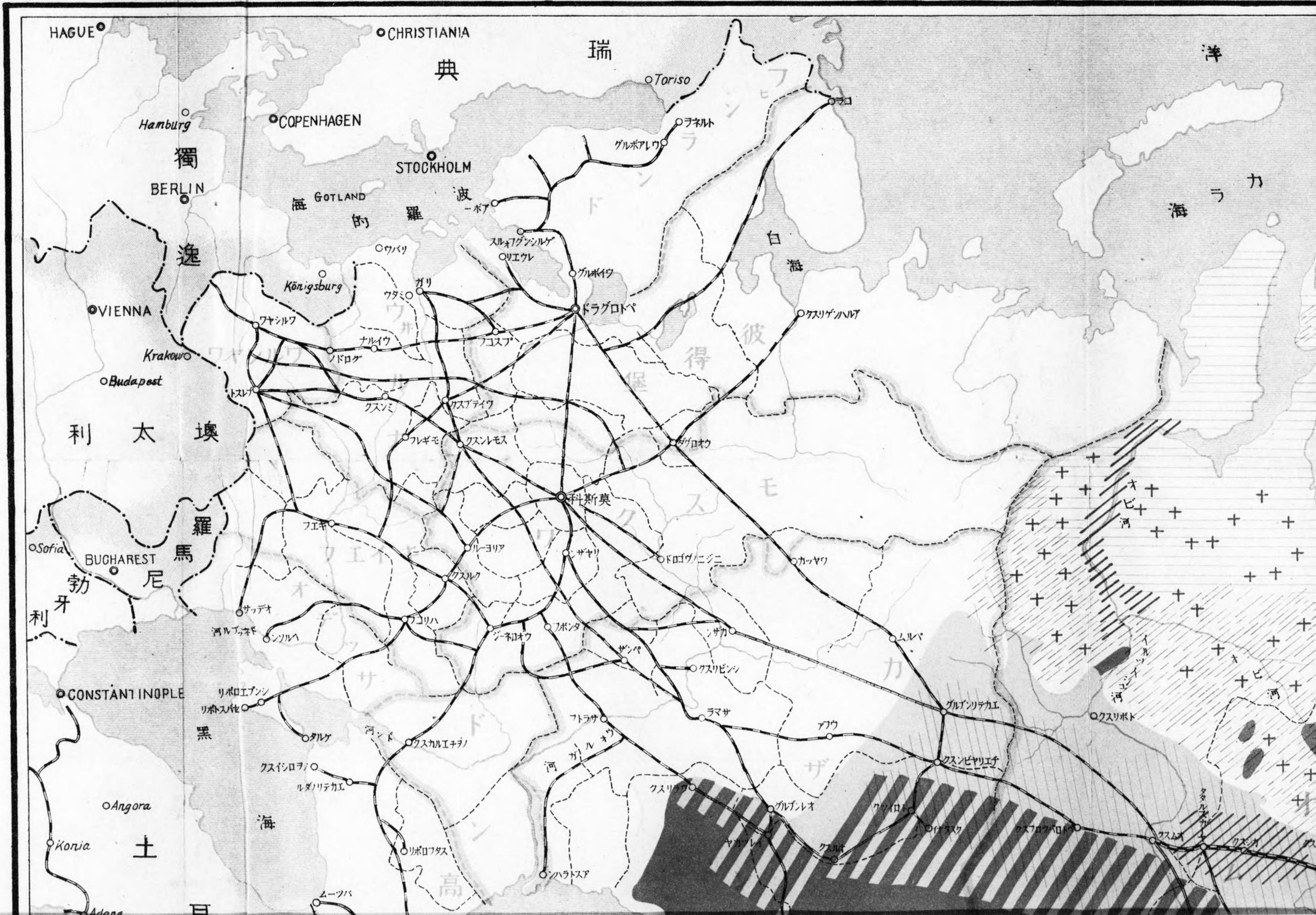


西伯利亞ニ於ケル農牧狩漁地一分覽圖



漁地區一分覽圖





HAGUE

CHRISTIANIA

瑞典

Hamburg

COPENHAGEN

Toriso

獨逸

BERLIN

STOCKHOLM

ラ

GOTLAND 海

波羅

白海

カラ

VIENNA

Königsburg

ワバリ

スルネグンシルゲ

リエク

グロイウ

ドラグロト

クスリゲハ

Krakowo

ワヤシルフ

ワタミ

ガリ

ナルイウ

アコスタ

Budapest

トスレ

アドロケ

クスマ

クスタイウ

クスマモス

カゴロウ

利太

Sofia

BUGHAREST

フエキ

ルエヨリア

ザヤリ

ドゴウニジニ

カッウ

勃尼

サッデオ

アコリハ

ジネオウ

フボタ

ンサカ

利牙

河ルゴネ

ソルハ

アコリハ

ジネオウ

フボタ

ンサカ

CONSTANT INOPLE

リポロエフシ

リホスバ

タルケ

クスカルエチ

フトラサ

ラマサ

アウ

グルンリテカ

クスリボト

黒海

Angora

クスイシロ

ルダリテカ

フトラサ

クスリ

グルンレ

クソ

クソ

クソ

Konia

土

リポロフタ

ンハラト

クソ

クソ

クソ

クソ

Adana

日

ムーツバ

ンハラト

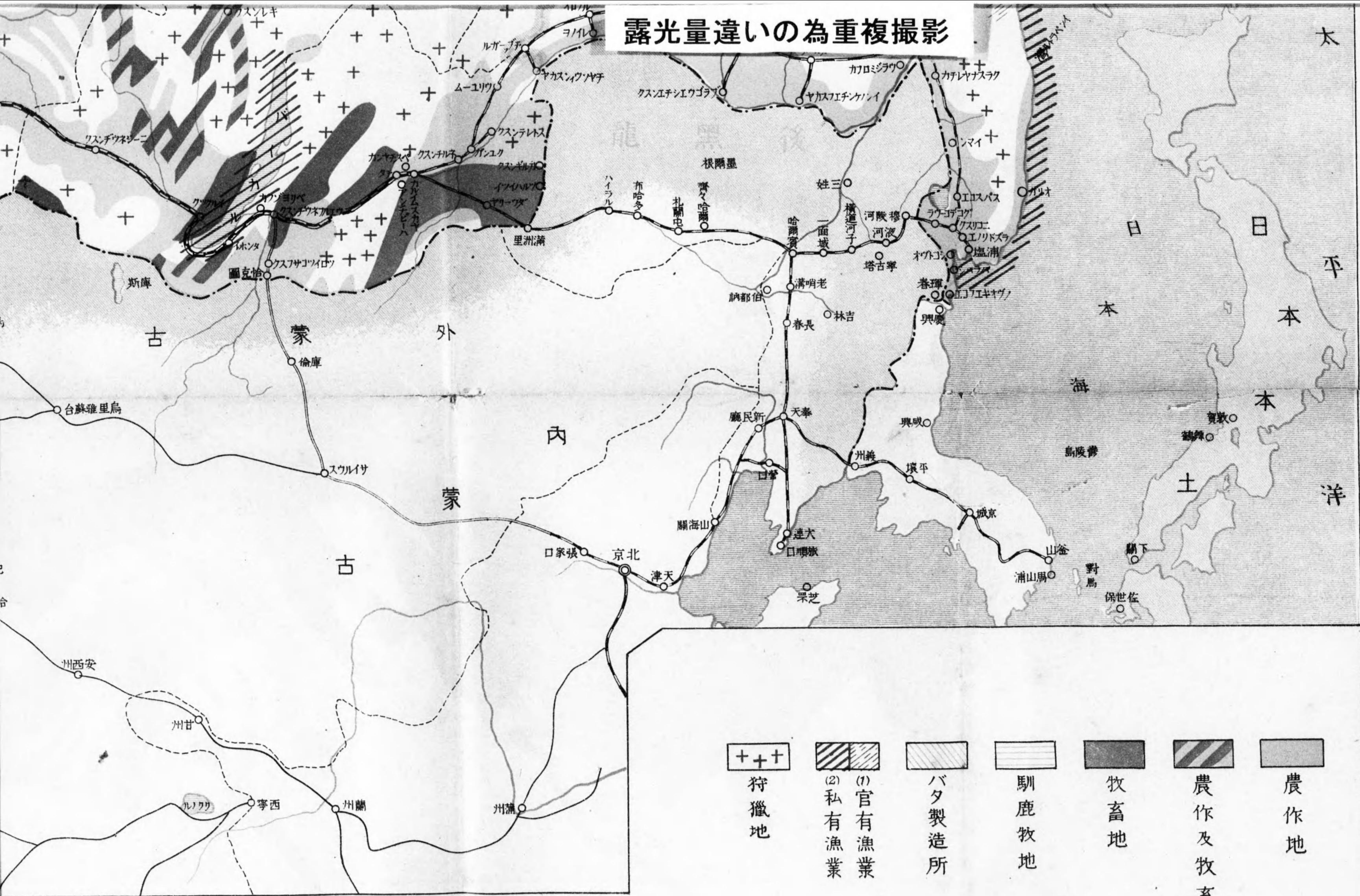
クソ

クソ

クソ

クソ

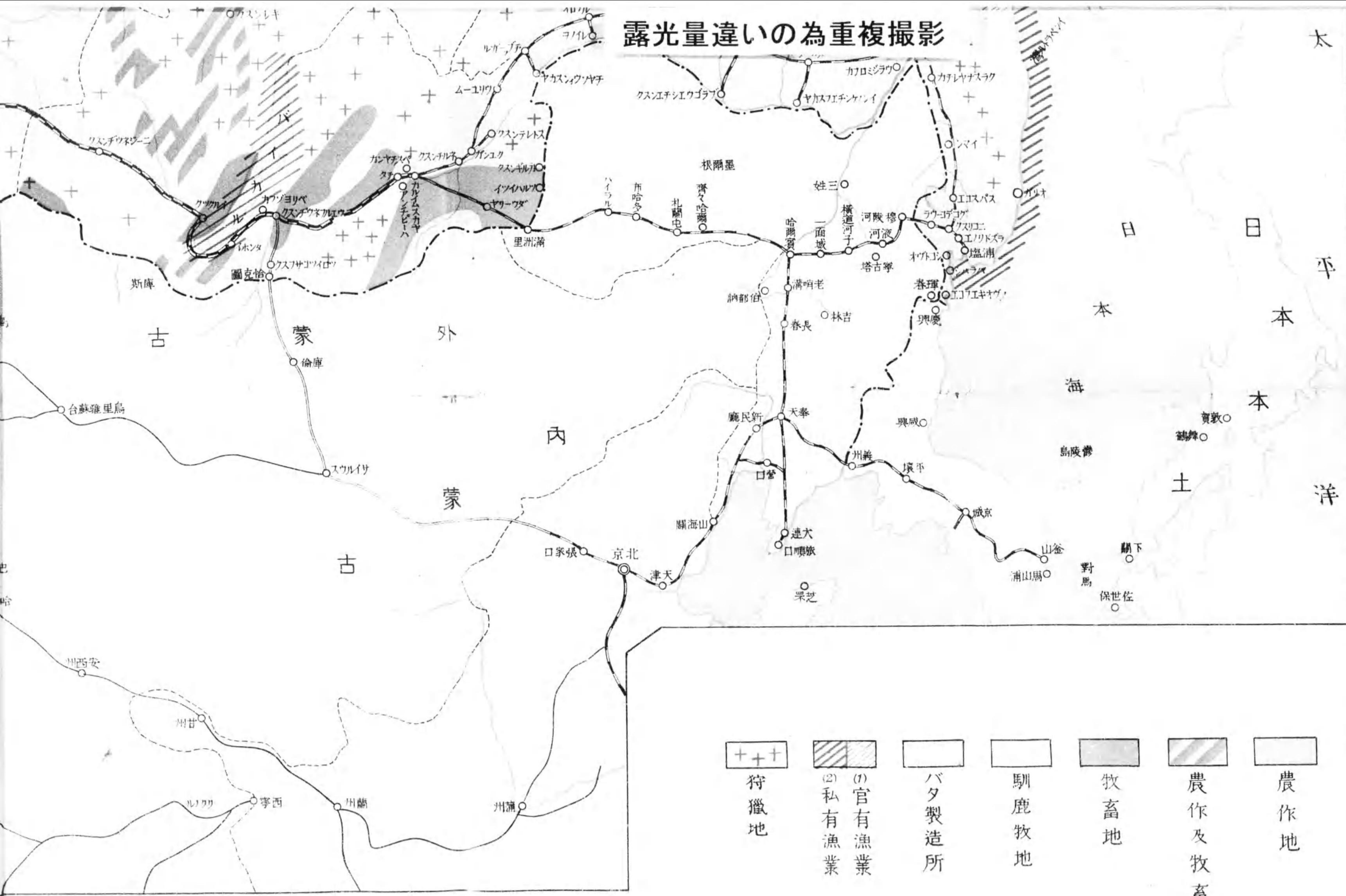
露光量違いの為重複撮影



明說號記

- 軍管區境界
- 國境
- 縣界
- 既成鐵道
- 工事中鐵道
- 豫定鐵道線

露光量違いの為重複撮影

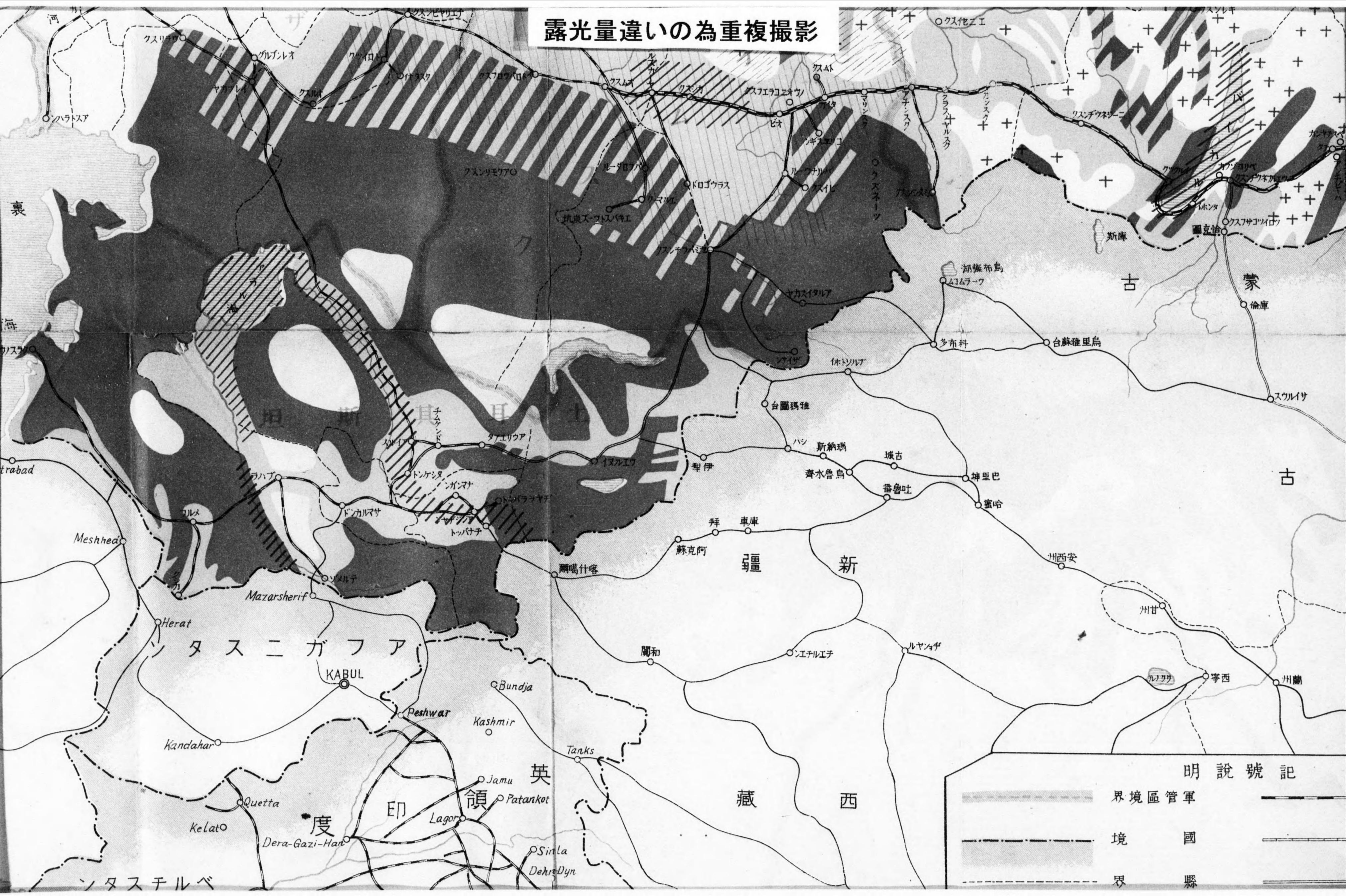


- | | | | | | | |
|-----|----------------------|-------|------|-----|-------|-----|
| | | | | | | |
| 狩獵地 | (1) 官有漁業
(2) 私有漁業 | タバ製造所 | 馴鹿牧地 | 牧畜地 | 農作及牧畜 | 農作地 |

明説號記

- | | | | |
|--|-------|--|-------|
| | 軍管區境界 | | 既成鐵道 |
| | 國境 | | 工事中鐵道 |
| | 縣界 | | 豫定鐵道線 |

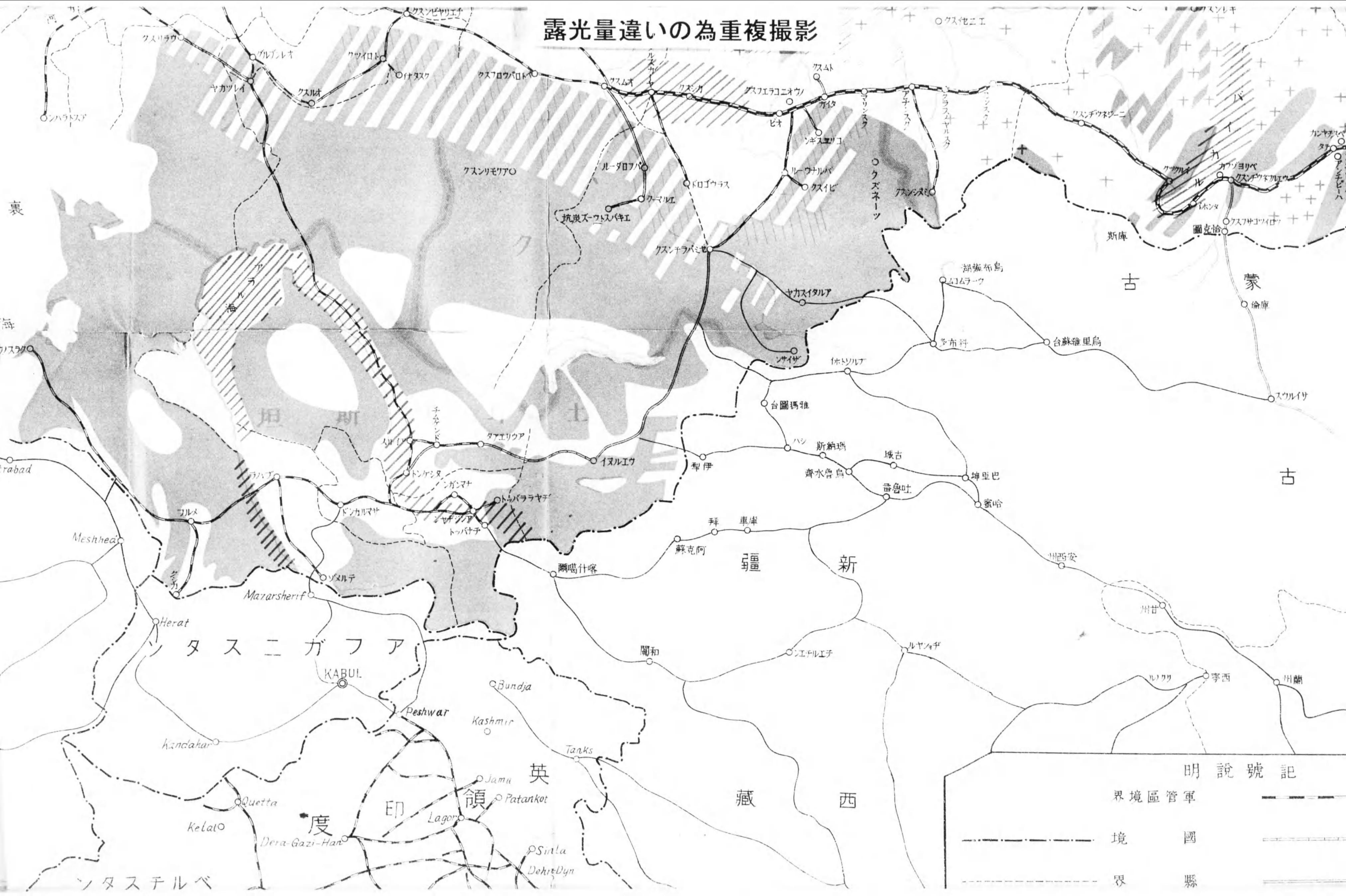
露光量違いの為重複撮影

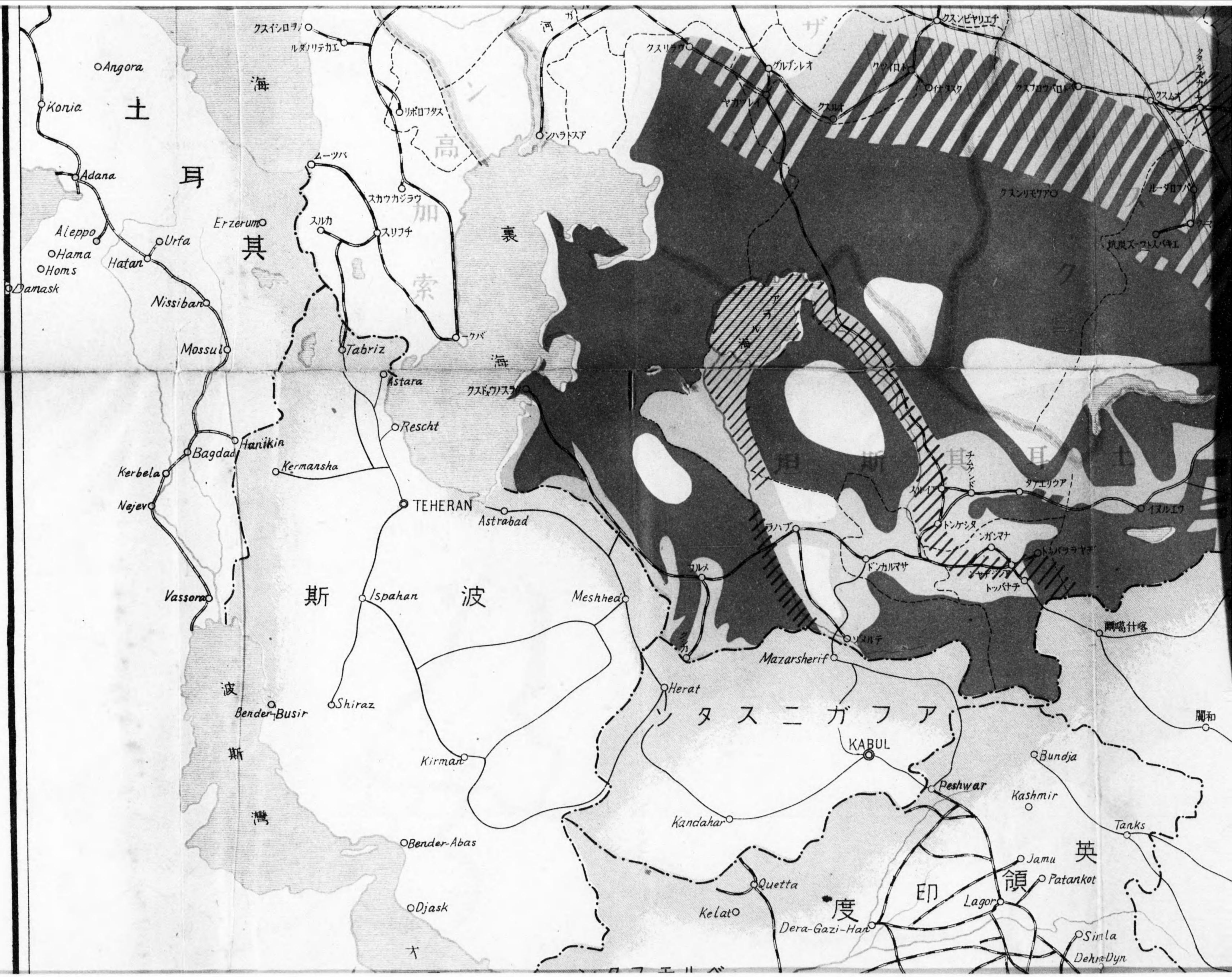


明説號記

	界境區管軍		界
	境		國
	界		縣

露光量違いの為重複撮影





Angora

Konia

土耳

Adana

Aleppo

Hama

Homs

Damask

Urfa

Hatar

Nissiban

Mossul

Erzerum

其

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

斯

Shiraz

Ispahan

波

Meshhed

Kirman

Bender-Abas

Djask

大

TEHERAN

Astrabad

Tabriz

スリフチ

スルカ

スカウカジラウ

ムーツバ

リボロフタス

シハラトスア

高

裏

海

クストフス

Rescht

Astara

コレ

ラハブ

Mazarsherif

Herat

Kandahar

Quetta

Kelato

Dera-Gazi-Han

KABUL

タスニガフア

Peshwar

Kashmir

Bundja

Tankas

Jamu

Patankot

Lagor

Sinla

Dehrs-Dyn

關和

喇嗎什喀

イヌルエウ

ダエリクア

チケンド

トクゲシタ

ガンサ

トッパチ

ドナルサ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

トッパチ

抗展ス-フトム(キ)

ル-タロフハ

クスム

クスム

クスム

クスムモリア

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

クスム

英

印

度

領

度

度

度

度

度

度

度

度

度

度

度

度

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

關和

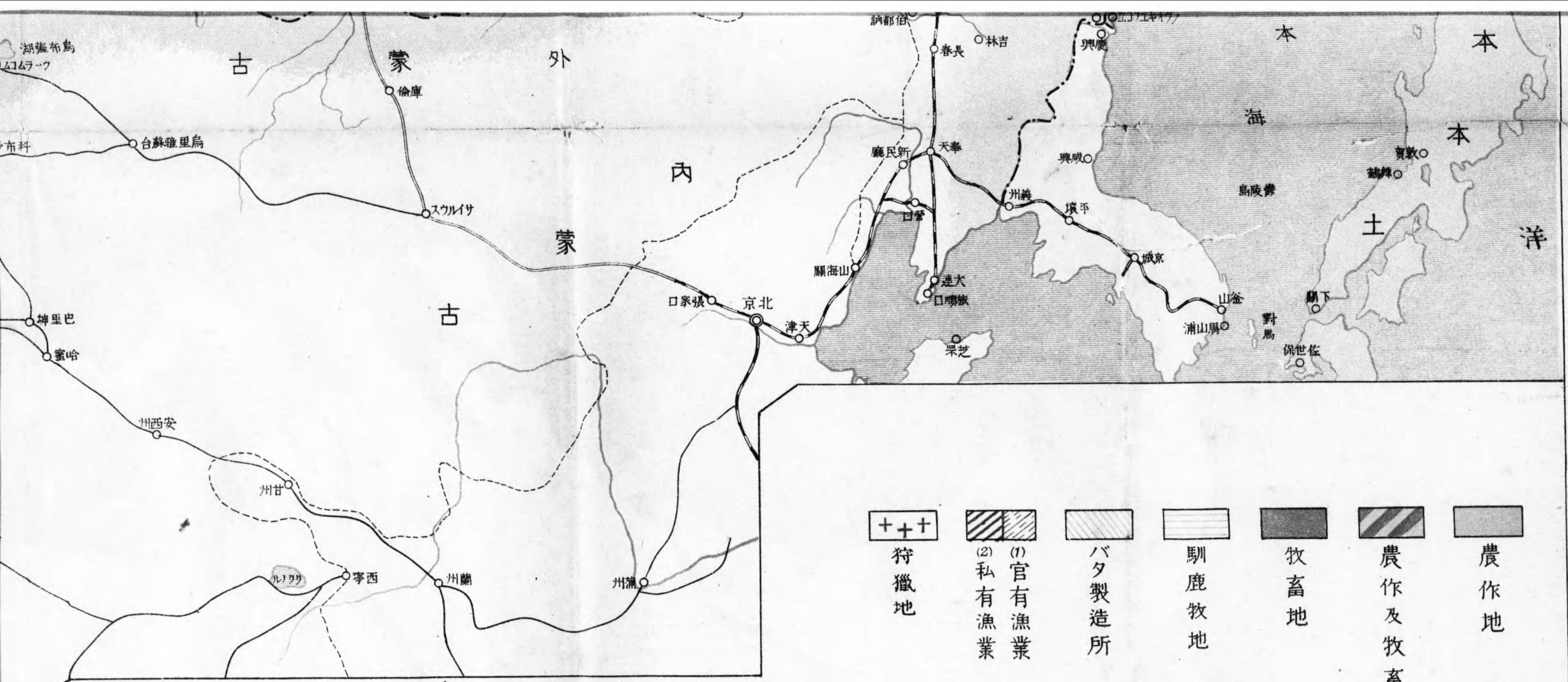
關和

關和

關和

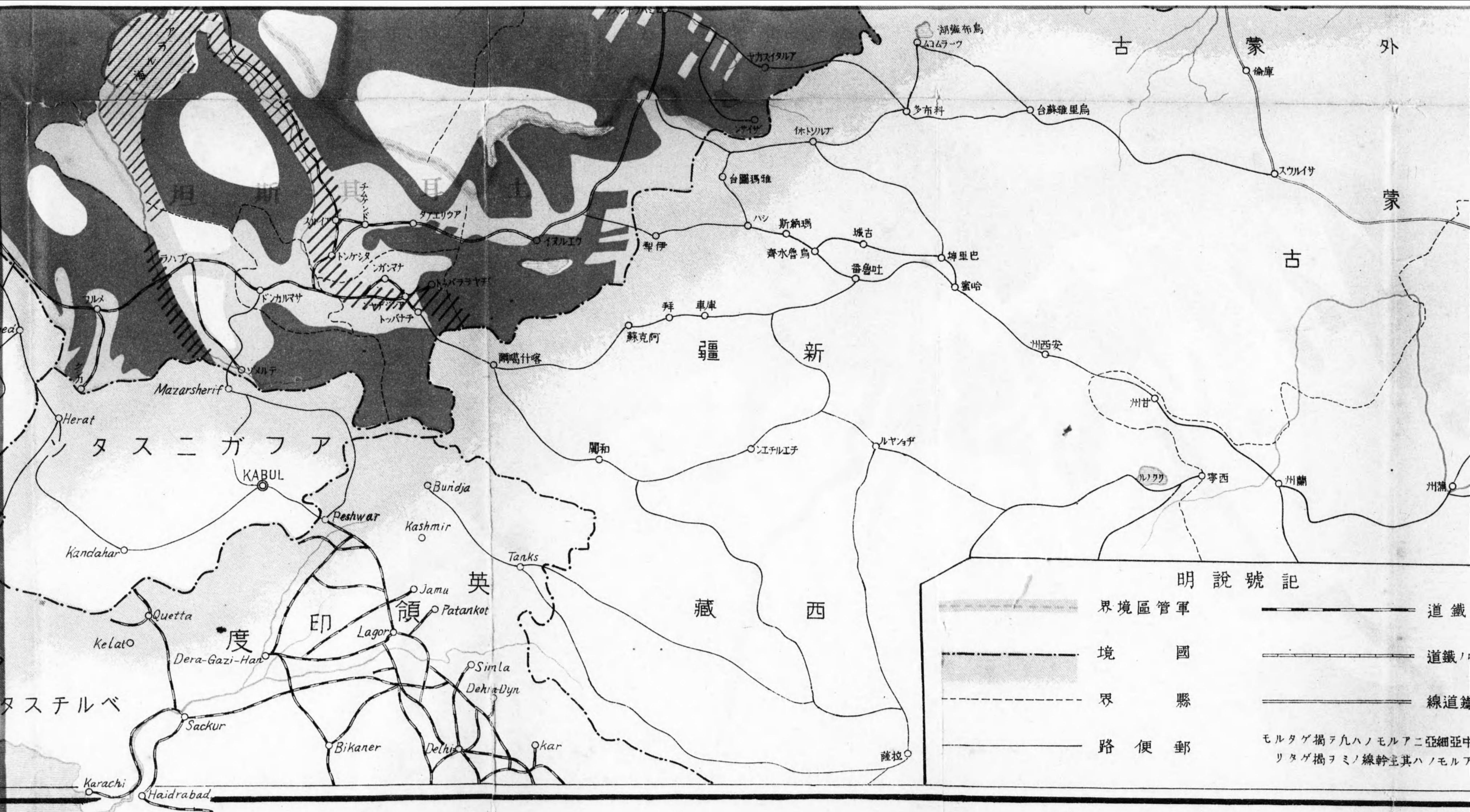
關和

關和



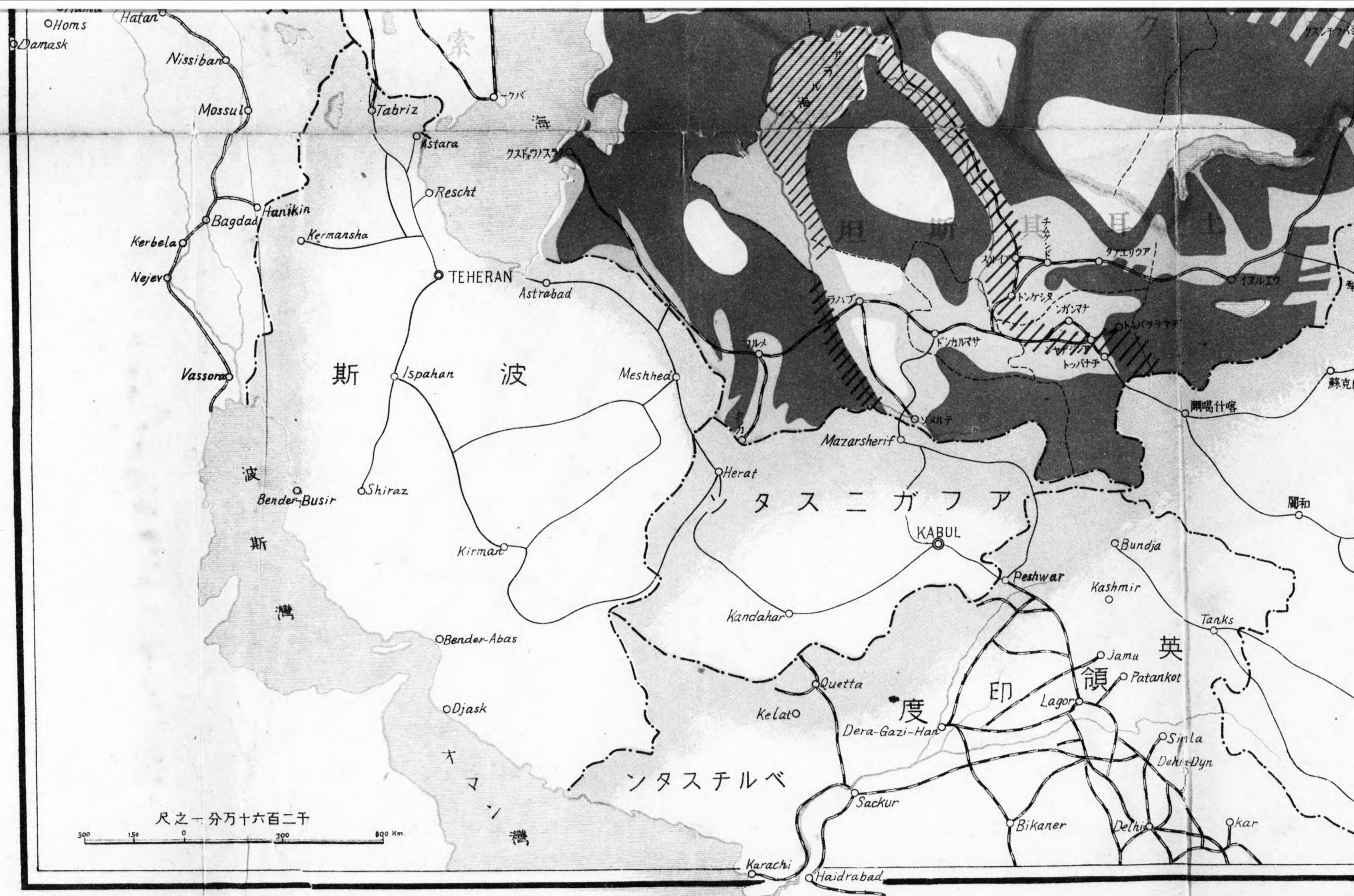
明 說 號 記

- | | | | |
|--|-----------|--|-------------|
| | 界 境 區 管 軍 | | 道 鐵 成 既 |
| | 境 國 | | 道 鐵 / 中 事 工 |
| | 界 縣 | | 線 道 鐵 定 豫 |
| | 路 便 郵 | モルタゲ掲テ九ハノモノアニ亞細亞中線道鐵
リタゲ掲ヲミノ線幹其ハノモルアニ露歐 | |

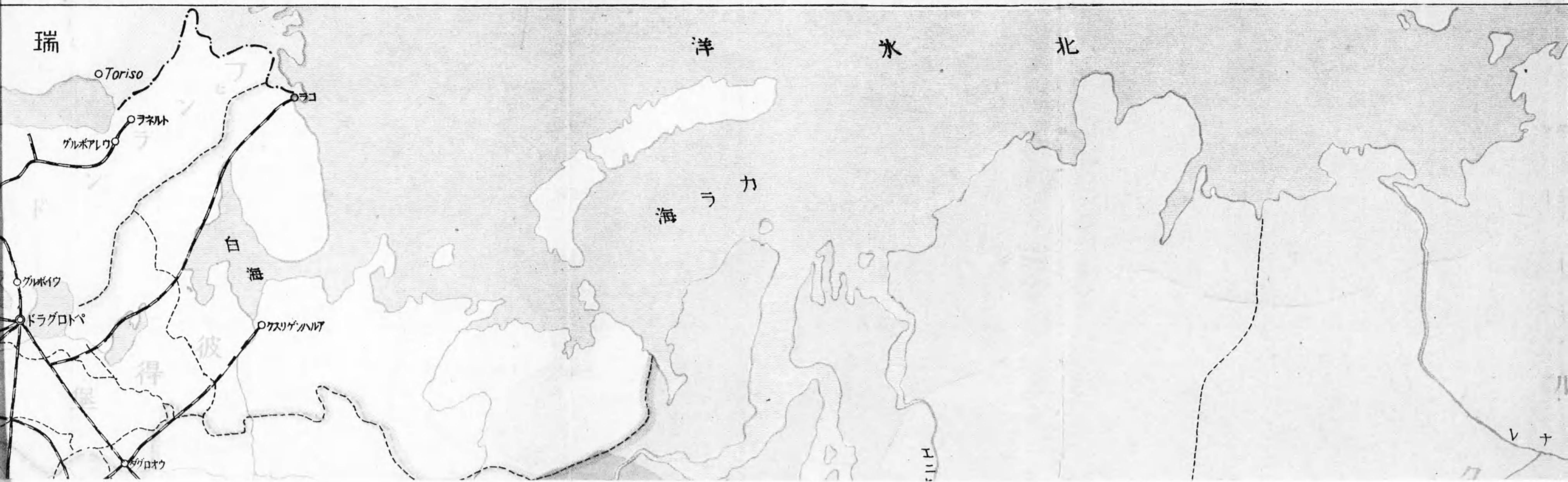


明説號記

- | | | | |
|--|-------|--|-----|
| | 軍管區境界 | | 鐵道 |
| | 國境 | | 鐵道線 |
| | 縣界 | | 鐵道線 |
| | 郵便路 | | |
- モルタゲ掲テ丸ハノモルアニア細亞中
リタゲ掲ヲミノ線幹主其ハノモルア

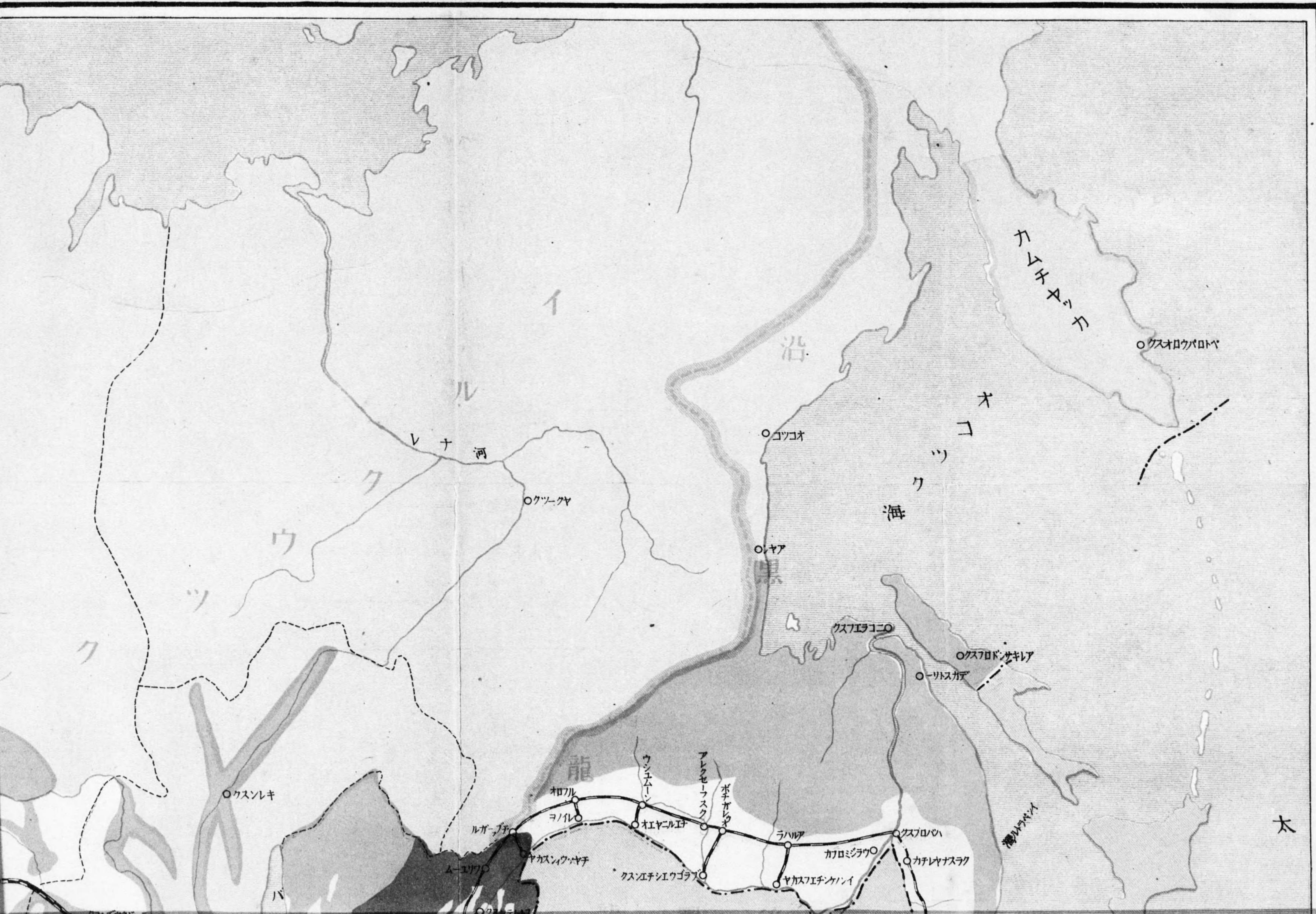


西伯利亞之森林地帶及其區分



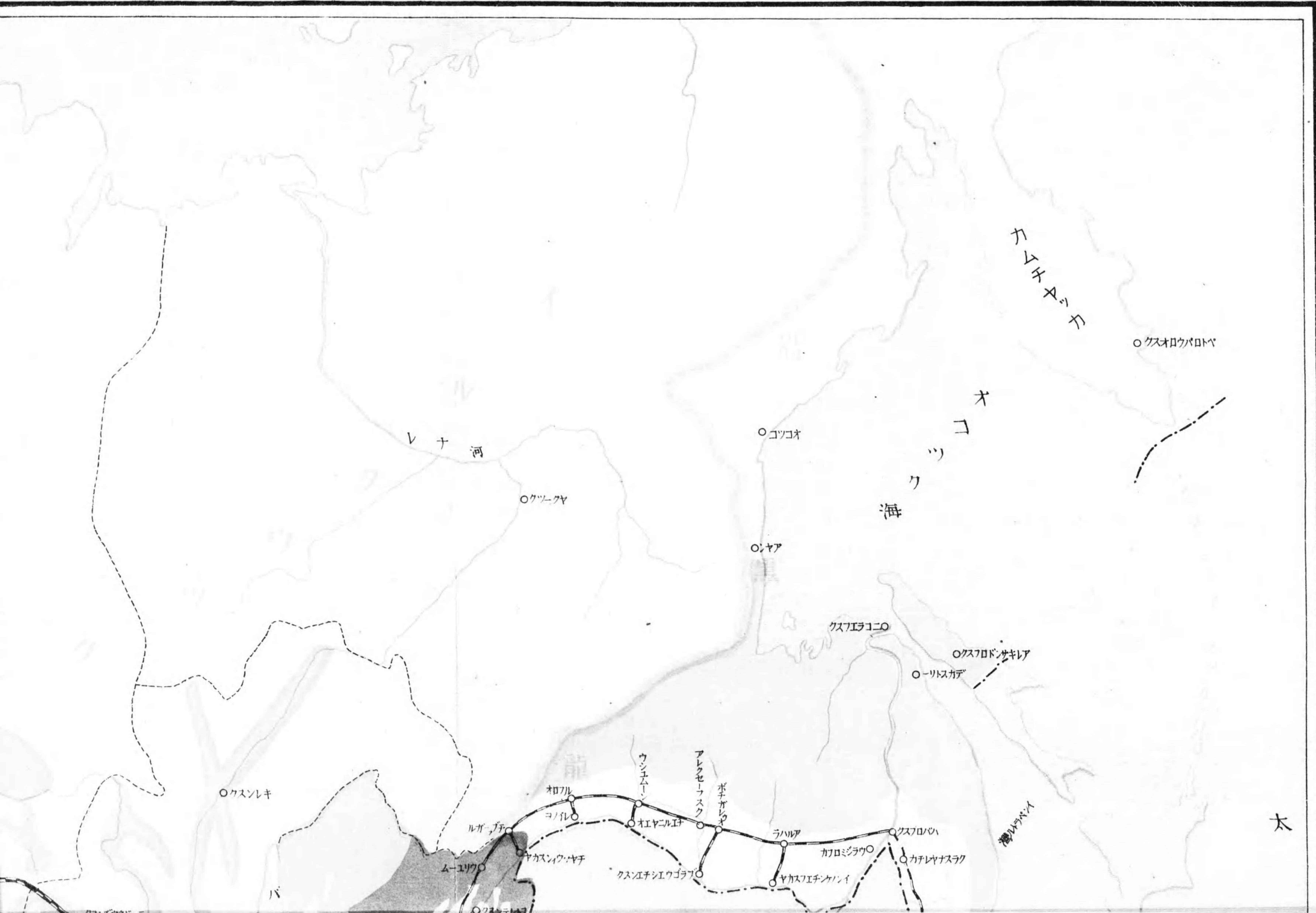
西伯利ニ於テ

露光量違いの為重複撮影



西伯利ニ於テ

露光量違いの為重複撮影

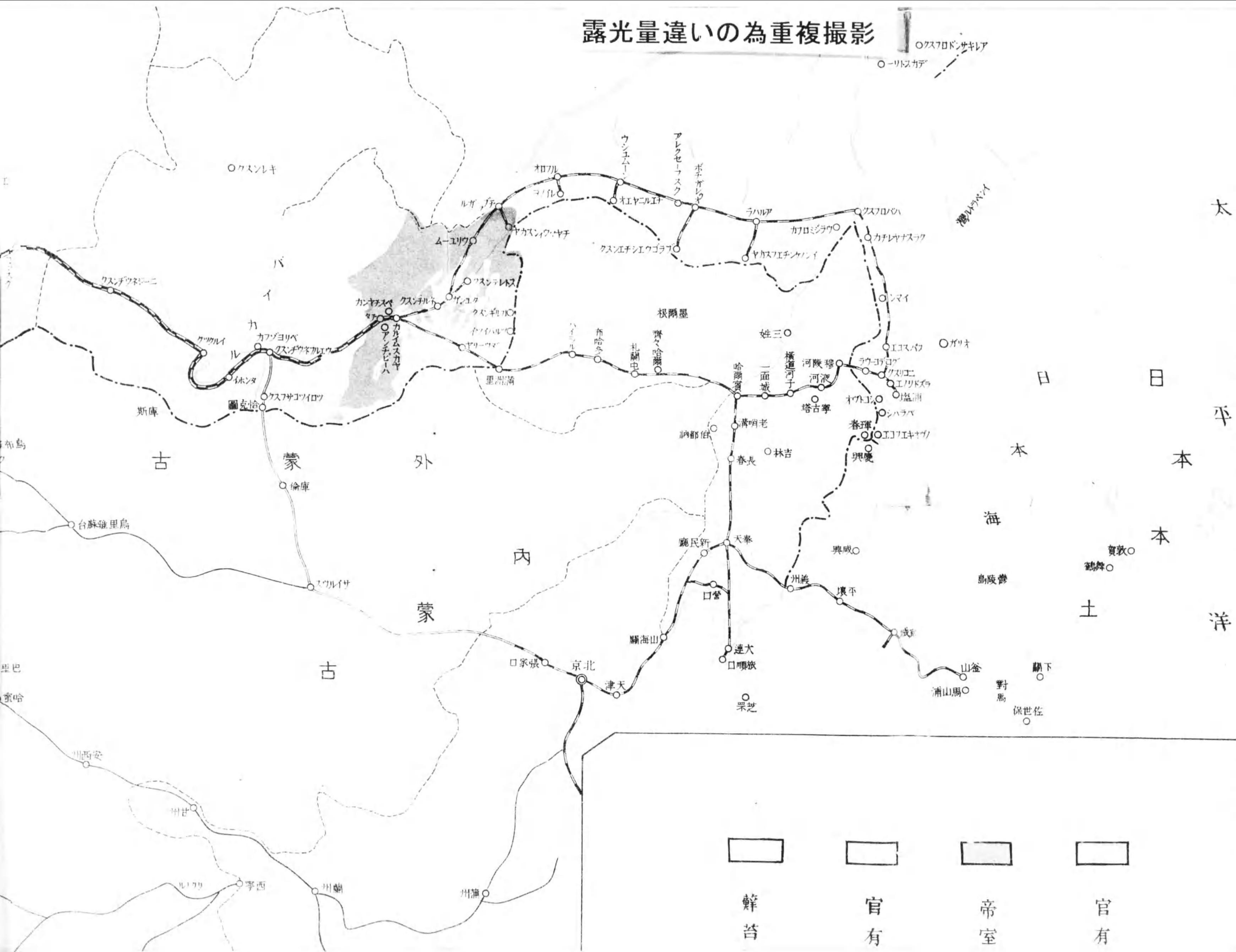


西伯利亚及地区 影相重複の爲の光量露 西伯利亚

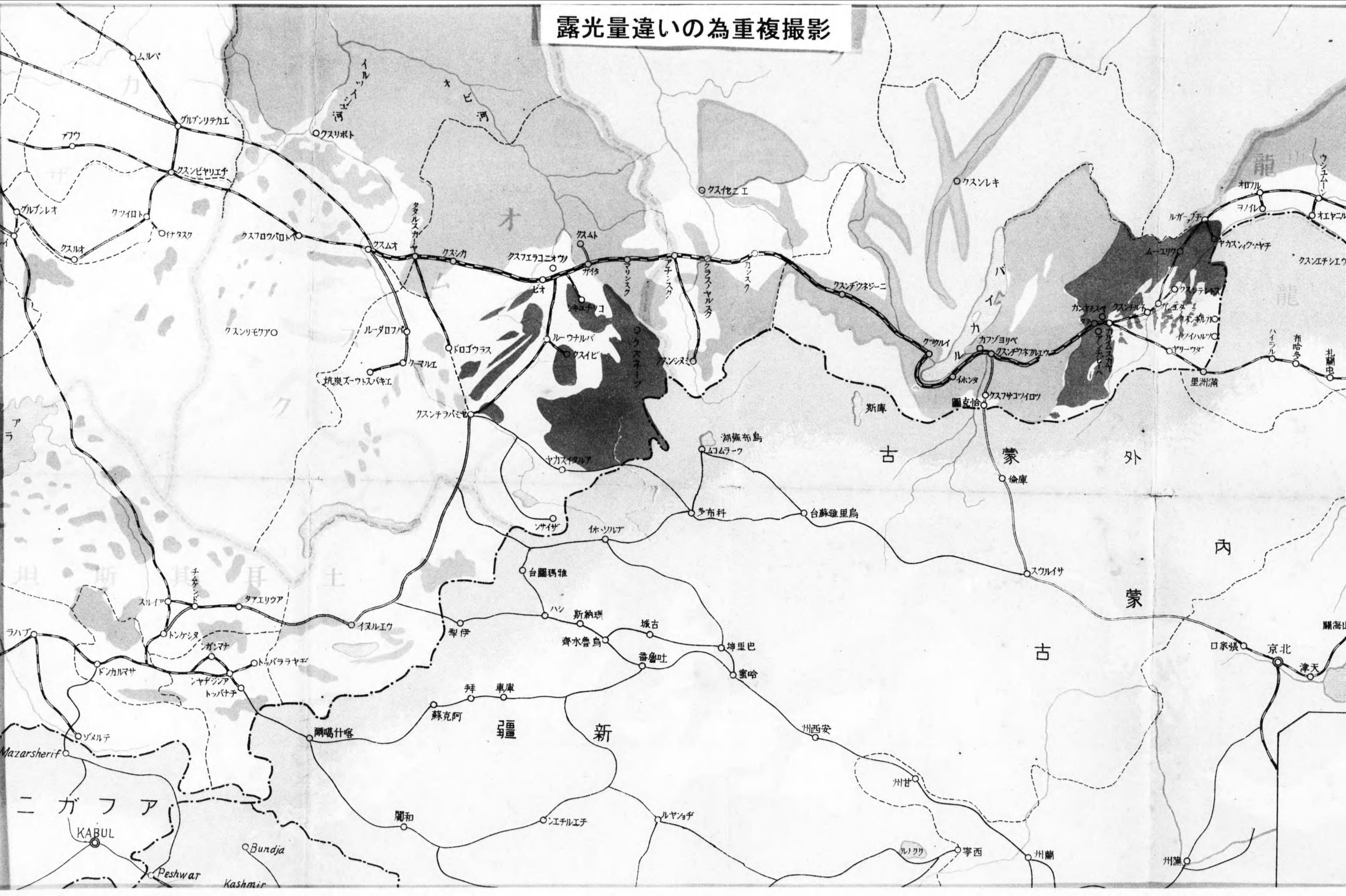


露光量違いの為重複撮影

○クスフロドシキリア
○リスガデ

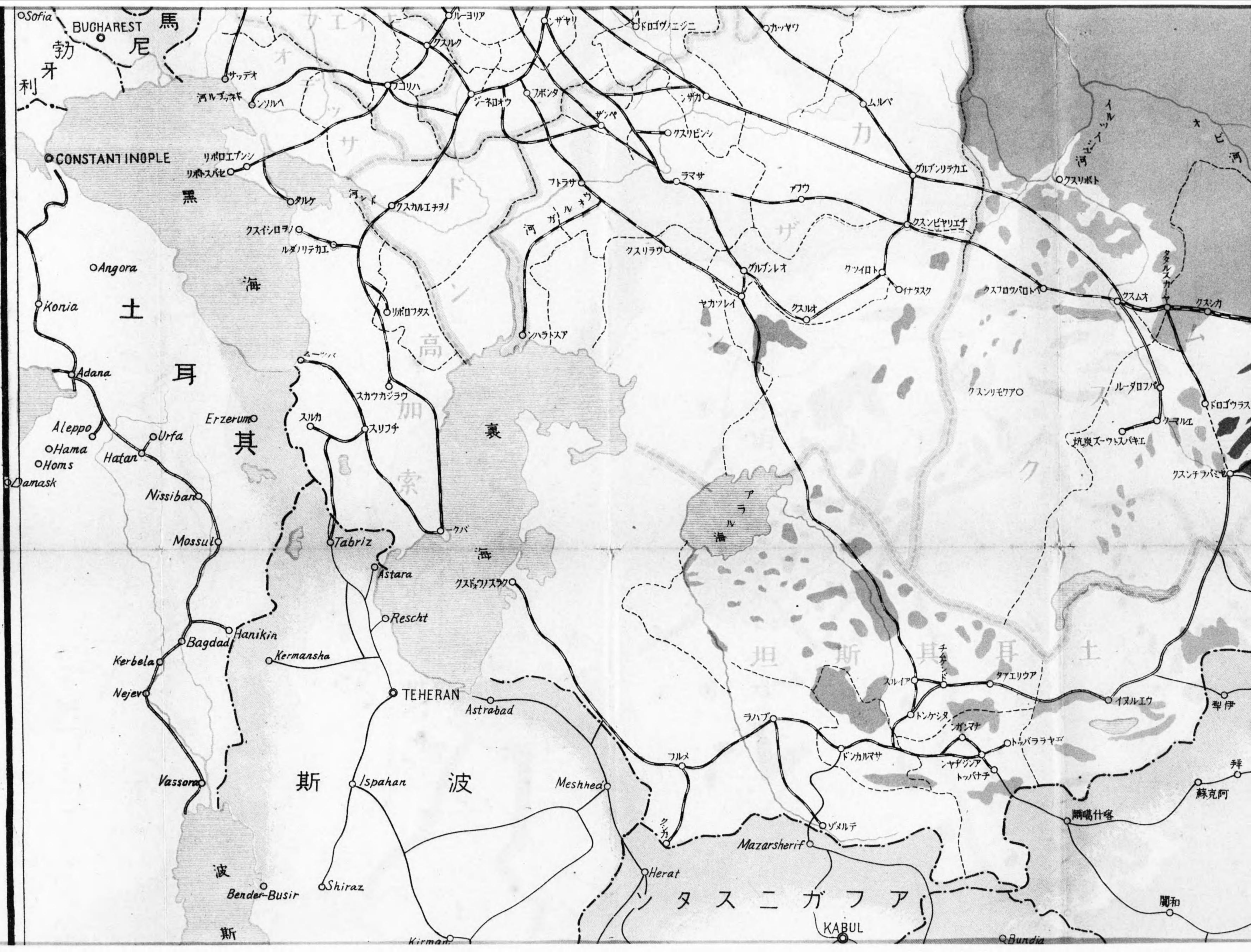


露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影





○Sofia
BUCHAREST 馬尼
勃利牙

○CONSTANTINOPLE

○Angora

Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs

Damask

Urfa

Hatan

Nissiban

Mossul

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

Shiraz

Ispahan

TEHERAN

Astrabad

Meshhed

Herat

Mazarsherif

KABUL

○Sofia

BUCHAREST

○サッテオ

○ソルハ

○リポロエフソ

○リポロバセ

○タルケ

○クスイシロヲノ

○ルダリテカエ

○Angora

Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs

Damask

Urfa

Hatan

Nissiban

Mossul

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

Shiraz

Ispahan

TEHERAN

Astrabad

Meshhed

Herat

Mazarsherif

KABUL

○Sofia

BUCHAREST

○サッテオ

○ソルハ

○リポロエフソ

○リポロバセ

○タルケ

○クスイシロヲノ

○ルダリテカエ

○Angora

Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs

Damask

Urfa

Hatan

Nissiban

Mossul

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

Shiraz

Ispahan

TEHERAN

Astrabad

Meshhed

Herat

Mazarsherif

KABUL

○Sofia

BUCHAREST

○サッテオ

○ソルハ

○リポロエフソ

○リポロバセ

○タルケ

○クスイシロヲノ

○ルダリテカエ

○Angora

Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs

Damask

Urfa

Hatan

Nissiban

Mossul

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

Shiraz

Ispahan

TEHERAN

Astrabad

Meshhed

Herat

Mazarsherif

KABUL

○Sofia

BUCHAREST

○サッテオ

○ソルハ

○リポロエフソ

○リポロバセ

○タルケ

○クスイシロヲノ

○ルダリテカエ

○Angora

Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs

Damask

Urfa

Hatan

Nissiban

Mossul

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

Shiraz

Ispahan

TEHERAN

Astrabad

Meshhed

Herat

Mazarsherif

KABUL

○Sofia

BUCHAREST

○サッテオ

○ソルハ

○リポロエフソ

○リポロバセ

○タルケ

○クスイシロヲノ

○ルダリテカエ

○Angora

Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs

Damask

Urfa

Hatan

Nissiban

Mossul

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

Shiraz

Ispahan

TEHERAN

Astrabad

Meshhed

Herat

Mazarsherif

KABUL

○Sofia

BUCHAREST

○サッテオ

○ソルハ

○リポロエフソ

○リポロバセ

○タルケ

○クスイシロヲノ

○ルダリテカエ

○Angora

Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs

Damask

Urfa

Hatan

Nissiban

Mossul

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

Shiraz

Ispahan

TEHERAN

Astrabad

Meshhed

Herat

Mazarsherif

KABUL

○Sofia

BUCHAREST

○サッテオ

○ソルハ

○リポロエフソ

○リポロバセ

○タルケ

○クスイシロヲノ

○ルダリテカエ

○Angora

Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs

Damask

Urfa

Hatan

Nissiban

Mossul

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

Shiraz

Ispahan

TEHERAN

Astrabad

Meshhed

Herat

Mazarsherif

KABUL

○Sofia

BUCHAREST

○サッテオ

○ソルハ

○リポロエフソ

○リポロバセ

○タルケ

○クスイシロヲノ

○ルダリテカエ

○Angora

Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs

Damask

Urfa

Hatan

Nissiban

Mossul

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

Shiraz

Ispahan

TEHERAN

Astrabad

Meshhed

Herat

Mazarsherif

KABUL

○Sofia

BUCHAREST

○サッテオ

○ソルハ

○リポロエフソ

○リポロバセ

○タルケ

○クスイシロヲノ

○ルダリテカエ

○Angora

Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs

Damask

Urfa

Hatan

Nissiban

Mossul

Kerbela

Nejev

Vassora

Bender-Busir

Shiraz

Ispahan

TEHERAN

Astrabad

Meshhed

Herat

Mazarsherif

KABUL

○Sofia

BUCHAREST

○サッテオ

○ソルハ

○リポロエフソ

○リポロバセ

○タルケ

○クスイシロヲノ

○ルダリテカエ

○Angora

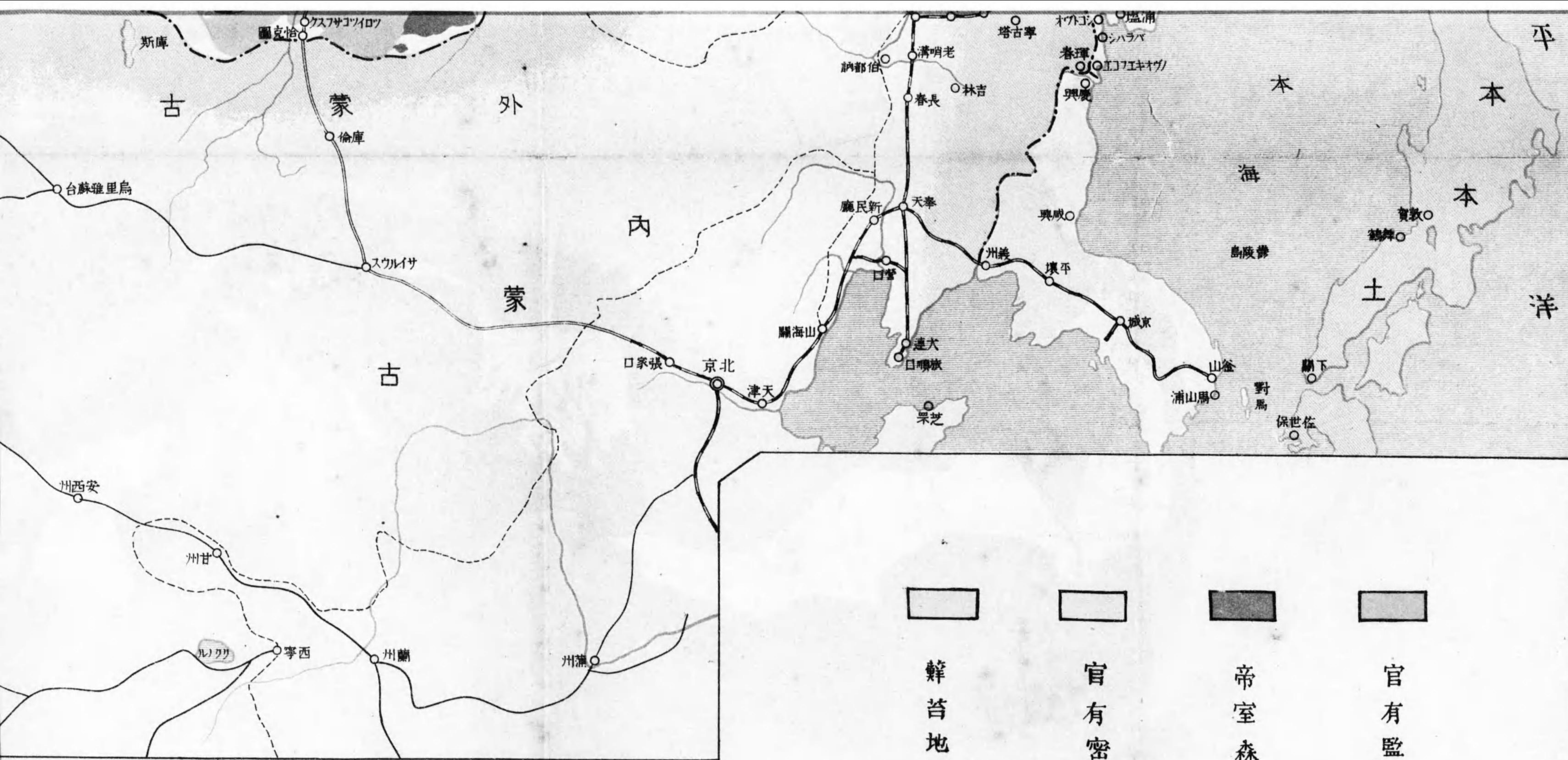
Konia

Adana

Aleppo

○Hama

○Homs



韓
首
地

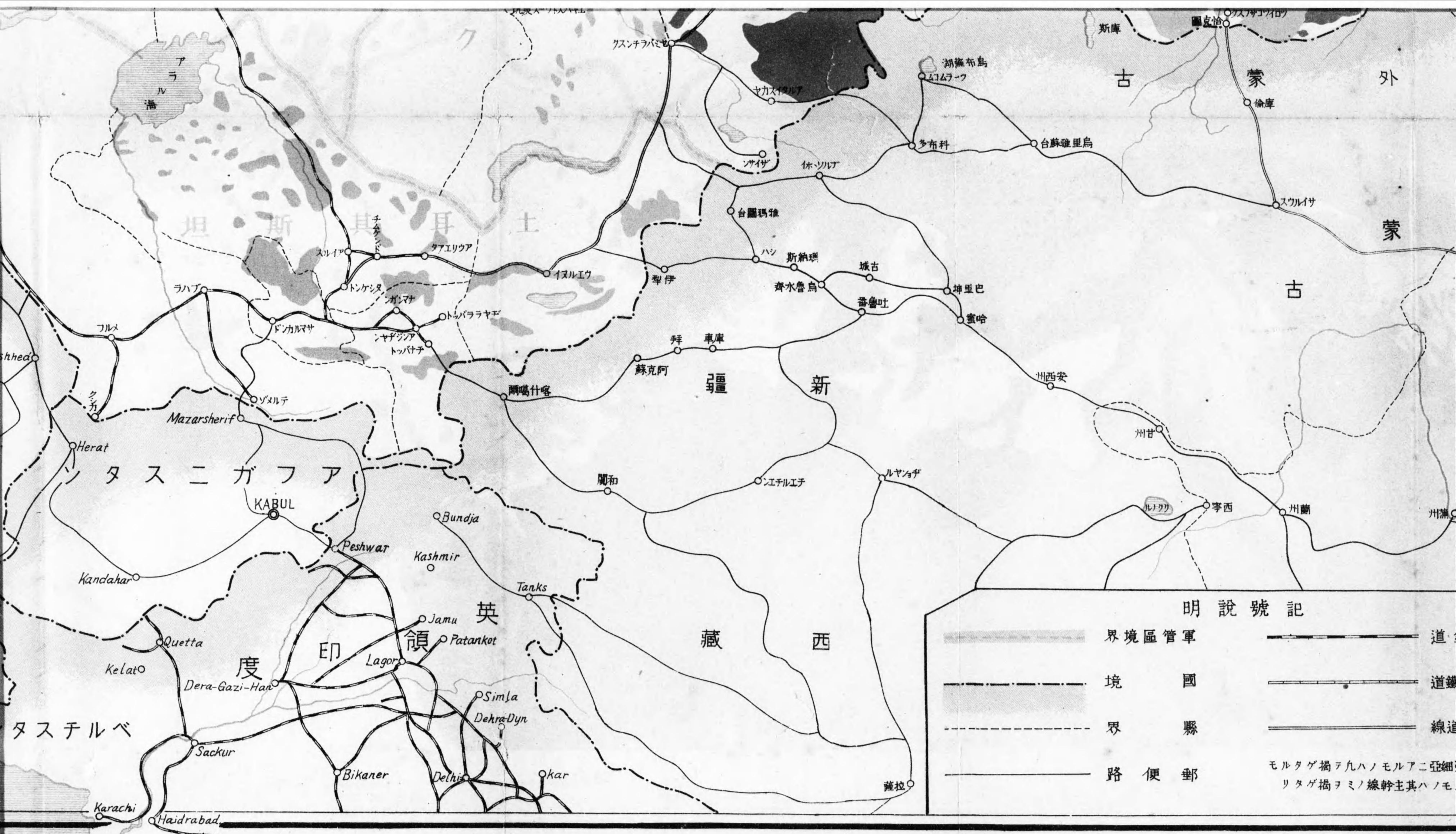
官
有
密
林

帝
室
森
林

官
有
監
督
森
林

明 說 號 記

- | | | | |
|--|-----------|---|-------------|
| | 界 境 區 管 軍 | | 道 鐵 成 既 |
| | 境 國 | | 道 鐵 / 中 事 工 |
| | 界 縣 | | 線 道 鐵 定 豫 |
| | 路 便 郵 | モルタゲ掲テ凡ハノモルアニ亞細亞中線道鐵
リタゲ掲ヲミノ線幹主其ハノモルアニ露歐 | |



本書所載露國度量衡換算表

尺度ノ部

サーゼン
アルシン
ウエルシヨック
露里

面積ノ部

デシヤチン

衡量ノ部

布度
フント
ゾロトニツク
ドーリヤ

容量ノ部

ウヨゾロ

貨幣ノ部

留
哥

七尺四分九厘
二尺三寸四分六厘四毛
一寸四分七厘
九町四十五間
一町一反四畝八步

一町一反四畝八步

四貫三百六十匁五分
百九匁一厘

一匁一分三厘
一厘二毛

六升八合一勺七才

一圓三錢(二圓)
一錢

頁行

誤

正

九

接壤し(以下之に準ず)

接壤し

一三

ラジネフ

ラジネフ

二二

凱興湖(以下皆之に準ず)

凱興湖

二四

食とする馴鹿

食とする極獸

二九

ミスモンズク

ミスモンズク

五七

エニセイスクアテヤ

エニセイスクオステヤ

八一

セミバラチンスクウス

セミバラチンスクウス

一〇七

五四、七〇〇(エニセイ)

五五、七〇〇(エニセイ)

一一〇

移民運動

移民運動

一一〇

アトバサール

アトバサール

一一三

敵の捉ふる

敵の捉ふる

一三九

二百デシヤチン

二百萬デシヤチン

同

マロクラスノヤルスク

クラスノヤルスク

一四九

ヤクーツク州の二州

ヤクーツク州後貝加爾州の二州

同

後貝加爾黒龍江の兩地方

黒龍江地方

一五一

ヤクーツク州を包含し

ヤクーツク州後貝加爾州を包含し

同

後貝加爾黒龍沿海

黒龍沿海

一五四

後貝加爾州はイルクーツク縣の次三極東の前に

後貝加爾州はイルクーツク縣の次三極東の前に

一七四

河の支流兩河

河の支流兩河

一七六

採金法(浚泥機)

採金法(浚泥機)

一八〇

シヤマンカ、説河畔

シヤマンカ、諸河畔

同

内鐵

内鐵

頁行

誤

正

一九三

一八〇八年

一九〇八年

二二

二乃至三アルシン

二乃至三アルシン

二二九

チスカリンズク

チスカリンズク

二二〇

コクヤコフ

コクヤコフ

二二二

リヤコフ

コクヤコフ

二二五

コクイエタウスク郡

コクイエタウスク郡

二二七

肉、紅玉

肉、紅玉

二三四

サカンスク

サカンスク

二四三

大二、二六九

九二、二六九

二五一

水分二、二%

水分一、二%

二八二

小羊

山羊

二九二

若驢にて作りたる

若驢にて作りたる

三〇三

タヤオリガ

タヤ、オリガ

三三三

チユルキマクマリイン

チユルキマクマリイン

三二五

盛大となれり

盛大となれり

三二七

幼獸哺育期

幼獸哺育期

三二八

に付約三、留

に付約三百留

三三七

柔毛業

柔毛業

三四〇

柳條製籃

柳條製籃

四〇八

白小羊

白山羊

四〇九

原料品を輸入する

原料品を輸入する

同

カア河エニセイ河(の)

カア河(エニセイ河の)

四五一

多きは六割

多きは六割

五五五

四百九十里

四百九十里

六二九

十一月二十七日

十一月二十七日

(備考) ●印ハ特ニ御注意ヲ請フ

大正七年十一月十七日印刷
大正七年十一月二十日發行

西伯利經濟地理奧付

定價金參圓九拾錢

不許
複製

著者

井 染 祿 郎

發行者

上 原 好 雄

印刷者

金 子 鐵 五 郎

印刷所

金 子 印 刷 所

東京市麴町區下二番町六十八番地

東京市赤坂區新町五丁目四十二番地

東京市赤坂區新町五丁目四十二番地

發行所

東京市麴町區下二番町六十八番地
振替口座東京六〇二〇番

外交時報社出版部

電話番町五〇二九番

法學博士 有賀長雄先生著

(最新刊)

支那正觀

四六版總クローリス
函入上製
全壹册
定價 金壹圓貳拾錢
郵稅 金八錢

博士は人も知る如く中華民國に憲法顧問たり。具さに彼地の制度文物を究むること茲に六年、今や始めて其の蘊蓄を剝削に附す。東洋文學の淵源たる支那思想の眞髓は博士の明敏犀利なる觀察眼を通して紙上に躍如たり。或は西洋文明との對比を説き或は日本文明との交渉を論ず。量に於ては必ずしも多しとせずと雖も、質に於ては則ち興趣津津々、苟も文事に一片の志を寄するの士の必讀を値するもの。附するに文學論及聖門哲學論の兩雄篇を以てし博士二十年來の一貫せる文學論を窺はしむ。敢て江湖諸賢の繙讀を慫慂して已まざる所以也。

發行所

東京市麴町區下二番町六八
振替東京六〇二一〇番

外交時報社出版部

電話番町五〇二九番



終

